

日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略（第2期） 施策検証結果報告書（令和5年度）



(左上：西桜谷ちよいのり会 左下：ひのみんなの食堂ネットワーク 右上：移住就農マッチングツアー 右下：近江日野商人サミット)

令和6年10月
日野町総合計画懇話会

目 次

1. はじめに.....	1
2. 検証方法.....	3
3. 基本目標別検証結果.....	7
4. 施策検証結果一覧.....	17
基本目標（1）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	18
基本目標（2）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる.....	21
基本目標（3）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる.....	23
基本目標（4）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる.....	25
5. 施策別検証内容（施策検証シート）.....	29
基本目標（1）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	30
基本目標（2）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる.....	41
基本目標（3）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる.....	49
基本目標（4）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる.....	55
6. デジタル田園都市国家構想交付金事業の検証.....	70
7. 検証のまとめ.....	72
1) 量的（KPI）検証のまとめ.....	73
2) 質的（取組内容）検証のまとめ.....	74
3) 基本目標別のまとめ.....	75
4) 総合戦略の検証の実施について ～PDCAサイクルの確立～.....	78
5) まとめ.....	79
8. 資料編.....	87
1) 用語解説.....	88
2) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会の開催.....	91
3) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会委員名簿.....	91

1. はじめに

1) 総合戦略の検証の実施について

日野町では、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定される市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として、平成27年10月に「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」（以下「総合戦略」）を策定しました。

第2期総合戦略は、人口減少が進むなか、安心して暮らせるまちをつくりそのまちの魅力で交流人口および定住者人口を増やし、持続的に発展する日野町をつくることを目指し、平成27年度からの6年間の基本的な方向と施策の取り組みを定めた第1期総合戦略の取り組みを踏まえ、まちづくりの指針として策定した第6次日野町総合計画の取り組みのなかから、人口減少、超高齢社会対策に特化した施策を総合戦略の取り組みとしています。

総合戦略の取り組みは、その効果を定期的・多角的に評価し、検証結果を踏まえ、さらに効果的・効率的な取り組みを推進していくことが求められます。このことから、毎年度の事業完了後に基本目標と施策についての取り組み状況を外部有識者等の参画のもとに効果検証することにより、その検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行うPDCAサイクルを確立し、総合戦略を着実に推進するために実施するものです。

2) 検証にあたっての着目点など

総合戦略の検証を進めるにあたって、次の着目点により検証を実施しました。

- ① 総合戦略に掲げる「めざす姿」の実現に向けて、4つの基本目標の総合的な自己点検が実施され、事業の見直しも含めた今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。

（めざす姿）

人と人がつながり、顔の見える関係のもと、結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえるとともに、本町の強みや魅力を活かした取り組みを進めることで、暮らしを支える雇用をつくります。

また、歴史文化や町並み等を活かし、地域の魅力を育むことで、新たな人の流れをつくるとともに、住民が自ら考え自ら行動することで、人が集い安心して暮らせる地域をつくることをめざします。

さらに、観光、農業、商工業などの本町の特性を活かし、本町の外ともつながり、域外からも活力を呼び込むとともに、地域内経済循環につなげ、地域の経済を強く保っていくことをめざします。

また、人口減少は、その歯止め時間に時間を要し、歯止めをかけたとしても一定の人口減少が進行していくと見込まれます。地域での暮らしや教育・福祉が確保され、まち全体の生産性の向上を継続していく等、人口減少に適応した地域を着実に作っていくことをめざします。

- ② 施策の取り組みについて、基本目標および基本的方向性を踏まえた取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ③ 施策の取り組みについて、施策の内容を十分に理解したうえで取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ④ 施策の取り組みについて、重要業績評価指標（KPI）の実績だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実ができていないか。

2. 検証方法

1) 施策の検証方法

施策の検証については、施策毎に取り組み状況等をまとめた「施策検証シート」を作成し、懇話会委員の合議性により検証を実施しました。

「施策検証シート」の検証項目には、施策毎の目標値にあたる「重要業績評価指標（KPI）の達成度」だけでなく、施策の取り組み内容の質について検証を行うため、「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」を加えた5項目としました。

2) 施策の検証結果

検証結果については、30点満点とし、「施策の検証基準」に基づき、量的検証項目として重要業績評価指標（KPI）の達成度、質的検証項目として4項目の採点を行い、5項目の合計点数により5段階の検証結果としました。

【量的検証項目】・・・点数配分10点

量的な検証として、年度別の重要業績評価指標（KPI）の目標値に対する実績値の達成度を検証しました。なお、重要業績評価指標（KPI）が複数設定されている施策については、平均点を点数としました。

検証による点数配分は、次のとおりです。

点数	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
KPI の達 成度	100%	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%
		未満～ 90%以 上	未満～ 80% 以上	未満～ 70% 以上	未満～ 60% 以上	未満～ 50% 以上	未満～ 40% 以上	未満～ 30% 以上	未満～ 20% 以上	未満～ 10% 以上	未満～ 0%以 上

年度別の重要業績評価指標（KPI）に関する検証結果を次のとおり5段階としました。

KPIの検証結果	重要業績評価指標（KPI） の達成度	重要業績評価指標（KPI） の検証点数
量S	100% ～ 90%以上	10点 ～ 9点
量A	90%未満 ～ 70%以上	8点 ～ 7点
量B	70%未満 ～ 50%以上	6点 ～ 5点
量C	50%未満 ～ 30%以上	4点 ～ 3点
量D	30%未満 ～ 0%以上	2点 ～ 0点

【質的検証項目】・・・点数配分20点

「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」の4項目について検証を行った。

検証による点数配分は、次のとおりです。

検証項目	5点	4点	3点	2点	1点
【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証が できているか	施策の内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	施策の内容を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	施策の内容を理解し取り組みができている	概ね施策の内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	施策の内容を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	施策の内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	施策の内容を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね施策の内容を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない
【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、取り組みにより達成している	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	基本目標と基本的方向を理解し取り組みができている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	基本目標と基本的方向を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない

質的検証を行った4項目の合計点数により、質的な検証結果を次のとおり5段階としました。

質的検証結果	質的検証結果の内容	質的検証を行った4項目の合計点数
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	20点 ～ 17点
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている	16点 ～ 13点
質B	内容を理解し、取り組みができている	12点 ～ 9点
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	8点 ～ 5点
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	4点 ～ 1点

【検証結果】

量的検証項目（KPI）および質的検証項目（4項目）の検証点数の合計点数により次のとおり、施策の検証結果とすることとしました。

検証結果	検証結果内容	5項目の合計点数
S	目標を達成している	30点～25点
A	優れている	24点～19点
B	実施できている	18点～13点
C	工夫が必要	12点～7点
D	改善が必要	6点～1点

【施行策の検証基準】

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略		施策の検証基準											
30点満点		達成		優		良		発展途上		改善が必要			
数量的検証	①	KPIの達成度 ※KPIが複数の場合は、平均点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
		100%	100%未満～90%以上	90%未満～80%以上	80%未満～70%以上	70%未満～60%以上	60%未満～50%以上	50%未満～40%以上	40%未満～30%以上	30%未満～20%以上	20%未満～10%以上	10%未満～0%以上	
質的検証	②	【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証ができていますか	5点		4点		3点		2点		1点		
	③	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	5点		4点		3点		2点		1点		
	④	【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができていますか	5点		4点		3点		2点		1点		
	⑤	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	5点		4点		3点		2点		1点		
	合計検証点数												
													
合計検証点数		30点～25点	24点～19点	18点～13点	12点～7点	6点～1点							
⑥検証結果		S 目標を達成している	A 優れている	B 実施できている	C 工夫が必要	D 改善が必要							

3) 基本目標別の検証

基本目標の検証については、めざす姿の実現に向けて、基本目標別にまとめられた取り組み状況と今後の取り組み、基本目標を構成する施策の検証結果を踏まえ、総合的に基本目標を検証し、その検証内容をコメントとしてまとめました。

4) デジタル田園都市国家構想交付金事業の検証

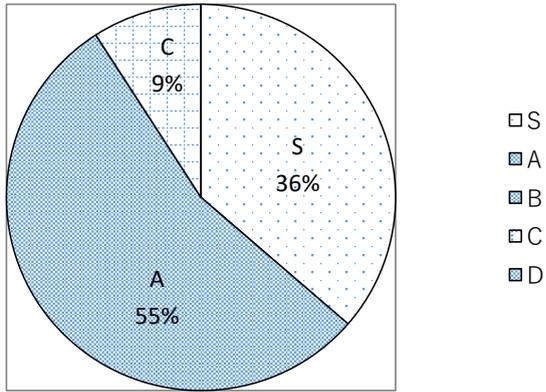
デジタル田園都市国家構想交付金事業の検証については、国から外部有識者による効果検証が求められていることから、総合計画懇話会で検証を行うこととしました。効果検証については、重要業績評価指標（KPI）の達成度に加え、関連する施策の検証結果を踏まえ、事業として有効であったかを検証することとしました。

3. 基本目標別検証結果

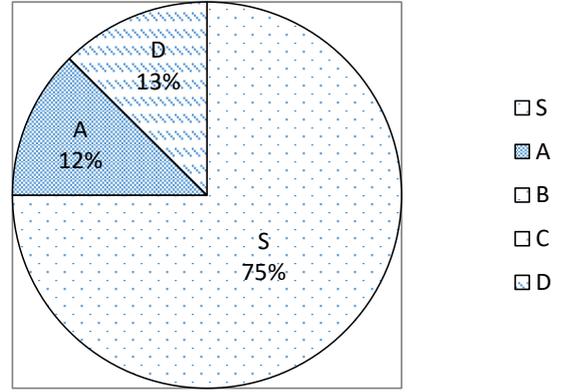
No.	基本目標	年度	検 証 結 果					合計
			達成度 100%～90%以上	達成度 90%未満～70%以上	達成度 70%未満～50%以上	達成度 50%未満～30%以上	達成度 30%未満～0%以上	
			量S	量A	量B	量C	量D	
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	R3	7	1	2	1	0	11
		R4	6	4	0	1	0	11
		R5	4	6	0	1	0	11
		R6						
		R7						
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	R3	7	0	0	0	1	8
		R4	7	1	0	0	0	8
		R5	6	1	0	0	1	8
		R6						
		R7						
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	R3	4	1	0	0	1	6
		R4	3	2	0	0	1	6
		R5	2	2	2	0	0	6
		R6						
		R7						
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	R3	7	6	2	0	0	15
		R4	8	4	2	1	0	15
		R5	9	4	2	0	0	15
		R6						
		R7						
総合計		R3	25	8	4	1	2	40
		R4	24	11	2	2	1	40
		R5	21	13	4	1	1	40
		R6						
		R7						

基本目標別量的（KPI）検証結果

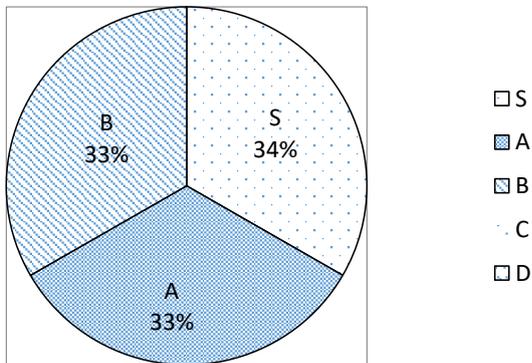
1. 結婚・出産・子育ての希望を
みんなで支えてかなえる



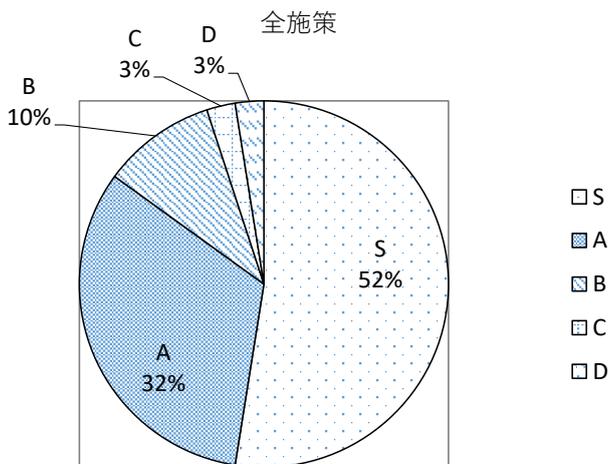
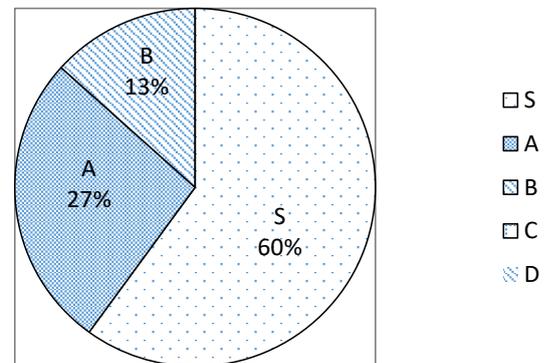
2. 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らし
を支える雇用をつくる



3. まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の
流れをつくる



4. 暮らしやすい地域を育み、安心して住み続け
られるまちをつくる



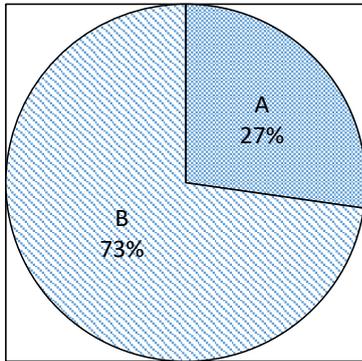
全施策の量的（KPI）検証結果では、量S（達成度100%～90%）が21施策、52%と最も多く、次いで、量A（達成度90%～70%）が13施策、32%となりました。

また、基本目標別の量的（KPI）検証結果でも、4つの基本目標とも、量S（達成度100%～90%）が最も多くなりました。

No.	基本目標	年度	検証結果					合計
			内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができています	内容を理解し、取り組みができています	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり内容を踏まえて取り組めていない	
			質S	質A	質B	質C	質D	
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	R3	0	0	7	4	0	11
		R4	0	0	11	0	0	11
		R5	0	3	8	0	0	11
		R6						0
		R7						0
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	R3	0	0	5	3	0	8
		R4	0	0	7	1	0	8
		R5	0	1	6	1	0	8
		R6						0
		R7						0
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	R3	0	0	6	0	0	6
		R4	0	1	4	1	0	6
		R5	0	1	5	0	0	6
		R6						0
		R7						0
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	R3	0	0	13	2	0	15
		R4	0	1	14	0	0	15
		R5	0	1	13	1	0	15
		R6						0
		R7						0
総合計		R3	0	0	31	9	0	40
		R4	0	2	36	2	0	40
		R5	0	6	32	2	0	40
		R6						
		R7						

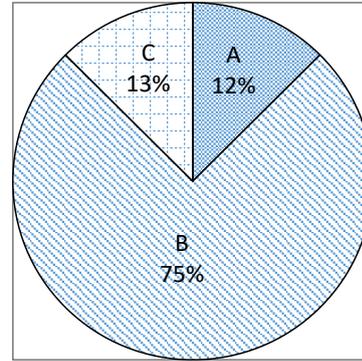
基本目標別質的（取組内容）検証結果

1. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えて
かなえる



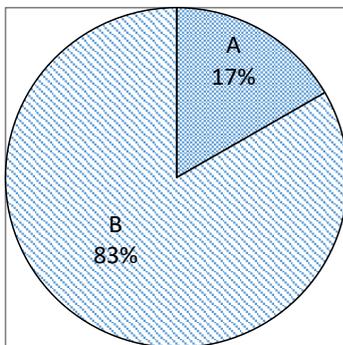
□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

2. 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らし
を支える雇用をつくる



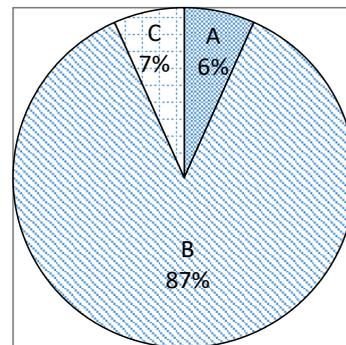
□ S
■ A
■ B
□ C
■ D

3. まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の
流れをつくる



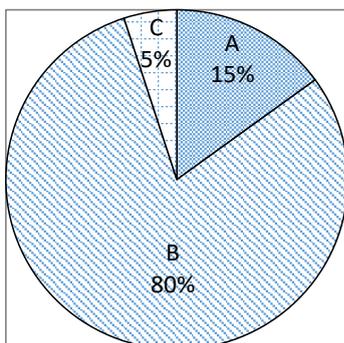
□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

4. 暮らしやすい地域を育み、安心して住み続け
られるまちをつくる



□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

全施策



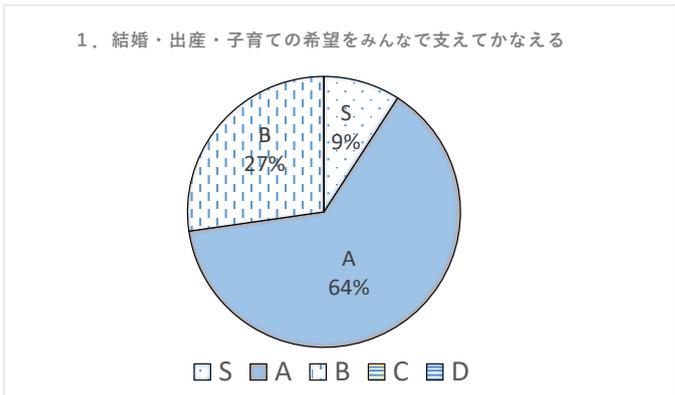
□ S
■ A
■ B
□ C
□ D

全施策の質的（取組内容）検証結果では、質B（内容を理解し、取り組みができています）が32施策、80%と最も多く、次いで、質A（内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができています）が6施策の15%、および質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）も2施策の5%となりました。

また、基本目標別の質的（取組内容）検証結果でも、4つの基本目標とも、質B（内容を理解し、取り組みができています）が最も多くなりました。

基本目標 (1)	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる
地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	

指標名	基準値 (R1)	重要業績評価指標 (KPI)					目標値 (R7)
		R3	R4	R5	R6		
1 出生数 (住民基本台帳) 過去3年平均	149 人	目標	156 人	160 人	163 人	166 人	170 人
		実績	135 人	122 人	115 人		
		達成率	86.5%	76.3%	70.6%		
取り組みに関する基本的方向	<p>○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。</p>						
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	R3	0	5	5	1	0	11
	R4	0	6	5	0	0	11
	R5	1	7	3	0	0	11
	R6						0
R7						0	

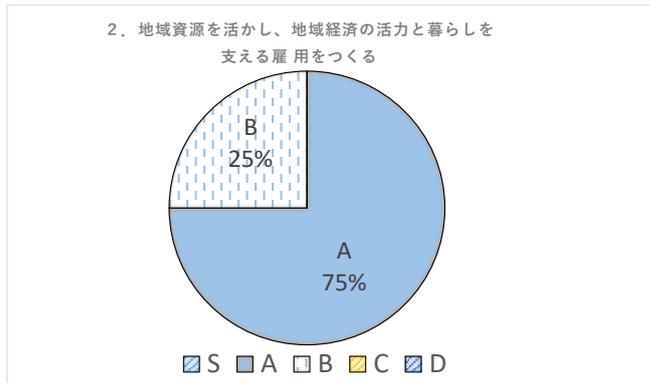


基本目標①「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」を構成する施策の検証結果は、S (目的を達成している) が1施策、9%、A (優れている) が7施策、64%、B (実施できている) が3施策、27%となりました。

基本目標に対するコメント (まとめはP.75参照)	<ul style="list-style-type: none"> 出生数はこの3年間で急速に減少しています。全国的にも出生数が低下していることから致し方ないことかと思えます。 不妊治療等で苦労されている方へのより一層の精神的・経済的支援が必要です。 住民一人ひとりが抱えている課題について、家庭で解決していたことができない状況になっています。地域の繋がり、人との繋がりが弱まっているなか、日野で子育てできることの満足度を高めるため、どのようにアプローチできるか検討する必要があります。 民生委員など公的な役割を担う方が、悩みを抱える方とつながり、そこから地域の人をコーディネートして多くの人に関わり支える仕組みをつくる必要があります。一人で抱えないように、地域との繋がりをつくっていくことが大切です。 地域と繋がりが切れている若者の繋がりづくりにあらゆる部署が取り組んでいく必要があります。 子どもたちに主体性が育たない現状や、大人になっても主体性が発揮されない状況が見られ、ボランティアの減少や地域活動と距離を置く人が増えています。様々な施策において、住民の主体性を育む取り組みが必要です。
---------------------------	--

基本目標 (2)	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる
まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	

指標名		基準値 (R1)	重要業績評価指標 (KPI)				目標値 (R7)		
			R3	R4	R5	R6			
1	創業件数	12 件	目標	15 件	17 件	19 件	22 件	25 件	
			実績	16 件	20 件	22 件			
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
2	町内企業への新規学卒就職者の町内在住者比率	19.9 %	目標	20.3 %	20.7 %	21.1 %	21.5 %	22.0 %	
			実績	23.9 %	25.6 %	27.4 %			
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
取り組みに関する基本的方向			○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。						
施策の検証結果状況			年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
				S	A	B	C	D	
			R3	0	4	3	1	0	8
			R4	0	6	2	0	0	8
			R5	0	6	2	0	0	8
			R6						0
R7						0			

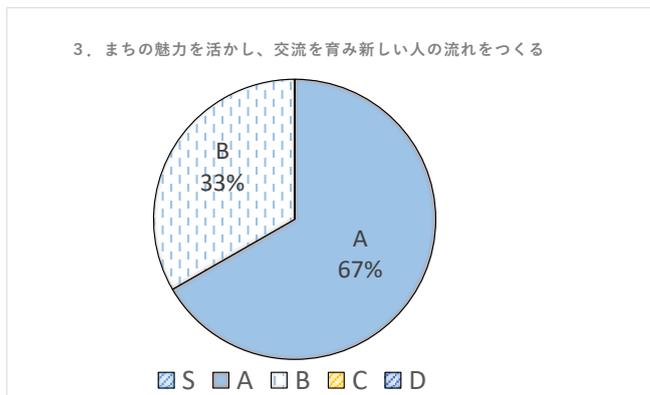


基本目標②「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が6施策、75%、B（実施できている）は2施策、25%となりました。

基本目標に対するコメント (まとめはP.75～P.76参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・定年延長等により高齢者の雇用や働き方、活躍の仕方が変わってきているので、実態把握に努め、施策のあり方を検討してください。 ・「地域内経済循環の推進」は、重要な取り組みです。既存の統計データの整理や買い物調査など実態把握の調査等をできるところから始め、住民の消費行動を分析してみましょう。住民の消費行動が、町内産業を守ることを住民のみなさんに知って頂き、行動に繋げる取り組みが必要です。 ・森林境界明確化事業を強力に推進するとともに、森林環境譲与税を有効に活用した取組を進めてください。 ・日野菜生産者のやりがいと意欲を高めるために、6次産業化の取組をはじめ、新たな展開の可能性を検討してください。
-----------------------------------	--

基本目標 (3)	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる
まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。	

指標名		基準値 (R1)	重要業績評価指標 (KPI)					目標値 (R7)
			R3	R4	R5	R6		
1	観光入込客数 (年間) 過去3年平均	623,900 人	目標	550,000 人	550,000 人	580,000 人	610,000 人	650,000 人
			実績	535,948 人	458,202 人	516,080 人		
			達成率	97.4%	83.3%	89.0%		
2	転入者数 (住民基本台帳) 過去3年平均	777 人	目標	778 人	778 人	779 人	779 人	780 人
			実績	746 人	764 人	871 人		
			達成率	95.9%	98.2%	100.0%		
3	転出者数 (住民基本台帳) 過去3年平均	760 人	目標	744 人	735 人	727 人	719 人	710 人
			実績	766 人	793 人	839 人		
			達成率	97.1%	92.7%	86.7%		
取り組みに関する基本的方向			○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。					
施策の検証結果状況		年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
			S	A	B	C	D	
		R3	0	4	1	1	0	6
		R4	0	3	3	0	0	6
		R5	0	4	2	0	0	6
		R6						0
R7						0		

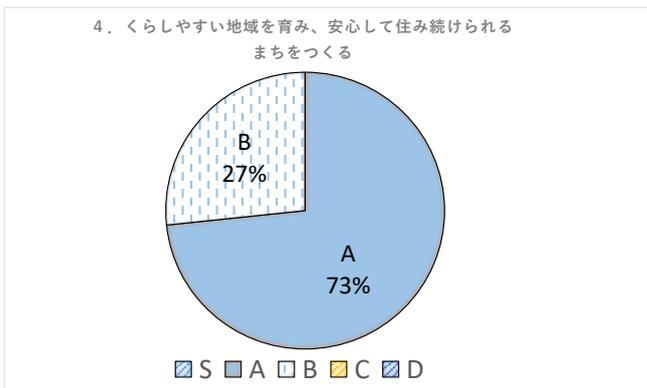


基本目標③「まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる」を構成する施策の検証結果は、A (優れている) が4施策、67%、B (実施できている) が2施策、33%、となりました。

基本目標に対するコメント (まとめはP.76参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内経済循環の概要基礎シートを作成し、研究していることを高く評価します。今後は、把握したデータを基に、住民一人ひとりがまちへの経済効果を考えて消費行動を行うような取組を進めてください。 ・中高生に対するキャリア教育を行っていることを高く評価します。学生の経験から、若者が日野町で働く意欲と自信をもてるような体験に取り組んでください。 ・農泊を、おもてなしの心で観光受入をする、町全体の基盤の一つとして位置づけてください。 ・外国人在住者が増加しています。Uターン受入体制の充実とともに、多文化共生の社会づくりの課題とも関連づけて施策の工夫を行ってください。 ・公共の責任において、地域の移動手段の確保を図る実験を行っていることを高く評価します。地域の実情に適した最適なシステムを構築することを期待します。また、おたすけカゴなどの住民主体の取組が数多く広がることを期待します。
---------------------------	---

基本目標 (4)	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる
家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	

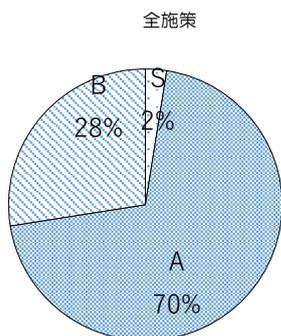
指標名		基準値 (R1)	重要業績評価指標 (KPI)					目標値 (R7)
			R3	R4	R5	R6		
1	人と人（複数の地域コミュニティ）をつなぐ場の創出	20 か所	目標	22 か所	24 か所	26 か所	28 か所	30 か所
			実績	21 か所	23 か所	24 か所		
			達成率	95.5%	95.8%	92.3%		
取り組みに関する基本的方向			○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。					
施策の検証結果状況	年度		目的を達成している S	優れている A	実施できている B	工夫が必要 C	改善が必要 D	合計
	R3		0	7	8	0	0	15
	R4		0	9	6	0	0	15
	R5		0	11	4	0	0	15
	R6							0
	R7							0



基本目標④「くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が11施策、73%、B（実施できている）が4施策、27%となりました。

基本目標に対するコメント (まとはめはP.77参照)	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生を進めるにあたり、地元企業に対するアプローチを進め、困りごとを共有し、企業の体制とも連携しながら協力して進めてください。 地域の課題を農福連携で解決したり、子どもの食育を行うなど、関連した取組を高く評価します。 農福連携を通じて、住民の豊かな経験や知識を生かした高齢者の生きがいづくりや地域の課題解決を進める中で障がい者への理解を深め、安心して暮らせるまちづくりにつなげて下さい。 若者がワカゴトとして地域の課題に取り組むには高いハードルがあります。暮らしやすい地域をつくる過程で、地域の人材として必要な作法や技術を身につけるための学びの場を創出し、まちづくり人材を育て、発掘していく取組を行ってください。
-------------------------------	---

No.	基本目標	めざす姿	検証結果							検証委員からのコメント
			目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計		
			S	A	B	C	D			
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで作ってかなえる	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	R3	0	5	5	1	0	11	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療等で苦労されている方へのより一層の精神的・経済的支援が必要です。 ・悩みを抱える方が一人で抱えないように、地域との繋がりをつくっていくことが大切です。 ・地域と繋がりが切れている若者の繋がりづくりにあらゆる部署が取り組んでいく必要があります。 ・様々な施策において、住民の主体性を育む取り組みが必要です。
			R4	0	6	5	0	0	11	
			R5	1	7	3	0	0	11	
			R6						0	
			R7						0	
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	R3	0	4	3	1	0	8	<ul style="list-style-type: none"> ・定年延長等により高齢者の雇用や働き方、活躍の仕方が変わってきているので、実態把握に努め、施策のあり方を検討してください。 ・「地域内経済循環の推進」は、重要な取り組みです。既存の統計データの整理や新しい物調査など実態把握の調査等をできることから始め、住民の消費行動を分析してみましょう。住民の消費行動が、町内産業を守ることを住民のみならず知って頂き、行動に繋げる取り組みが必要です。 ・森林境界明確化事業を強力に推進するとともに、森林環境譲与税を有効に活用した取組を進めてください。 ・日野菜生産者のやりがいと意欲を高めるために、6次産業化の取組をはじめ、新たな展開の可能性を検討してください。
			R4	0	6	2	0	0	8	
			R5	0	6	2	0	0	8	
			R6						0	
			R7						0	
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付け、魅力あるまちをめざします。	R3	0	4	1	1	0	6	<ul style="list-style-type: none"> ・住民一人ひとりがまちへの経済効果を考えて消費行動を行うような取組を進めてください。 ・若者が日野町で働く意欲と自信をもてるような体験に取り組んでください。 ・農泊を、おもてなしの心で観光受入をする、町全体の基盤の一つとして位置づけてください。 ・外国人在住者が増加しています。UJターンの受入体制の充実とともに、多文化共生の社会づくりの課題とも関連付けて施策の工夫を行ってください。 ・おたすけカゴヤなどの住民主体の取組が数多く広がることを期待します。
			R4	0	3	3	0	0	6	
			R5	0	4	2	0	0	6	
			R6						0	
			R7						0	
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	R3	0	7	8	0	0	15	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業に対するアプローチを進め、企業の体制とも連携しながら協力して多文化共生を進めてください。 ・農福連携を通じて、住民の豊かな経験や知識を生かした高齢者の生きがいづくりや地域の課題解決を進める中で障がい者への理解を深め、安心して暮らせるまちづくりにつなげて下さい。 ・若者が地域の人材として必要な作法や技術を身につけるための学びの場を創出し、人材を育て、発掘していく取組を行ってください。
			R4	0	9	6	0	0	15	
			R5	0	11	4	0	0	15	
			R6						0	
			R7						0	
総合計			R3	0	20	17	3	0	40	
			R4	0	24	16	0	0	40	
			R5	1	28	11	0	0	40	
			R6						0	
			R7						0	



総合戦略の全施策の検証結果では、A（優れている）が28施策、70%と最も多くなりました。次いで、B（実施できている）が11施策、28%となりました。また、S（優れている）が1施策、2%となりました。

基本目標別の検証結果では、すべての基本目標において、A（優れている）が最も多くなりました。

- S
- A
- B
- C
- D

4. 施策検証結果一覧

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証				検証結果	
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	1	安心して妊娠・出産・子育てができるための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産・子育て期を通じた切れ目のない支援を様々展開していることが判り、高く評価します。一方で気になることは、子育て世代の生活様式の多様化、課題の複雑化、就労している妊婦の増加などの変化に、対応が不十分な面があるようにも見受けられます。③において「プレママサロンの参加者が少ない」としていますが、みなさんが参加できるように工夫を早急に行い、対策を進めて下さい。 ・施策が多く展開されていますが、行政が直接的に支援を行う部分に焦点を置いた内部検証になっており、住民を一人ひとりの公共サービスの消費者としてのみ捉えているように思われました。④⑤では、基本目標・基本的方向を踏まえて内部検証を行います。「地域のつながりを深めるなかで」「若い世代が出産や子育てに希望をもてるまち」をつくっていくのは、行政だけではなく、住民自身です。⑤において、「先輩ママとの交流や仲間づくり」「子育て世代自身も自分たちの持つ力を活かし・・・」といった取組は重要で、内部検証している点は高く評価します。この点は、昨年の外部検証で指摘している「経験者が支える側にまわる」「住民が自分たちの課題を他者と協力しながら解決する経験」を多くつくり、住民の力を高めることもできそうです。 ・事業に参加される親子はさまざまなニーズを抱えて参加されています。事業参加時の総合的な相談体制が求められています。 	R3	10	2	2	2	2	18
				R3	量S	質C				B
				R4	10	3	3	2	2	20
				R4	量S	質B				A
				R5	10	3	3	3	4	23
				R5	量S	質A				A
				R6						
	R7									
	2	様々な保育ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスの提供ができるように早期の正規保育士等採用試験の実施、会計年度任用職員(フルタイム)の確保に取組んだことを評価します。また、R6から保育士等への奨学金返還支援事業を開始したことも高く評価します。 ・「在り方検討懇話会」の最終報告がまとまり、町としての今後の取組の方向性が明らかになったことを高く評価します。最終報告を一つの基軸にしなが適切な政策展開に努めて下さい。 ・全体的に保育施設の充実にも努め、保育士等の人材の確保に苦勞しながらも保育所等の充実をはかっていることが判りますので、評価します。一方で、「地域のつながりの中で」「出産や子育てに希望をもてるまち」にするための多様な施策や地域の力を引き出す取組は弱いように感じます。 ・「ほけっと」をハブにした地域の子育ての取組が広がることを期待します。 ・④⑤では基本目標①施策4など関連する施策との連携の可能性も検討して下さい。 	R3	9	2	3	2	3	19
				R3	量S	質B				A
				R4	8	3	3	2	3	19
				R4	量A	質B				A
R5				8	3	3	3	2	19	
R5				量A	質B				A	
R6										
3	コミュニティ・スクールの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・R5に町立学校すべてがCSへの移行が完了したこと、目標以上に地域学校協働活動ボランティアの登録があったことなどを高く評価します。今後は、ボランティア登録数に加えて、この登録ボランティアの実際の活動量などをKPIでなくとも把握して、地域学校協働活動の広がりや確保をどのように努力して下さい。協力いただいている活動の統計をとること、学校教育及び地域づくりの効果も把握して分析して下さい。 ・すべての町立学校がCSに移行したタイミングで、社会教育フォーラムを開催し、他地域のCSの取組を学ぶなど、関係者への研修を徹底している点など学校教育課・生涯学習課の連携もはかれている点を高く評価します。 ・④でふるさと絆事業、公民館と学校の連携が進んでいること、町に愛着をもつ子どもたちが増えていることを評価します。 ・⑤で「今後の課題」としている「子どもたちが参加できる方法を探る」ことは、留意しておいて下さい。今後は、卒業生の先輩たちがボランティアとして学校にやってくることで、子どもたちが、将来ボランティアをしようと考えているような仕組みを工夫して下さい。子どもの参加の必要性に気づいているので、評価します。CS事業は、学校づくりと地域づくりの重要な結節点になるので重点施策に位置して下さい。 ・公民館やPTAを媒介にしながら、CSに関わる人の裾野を広げて下さい。 	R3	4	2	2	2	2	12	
			R3	量C	質C				C	
			R4	8	3	3	2	2	18	
			R4	量A	質B				B	
			R5	10	4	3	4	4	25	
			R5	量S	質A				S	
			R6							
4	子育て支援のネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ネットワークを構築するために様々な情報発信を行ったり、ボランティア講座を開いて人材の掘り起こしや確保に努めていることを高く評価します。 ・一方で、「支援ネットワークの構築」が、既存の中核的ネットワークの強化に依存度を高めていないでしょうか？多様な豊かな支援ネットワークの広がりをつくれるように「ほけっと」をハブとしたネットワークの強化・拡大に加えて新たな芽を育てて下さい。 ・ボランティア養成講座の充実に加えて、子育て世代と先輩世代など当事者からの新しい取組が生まれ、自発的に成長していくような取組を進めて下さい。成功体験につながる取組をどのように支えていくかが大切です。 ・子育てボランティアの参加者は少ない状況ですが、コロナの影響で無くなった取組が徐々に再開し、ボランティアに参加している人の意欲は高い状況です。参加してもらえ回数が増え、関わっていただける内容の幅も広がっています。 	R3	9	2	2	2	2	17	
			R3	量S	質C				B	
			R4	9	3	2	2	2	18	
			R4	量S	質B				B	
			R5	8	3	3	2	2	18	
			R5	量A	質B				B	
			R6							
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数				
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み					
					量的検証	質的検証			検証結果					
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみながら支えてかなえる	5	地域ぐるみでの子どもの居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ③で支援員確保のため、大学生・高校生の短期雇用を行い、安定的な運営ができるように努力されていることを評価します。ただし、この雇用を運営からだけで考えないでください。 ②で学生アルバイトから、教師になったり町内在勤の人が出たりしていることは評価します。②でおきている学生アルバイトの動きを注視して、分析してください。④での学童保育所の卒園生を短期雇用することでアルバイト経験から町への愛着、正規支援員確保につながるなど、安定的運営と将来のまちの担い手を育てることを両らみで意識して施策を工夫して下さい。 「幼児教育・保育のあり方懇話会」の提言をもとに着実な事業推進を行ってください。 ②③において「地域の教育力の向上を図る」取組がよくみえませんでした。今後は地域の教育力の向上になるように基本目標①施策③の地域学校協働活動の取組との連携をはかって下さい。その点は⑤における「子育て支援チーム会議」から事業の横展開などに通じることなので、個々の事業効果の向上、施策の目指す内容の実現という観点から工夫を行ってください。 ボランティアの活動にありがたみを感じ、次は自分たちが取り組むようにつなげていくことが大切です。 児童のつながりは、他部署にわたるが、地域学校協働活動による地域活動と連携した取組を考える必要があります。 	R3	10	3	3	2	2	20				
				量的S	質B			A						
				R4	10	3	3	3	2	21				
				量的S	質B			A						
				R5	9	3	3	3	3	21				
				量的S	質B			A						
				R6	/									
				R7	/									
				(1) 結婚・出産・子育ての希望をみながら支えてかなえる	6	青少年の社会参画の促進	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の社会参画の促進のための施策が、青年会への補助と、ボランティア等活動の場を提供する広報・情報提供としてなされていることが判りました。もう少し、基本目標①施策⑥の取組に関する施策があるのではないのでしょうか。昨年は、KPIに引きつられた内部検証であり、ミニスポーツ教室、カルチャー教室を行うことが「社会参画の促進」につながるのみ見えないと批判しましたので、今年は、その点は改善されました。 地域のリーダーの育成、ボランティア活動・地域活動に参加する若者(青少年)を増やす方策について工夫を行ってください。例えば、ミニスポーツ・カルチャー教室参加者からそれぞれの教室から指導の補助役(アルバイト採用・ボランティア)を必ずつけるとか、指導の側、主催側に入る経験をしてもらうなど、受け身で学びだけでなく能動的に行動する機会を創出して下さい。受け身で学びを消費するだけでは、リーダーには育ちません。KPIが、本取組の効果として改善されるとは限らないので、KPIの設定の変更も検討して下さい。 クラブチームなど競技団体の経営下にある団体が増えており、スポーツ活動を通じた社会参画の公共的な役割は変化しているかもしれません。公共部門以外も含む子ども全体のスポーツ活動を通じた社会参画の実態を調査する必要があります。また保護者の関わりや個人負担の実態を把握することが大切です。 スポーツで優れた成績を上げることも大切ですが、地域の仲間づくりを学校教育の場で行うことが大切です。 	R3	9	2	2	1	1	15
								量的S	質C			B		
R4	9	2	2					2	3	18				
量的S	質B							B						
R5	8	2	3					3	3	19				
量的A	質B							A						
R6	/													
R7	/													
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみながら支えてかなえる	7	社会教育の人材育成と活躍の推進	<ul style="list-style-type: none"> 公民館利用者は前年より4千人以上増えていますが、コロナ以前の水準にはまだ戻っていません。コロナの影響は続いていると言えるでしょう。KPIの数値が76.4%と苦戦しています。ポストコロナ時代の社会教育のあり方を検討する必要があります。 提案型活動事業がら地区で実施されたことを評価します。こうした活動の中から若い世代が実行委員に参加するなど次世代の担い手が育つことを大いに期待します。 ミニスポーツ・カルチャー教室における取組が検証されていますが、指導者としての機会をつくることなどは基本目標①施策⑥において検証で示すなどして、「基本目標①施策⑥」で若い世代(青少年)の社会参画に重点を置き検証を行った方が良いでしょう。「基本目標①施策⑦」では、全世代における「人材育成と活躍の場」の視点から検証を行い、多世代交流等から次世代の担い手を育てるかたちで整理した方が良いでしょう。 各団体の会員減少が最大の課題という状態を直視して、新しい会員の入りにくい要因の分析など団体自身も変わる必要があるかもしれません。役場の支援すべきことは、補助金に限られるのではなく、団体の活性化のための運営能力の向上等が重要ではないでしょうか。 中学生の部活動を地域でどのように受け入れていくのか考える必要があります。 					R3	6	3	3	3	3	18
								量的B	質B			B		
				R4	7	3	3	2	3	18				
				量的A	質B			B						
				R5	7	3	3	3	2	18				
				量的A	質B			B						
				R6	/									
				R7	/									
				(1) 結婚・出産・子育ての希望をみながら支えてかなえる	8	子どもの読書活動と学習活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動・学習支援の活動が様々な展開されていることが判り、高く評価します。また、「その時々ニーズにあった切れ目のない支援」につながる、住民生活の多様なシーンに読書活動・学習支援の機会を作ろうと幅広い取組を行っていることが判り評価します。 一方で、KPIは、図書館の努力にもかかわらず、前年よりもマイナスとなり、KPIは下がっています。学校司書を派遣しているのにKPIの数値が上がらない構造を分析する必要があります。 図書館の取組の成果を適切に測れるアウトカム指標を探す必要があります。 KPIに引きつられて全体の評価が下がってしまうのでKPIの数値向上に資する施策も検討して下さい。 子どもへの環る前の読み聞かせは重要なので、図書館でも大切さを伝えて下さい。 子どもの読書推進を進めることが大人自身の学びを深める機会となるように視点を持ってください。 図書館クラブの取組が学校や地域に波及することを考え、将来のまちの担い手を育てるとともに中高生の自発的な活動を育てる取組にしてください。また、町内に住む大学生も加わる取組へ発展し、図書館司書を目指すきっかけになることに期待します。メンバーが大学の図書館等へ研修へ行く機会を設けることで、大学に進学するきっかけづくりや日野の図書館の向上にもつなげられることに期待します。 	R3	6	3	3	3	3	18
								量的B	質B			B		
R4	4	3	3					3	3	16				
量的C	質B							B						
R5	4	3	4					3	3	17				
量的C	質A							B						
R6	/													
R7	/													

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	9	住民の主体的な文化芸術活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、各教室から1年でサークル化して活動を継続していることを高く評価します。一方で、KPIになっている「文化祭の出演者数・出展者数」の団体が、28団体減少していることへの評価・分析がありませんでした。18.4%の団体数の減少に正面から向き合う必要があります。 団体の育成、既存団体の活性化、など住民の文化芸術活動の団体の活性化、世代交替などを円滑にするための取組が必要ではないでしょうか、従来の支援策とは違う新しい支援を検討して下さい。検討にあたっては、実態を把握する調査から行い、対策が必要な課題を明確にして下さい。 ミニカルチャー教室を通じて、子どもたちが地域に愛着を持ち、地域の伝統文化の継承につながるよう支援事業のあり方を工夫して下さい。 子どもの減少は、現実としてどうしようもありませんが、参加してくれる子どもの比率が増えるような工夫が必要です。指導者の高齢化も教室の存続にもかかわってくるのかもしれない。次世代への円滑な移行を見守る工夫をお願いします。 子どもの教室では、活動を見ず、預けるだけの感覚の親が増えていきます。また、子どもたちも自分のことだけで精一杯で、周りを見ることができず、見て習うことが難しくなっています。まずは親自身に子どもが何をしているのかわかってもらう機会が必要です。 	R3	8	3	3	3	3	20
				量的A	質B			A		
				R4	9	2	3	2	3	19
				量的S	質B			A		
				R5	8	3	2	3	3	19
				量的A	質B			A		
				R6						
	R7									
	10	ふるさと学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> KPIの達成の中でも、地域向けふるさと学習が目標値の3倍以上実施されていることは高く評価します。今後は、学習から活動につながるなどの施策の工夫、活動の活性化につながるよう工夫して下さい。 郷土料理の調査、公民館の日野のだから大発掘ワークショップの実施は日野のだから、失われかねない伝統文化の保存継承につながる重要な取組です。事業実施がなされていることを高く評価します。 今後、CSの取組から学校におけるふるさと学習の内容の充実、CSの取組から地域自体のまちづくりの取組が質的、量的に転換するように重点的な施策に位置付けて下さい。 次世代を育てるため、③で指摘している「若者、子育て世代が参加できる事業や仕組み」を検討し、事業化して、次世代の担い手を育てて下さい。その際に、基本目標、基本的方向にある「ニーズにあった切れ目のない支援」にあてはまり、子育てに希望の持てるまことにして下さい。 子どもの学習に親が関わる取組を検討して下さい。 子どもの学びが、子どもの市場価値を高めるためのものになっている社会的な傾向があります。子ども自身、親自身も何のためにやっているのか学び、社会意識から変えていく必要があります。 	R3	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R4	10	3	3	2	3	21
				量的S	質B			A		
				R5	10	3	3	3	3	22
				量的S	質B			A		
				R6						
R7										
11	女性活躍の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「ほけっと」を起点とした就労支援の取組が着実に成果を上げていることを評価します。 就学支援や人材育成の事業を展開していることを高く評価します。一方、②③では「ワークライフバランスを普及・啓発」する部分が少しみえにくいです。 価値観の変化、生き方の多様化がすすんでいます。女性活躍の環境づくりは、時代の変化にあわせて施策の工夫が必要です。 小学校入学後の働き方を考えたい方もおられると思われるので、ほけっとに求められる方以外にもセミナーの案内を広げて下さい。 セミナー参加者同士の横のつながりをつくることで、産業施策の範疇だけではなく様々な意味を持つことになるので、施策の工夫をして下さい。 	R3	9	3	3	3	3	21	
			量的S	質B			A			
			R4	8	3	3	3	3	20	
			量的A	質B			A			
			R5	8	3	3	3	3	20	
			量的A	質B			A			
			R6							
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
(2) 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	1	農業経営・担い手育成への支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域計画を策定することによって②-1の取り組み内容がどの程度実現するのでしょうか？内部検証②③の書き方は、地域計画づくりが目的化しているように見受けられます。集落営農組織等の支援にどのようにつながっているのか、何をしたのか判りません。 認定農業者の認定以外に、「担い手の確保・育成」の取組がみえません。農地の賃借は、農地中間管理機構に一本化されるそうですが、農業委員会、農業組合との情報共有は実施できていますか？不要ですか？一本化によって今後何が必要なのか検証してください。 内部検証④の内容は②の内容です。 基本目標②の「方向性」「めざす姿」「基本的方向」を踏まえて何をしていますか？何が可能かを考えて下さい。例えば、「担い手育成・確保」のために「地域資源を活用すること」、「商工会と連携すること」を考えるのであって、地域計画づくりや地域へのアドバイスをするのは②③で終わります。 担い手不足への対応として、集落内だけではなく家庭の中でも話し合い、上の世代から下の世代につながることに考えている必要があります。 田舎で暮らすことは都会で暮らすよりも力が必要で、地域を愛する心があって自信が無いと暮らすことができません。子どもたちに田舎で暮らす自信をつけさせることが必要です。 学校教育の場で地域を自分たちで守り育てるという学力や心持をつけていく必要性を地域が自覚して、学校教育の場に求めていく必要があります。 農の営みは、町の環境を守り、生き物を育みながら暮らすかけがえのないことであることを理解し、大人の意識を変えることが必要です。 村のなかの構造を変えていくために、地域資源をどう活かすか、どのように連携するかなどを④⑤に落とし込んで下さい。施策の見え方が変わってきます。 	R3	10	2	2	2	3	19
				量的S	質B			A		
				R4	10	3	2	2	2	19
				量的S	質B			A		
				R5	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				R6						
	R7									
	2	農業生産・特産品の振興	<ul style="list-style-type: none"> 原産日野菜は、日野町にとって重要な産品と思われるが、内部検証が全体的に日野菜のことに偏っているようにみえます。日野菜が気候等の影響を受けて出荷量がKPIを大幅に割り込んだことは残念ですが、仕方ないと思います。 6次産業化の取組が全くみえてきません。1次産品としての生産の安定化で手一杯なのかもしれませんが、④⑤の内部検証部分で、「基本的方向」を踏まえ、地元産業、商工会との連携などから6次産業化のチャンスを探ってください。 ⑤の「今後の課題」の検証は重要です。生産者の高齢化が進み、生産者が減少している現実を直視して、まちのあり方を考えることも発想の転換のヒントになるかもしれません。 ⑤の内部検証について、産業担当部署が、文化的価値についての視点を設けたことは良い視点です。日野菜はマーケットに出すことだけでなく、日野町にとってそれ以上の価値があると思います。技術を持続して続けていくことで、その価値が次の時代に花開くかもしれません。 6次産業化については、連携する企業の視点も大切です。理想は町内企業と連携し、新しい商品開発を行うことで町内企業を育てることに繋がります。農林課の発注が町を守る思想を持った技術者を育て、知力のある企業を育て、地方経済が強くなります。 	R3	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				R4	8	3	3	2	3	19
				量的A	質B			A		
R5				8	3	2	3	3	19	
量的A				質B			A			
R6										
R7										
3	林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 未利用人工林の整備、未利用資源の有効活用のためにも、森林境界明確化事業が重要なものですが、林業振興の全体ビジョンがみえないので、「持続可能な産業となるよう振興」しているようにみえてきません。 内部検証からは、森林境界明確化事業といくつかの財政援助をしているのは判りましたが、②-3の取組内容が、その財政援助で実現できているのか明確にしてください。取組内容との対応関係が不明確です。 昨年の外部検証でも指摘していますが、森林環境譲与税を有効に活用して、林業振興につなげて下さい。譲与税財源の有効活用について検討を行ってください。 ②-3の取組内容は供給側への施策となっています。それが出来ているかどうかを②③で検証。④⑤では、基本的方向などを踏まえて検証をします。②③の繰り返しは不要です。内部検証をみていると、供給側施策に偏っており、④⑤では、基本的方向を考えた住民の木質資源の利用等(需要側)施策を検討し、その財源に森林環境譲与税の活用が出来ないかなど検討して下さい。 林業担当はどのように底堅い需要を作っていくかを考える必要があります。需要を増やすことで森林組合の仕事にもつながります。町の経済や取引の仕組みを変えていく野心を持った仕事をして下さい。 木質バイオマストープを好む人が多くなっています。環境面も考えると価値のある方向性だと思えます。 	R3	10	2	2	2	2	18	
			量的S	質C			B			
			R4	10	3	3	2	2	20	
			量的S	質B			A			
			R5	10	2	3	2	2	19	
			量的S	質B			A			
			R6							
R7										
4	地域内経済循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域内経済循環を推進するために、「がんばろうクーポン」「住宅リフォーム」「おさんぽカード」の取組がなされていることが判りました。それ以外の取組は他に、何かなされていないのでしょうか？内部検証が、KPIの項目に引きつられているようにみられます。 基本目標② 施策4「地域内経済循環の推進」は、基本目標②の中でも重要な取組です。既存の統計データの整理、買い物調査など可能な範囲から地元経済の実態を把握する調査を実施したり、「おさんぽカード」「がんばろうクーポン」の利用データからの消費行動分析をしりいただくことも可能かもしれません。 ④で「雇用の創出に結びついていない」との現状分析をしたら、⑤で「雇用創出」「創業」にかかわる取組もあった方が良いでしょう。 町内商店・生産者の高齢化・後継者不足からの町内消費の低迷をどう評価し、対策・対応を考えているのかみえません。総合計画でも「地産地消地消」の言葉が使われていますが、地元商業の振興を多面的に考えて施策を工夫して下さい。 基本目標②施策4は、基本目標②施策5とも関連性が高いと思われるので、施策の連携をすすめて下さい。 地域の商店は、高齢者の居場所となっており、社会教育的意義があります。行政と商工会で情報交換を行い、持続できるように支援を検討してください。 クーポン券などのインセンティブだけではなく、地域内経済循環の実態を調査し、調査結果に基づき住民への知識の普及啓発の中で、行動変容を起こしてください。 	R3	10	2	2	2	2	18	
			量的S	質C			B			
			R4	10	2	2	2	2	17	
			量的S	質C			B			
			R5	10	2	2	3	3	20	
			量的S	質B			A			
			R6							
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
(2) 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	5	創業・コミュニティビジネスへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・創業塾、創業支援の施策により、新規創業者2名が出ていることを確認しました。昨年に引き続き、少しずつ効果をあげていることを評価します。伴走支援や創業者ニーズの把握も取り組みが始まっているようですが、創業が、基本目標②施策4の「地域内経済循環の推進」につながるように施策の連携と工夫をすすめてください。 ・④⑤において、空き家、空き店舗の利用を進めることが言及されており、町の賑わいの創出も検討されている点は評価しますが、「基本的方向」を踏まえた現状分析と今後の取組を考える必要があります。人と人をつなげたり、町内連携をすすめたりする取り組みがみえてきません。幅広い視点で施策も検討してください。 ・創業された経営者への悉皆調査を行い、ニーズを把握したり、どういった背景で起業、経営されているかを把握することで、今後の可能性や空き・空き店舗活用のための施策を検討して下さい。 ・地域内で商業・ビジネスを行うことは地域を守ること、周辺住民の生活環境を守ることにもつながります。ビジネスとして成り立っていること以外にも、店があることで住民の居場所になっていることなども評価視点として持って下さい。創業の地域へのプラス面を評価して、町全体で応援していく風を醸成して下さい。 	R3	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R4	10	2	3	2	3	20
				量的S	質B			A		
				R5	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R6						
	R7									
	6	企業誘致の推進と工場用地の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の企業立地が1件あり、工業団地開発が進められていることを高く評価します。また、進出企業とゼロ・カーボンシティ実現のための連携協定を締結するなどCSR活動等の地域連携がなされていることも評価します。 ・一方で、既存の進出企業との連携強化を進める取り組みがみえてきませんでした。既存の進出企業との連携強化にも取り組んでください。 ・通勤バスの取組は、基本目標③施策4「地域の移動手段の充実」と深く関わる問題です。施策の連携と研究を重ね、最適なシステムづくりに努めて下さい。 ・④⑤において、企業誘致、進出企業との交流・連携を進めることで地域経済の活性化につなげる総合的な施策を検討して下さい。 ・地元高校と地元企業の職業体験への支援、地元高校へのキャリア教育支援などは、地元高校生の就職可能性も高まると思われますので高く評価します。 ・企業誘致の推進と工場用地の確保は、地域住民の雇用確保につながります。雇用する住民の通勤手段等を含めたライフスタイルを考え、どうあるべきかを整理していく必要があります。 	R3	10	2	2	3	2	19
				量的S	質B			A		
				R4	10	3	2	3	3	21
				量的S	質B			A		
				R5	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
R6										
R7										
7	新たな産業分野の誘致と創出	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィス等施設の利用企業が増加していないことは残念ですが、社会・経済情勢の変化もあるでしょうから一憂することなく、適切な情勢分析に基づいた政策判断も求められるでしょう。 ・サテライト事業者は今までにない新しいアイデアの取組が期待できるので、関係人口として定着するための仕掛けを検討してください。 ・サテライトオフィスを中心にすえた内部検証になっておりますが、基本目標②施策7自体では、サテライトオフィス以外の「新たな産業分野の誘致と創出」についても幅広い取組がなされていると思われるが、「近江日野商人サミット」の開催も高く評価します。こうした取組を起点とし広がりのある取組をすすめて下さい。 ・④で言及されている大学生とのワークショップの取組など、町外の大学生が一過性ではなく継続的に日野町に訪れ、関係人口となるような大切な芽を育てて下さい。また学生に対する交通費などの補助制度を県に要求するなど検討してください。 ・⑤におけるNPO団体設立の動きは、空き家・空き店舗対策、基本目標②施策5「創業・コミュニティビジネスへの支援」とも関わる重要な動きであると思います。情報収集・情報共有をすすめて、適切な支援策を行い、成果のある施策につなげて下さい。 	R3	0	3	3	3	3	12	
			量的D	質B			C			
			R4	10	3	3	2	3	21	
			量的S	質B			A			
			R5	0	3	3	4	4	14	
			量的D	質A			B			
			R6							
R7										
8	町内雇用の促進と雇用機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・②③でシルバー人材センターも含めた就業支援の部分がみえてきませんでした。④⑤のシルバー人材の記述は、②③の方がふさわしいでしょう。 ・KPIにある町内居住者の割合が上昇していることは高く評価しますが、実数もあわせて参考数値として示した方が良いでしょう。比率と実数の両面から適切な評価が行えます。 ・④⑤でシルバー人材に言及されていますが「基本的方向」をふまえた「高齢者のいきがい」や「豊富な経験、技術、知識を持った人々がつながる機会づくり」を具体化する方向性で施策を検討して下さい。 ・日野高校生へのキャリア形成教育への連携などを高く評価します。 ・日本全体の就業構造の変化に対応した雇用促進、雇用機会の拡充を考える必要があります。 ・定年延長による高齢者雇用者の雇用状況の実態を把握されているのであれば②③に記述して下さい。町内居住雇用者を把握するための悉皆調査の中で、町内居住高齢者の比率が高まっているのであれば、シルバー人材センターに代わる地域の高齢者雇用を確保できていることとなります。 ・高校生や大学生が日野町の産業に携われる機会があれば、ここに住みたいと思う人の増加につながります。また他市町では大学生が古民家を借りてカフェを運営して学んでいる事例があります。町として場所を提供したり、サテライトオフィスの空き期間を活用するなど、新しいものを若者を中心に取り組める仕組みを検討してください。 	R3	10	3	3	2	2	20	
			量的S	質B			A			
			R4	9	2	2	2	3	18	
			量的S	質B			B			
			R5	10	2	2	3	3	20	
			量的S	質B			A			
			R6							
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果	
				量的検証	質的検証			検証結果		
(3) まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	1	商工業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年も同じ指摘をしましたが、④⑤においては、基本目標・基本的方向を踏まえて内部検証を行って下さい。今回の④⑤の内容は、ほとんどが、②③の内容です。遊休地や空き地・空き店舗の利用促進とともに、移住者等に事業継承による創業をしてもらうにはどうしたら良いかといった内容を④⑤で検証して下さい。 ・ 内部検証ではKPI指標にあげられている「住宅リフォーム」「ふるさと応援寄附」の2つと事業継承のことしかふれられていません。一方、取組内容には、個店の強みや魅力を磨くこと、「誘客の促進」「交流人口の創出」などについてもありますが、その部分が全くみえてきません。 ・ ④で「地域内経済循環の概要基礎シートを作成し、事業内容の研究」を行った点は高く評価します。 ・ 交流人口の創出事業から基本的方向でも示されている関係人口を増やす取組などを④で関連づけて検証して下さい。 ・ 「商工業の活性化」に資する様々な事業を「基本的方向」にあわせて施策を再検討し、工夫を行って下さい。 	R3	9	2	2		2	3
				量S	質B			B		
				R4	10	2	2	2	1	17
				量S	質C			B		
				R5	6	2	2	3	2	15
				量B	質B			B		
				R6	/					
	R7	/								
	2	まちぐるみでのおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> ・ ④⑤では、基本的方向を踏まえての内部検証を行います。移住者に対して、対面ヒアリングやアンケート調査等を行い、様々な実態を把握して下さい。⑤において、今後の課題に調査を上げている点を評価します。各種調査を必ず行って下さい。令和7年度予算要求して下さい。 ・ ③にある、大学生対象の取組は、関係人口を増やすという文脈で④⑤で内部検証して下さい。 ・ 出店者の拡充に際して、「おもてなしの心で受入」するための工夫を示して下さい。 ・ 空き家、空き地の利活用などの他の施策との連携を深めて下さい。 ・ 受入家庭の質が上がることは町民の質が上がることになり、まちぐるみでおもてなしに取り組んでいることにつながります。 	R3	9	3	2	2	3	19
				量S	質B			A		
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B			B		
R5				8	3	3	2	3	19	
量A				質B			A			
R6				/						
R7	/									
3	地域資源を活かした体験型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農村体験事業が再開できたことは喜ばしいことだと思います。一方で農泊の受入家庭も高齢化のため、受け入れが難しくなってきたのではないのでしょうか。受入家庭の拡充と世代交替も実現して下さい。 ・ 農泊受入家庭を増やすには、基本目標③施策2に出てくる「おもてなしの心」が大切になります。「おもてなしの心」を持つ住民を増やすことも運動して基本目標③施策3の施策の工夫を行って下さい。 ・ 基本的方向で「移住者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。」とあります。「体験型観光」を通じて、交流人口、関係人口の増につなげるにはどうしたら良いのかなど検討し、施策を展開して下さい。 	R3	0	3	3	2	2	10	
			量D	質B			C			
			R4	1	3	3	3	3	13	
			量D	質B			B			
			R5	6	3	3	3	3	18	
			量B	質B			B			
			R6	/						
R7	/									
4	地域の移動手段の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の移動手段の充実を図るために様々な事業を行い、基本目標②施策4の取組内容を実現しようとしていることが良く判り、この奮闘を高く評価します。公共の責任で担うことを実現しようとしていることは評価しますが、一方で「おたすけカゴヤ」など住民主体の取組は後方に退いているように見受けられます。 ・ 住民の「地域の移動手段の充実」を図るのは公共の仕事であり、住民が公共サービスの消費者にのみ閉じ込められてしまうと解決がますます困難になっていくかもしれません。住民が地域の移動手段の問題に自分ごととして捉えて考え行動するきっかけをつくる必要があります。 ・ ④⑤においては、基本目標③の基本的方向を踏まえて検証してもらいます。ライドシェアの解禁など社会情勢の変化を考慮して、関係人口増、移住定住につながる情報発信などと結びつけた施策を検討、工夫して下さい。 ・ 自家用車から公共交通への転換が困難なのもよく判ります。その自家用車がライドシェアで「公共交通化」しないかも検討して下さい。 ・ チョイスコは利便性が高く利用された方はアンケートの満足度が高いことに実感できると思います。しかし、電車に乗って学校に行く7時台と学校から帰宅する6時台のニーズは子育て世代には多いです。 ・ チョイスコの運行時間に対する利用ニーズについて、現在の運行時間で利用者が多いことで良いとするのではなく、見えない需要があるかもしれません。それらのデータをどのように収集するかの工夫が必要です。 	R3	8	3	3	3	2	19	
			量A	質B			A			
			R4	9	3	3	3	3	21	
			量S	質B			A			
			R5	10	3	3	2	2	20	
			量S	質B			A			
			R6	/						
R7	/									

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証			検証結果	
(3) まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	5	UIJターン受入の充実	<ul style="list-style-type: none"> 空家問題を幅広い年代に知ってもらうように、高校生・小学生に授業を行っていることなど、住民の理解を促す取組を活発に行っていることを高く評価します。 移住者が、具体的にイメージできるような取組がなされていることも高く評価します。 UIJターンを地域が受け入れやすいように環境づくりを積極的にすすめていることも評価します。 空家が増加しているため、町が空家を簡易に改修して貸し出ししたり、改修した空家での民泊の受け入れを行うのも良いかもしれません。改修した空家を活用して集落で受け入れを行い、高齢者が清掃や受け入れ対応を行うことで、高齢者の仕事を生み、介護予防にもつながります。 ⑤で指摘している「移住につながる施策」を意識することは重要です。また、外国人在住者の増加も地域の理解も重要です。人口を増やすだけでなく、多文化共生社会づくりの課題とも関連づけて施策を工夫して下さい。 ⑤の外国人の受け入れに関する視点は高く評価します。労働者不足の問題から外国人材が増加しており、社会的変化が起きているので、次の総合戦略策定においてはUIJターンの受け入れの充実だけではなく、町に人が来るということを包括的に捉えていく必要があります。 	R3	10	3	2	2	2	19
				量S	質B			A		
				R4	7	4	3	3	4	21
				量A	質A			A		
				R5	8	3	3	3	4	21
				量A	質A			A		
				R6						
	R7									
	6	地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信	<ul style="list-style-type: none"> SNSの活用、役場HP、日野町公式note、アプリ「ぐるりん日野ナビ」など多様な手段を通じた情報発信の仕組みづくりが進んでいることを高く評価します。 ④⑤において、移住・定住をすすめる取組とリンクして考えている点は評価しますが、情報発信が、町外向けであったり、イベント告知的な情報に偏っていないかが気になります。基本的方向を考えると、町外の人に日野町のことを知ってもらうことだけではなく、日野町住民にも町の良さを知ってもらう面も必要ですが、住民の愛着を育む部分が見えにくいので、今後は施策の工夫を行ってください。 日野町の良さは7つの公民館があり、自分の地域だけではなく他地区の公民館にも行けることです。他地区の公民館への利用促進の情報発信を進めてください。 	R3	10	3	3	2	2	20
				量S	質B			A		
				R4	9	3	2	3	3	20
				量S	質B			A		
				R5	9	3	3	3	3	21
				量S	質B			A		
R6										
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
(4)くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	1	次代を担う人材の発掘	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画の策定を行った自治会が4つと目標を上回って策定されたことを高く評価します。策定の支援に加え、策定後のフォローアップや実際の取組のベストプラクティスの共有などを行い、相互学習をすすめることも大切です。計画そのものが、次代を担う人材の発掘につながっているかなど検証も行って下さい。 ・「心の若者会議」の取組が進んでいることを高く評価します。若者が地域づくりに参加するきっかけをつくり、若者のアイデアと行動でまちを変えられる成功事例をつくって下さい。 ・公民館の実行委員の確保、地域の役の担い手の確保に苦勞しているのが判ります。④⑤でも検証されていますが、既存の体制から持続可能な体制に転換するための議論を地域の中で行える環境づくりに努めて下さい。自治会活動の合理化についても検討をすすめる必要があります。 ・次のまちの担い手を育てたり、発掘する手だてが、十分でないかもしれません。住民をまき込む工夫が必要です。 ・「地域の資金循環を考える研究会」、「UJターン1%受け入れ」など新しい考えをまちの中に吹き込む努力を高く評価します。 ・青年団活動について既存の事業を進めることで精一杯だが、新しく関わってもらうために、既存の枠組み自体を変えていかないとはいない。 	R3	8	3	3	3	3	20
				R3	量A	質B			A	
				R4	8	3	3	3	2	19
				R4	量A	質B			A	
				R5	8	3	3	3	3	20
				R5	量A	質B			A	
				R6						
	R7									
	2	市民活動(団体)の活躍のための仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・団体同士の交流の機会がつけられたことは評価します。提案型活動事業の実施地区が一つ増え、5地区となったことも評価します。③でも検証されていますが、地域課題を共有し、協働のプロジェクトが創出されるように工夫を行って下さい。 ・提案型活動事業の実施により、地域内の多世代交流、団体交流を促すものと推察されますが、公民館単位ということもあり、地域活動色が強く感じられます。多世代交流から若い世代がまちづくりに参加する意欲を高める工夫を行って下さい。基本目標4施策1とも関わっています。 ・「地域の資金循環を考える研究会」「日野町社会教育フォーラム」の実施など従来とは異なるアプローチを始めていることを高く評価します。 ・協働のプロジェクトの創出と推進が、まちの課題を解決し、若い世代の参加を引きおこし、次の世代の担い手を育てるように、工夫を行って下さい。 ・地域に根ざした取組に加えて、地区を促した団体交流、協働のプロジェクトがつけられるには何が必要なのか検討し、地区を超えた取組がなされるように工夫を行って下さい。 ・農業委員会では子ども食堂にたまねぎを提供するなどの取組をしており、規格外の野菜の活用など、一般の生産者が一緒に知恵を出し合って食材の利用と保管について考えていけると良いです。意見交換会に農業委員や健康推進員も参加する取組も効果的です。また、料理提案など料飲組合とも連携することで子どもたちに幅広い食を提供できるのではないのでしょうか。 	R3	10	3	2	2	2	19
				R3	量S	質B			A	
				R4	10	3	2	2	2	19
				R4	量S	質B			A	
R5				7	3	3	3	3	19	
R5				量A	質B			A		
R6										
R7										
3	関係人口の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの「ふるさと応援寄附」が、昨年より倍増している点は高く評価しますが、この倍増が、関係人口の増につながっているのか、または、関係人口の増が、倍増につながっているのか慎重で冷静な分析を行う必要があります。寄付が関係人口につながるように工夫を行って下さい。 ・まちのコインを活用した取組が広がっていることを評価します。 ・関係人口の創出に向けて、具体的には、地域おこし協力隊、「まちのコイン」を活用する方向性が良く判りました。この2つのアプローチを関係人口創出の一つの戦略的手段として取り組むことは一定の効果も見込めるので評価します。一方で、関係人口の創出は、幅広い交流の中で生み出されると考えられますので、広い視野で交流人口の創出について検討を行って下さい。商工観光課の様々な支援事業の領域にある交流人口を関係人口に格上げできるように工夫を行って下さい。ひとひねりが必要です。 ・二拠点居住やワーケーションのようなライフスタイルに対応した取組がまだできていません。テレワークの普及とコロナ後の社会の変化の見極めをはじめ、ニーズの調査などを早期に着手してください。 ・基本目標4施策3の取組は、住民自身の自治活動の展開によって住み良い日野町をつくり、それが住民自身によっても発信され、交流が生まれ、関係人口を増やしていくのだと思われます。住民自身の発信につながる領域についても検討して下さい。 ・町の活性化につながるためSNSの活用など行政の発信力を発揮してください。 ・まちのコインが生活にマッチしていないように感じます。子育て世代にマッチングするよう工夫が必要です。また利用者が提供する側にまわる工夫も必要です。 	R3	8	2	2	3	2	17	
			R3	量A	質B			B		
			R4	10	3	3	2	2	20	
			R4	量S	質B			A		
			R5	10	2	2	3	2	19	
			R5	量S	質B			A		
			R6							
R7										
4	多文化共生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIにもなっている語学講座の受講者数が昨年より増えている点は評価します。また、日本語講座を開講し、住民ボランティアも参加して、住民と在住外国人との交流が生まれてきたことも高く評価します。 ・在住外国人の方への相談体制は未だ確立できておらず、HP掲載の「やさしい日本語」の外国語翻訳もこれから取組とのことですが、早期に課題解決をはかってください。相談体制を日野町だけでつくることが困難なのか、町でつくった方が良いのか、広域でつくった方が良いのかなど検討して下さい。 ・日本語講座の運営に、日本人と在住外国人のボランティアの参加を促し、一緒に学び、日常生活上の困りごとを情報共有したりできる環境づくりに努めて下さい。そうした取組の中から相談体制として必要なものをみきわめるなど工夫を行って下さい。 ・在住外国人の方々が、定住化することを想定して、長期的な多文化共生社会づくりについて検討し、住民への啓発を行って下さい。 ・企業を通じて在住外国人の困り事を把握するなど、企業の窓口との連携や役場の通訳と企業の通訳のネットワーク構築を検討してください。また企業内での多文化共生の取組のノウハウを取組に生かしてください。 ・国際親善協会の講演会等で、在住外国人を受け入れている地域の優良事例を紹介するなど、受け入れのハードルを下げる取組を進めてください。 	R3	8	3	3	3	2	19	
			R3	量A	質B			A		
			R4	5	3	3	3	3	17	
			R4	量B	質B			B		
			R5	9	3	3	2	2	19	
			R5	量S	質B			A		
			R6							
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数				
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み					
					量的検証	質的検証			検証結果					
(4)くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	5	支え合いの仕組みづくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標④施策5のポイント、様々な事情・状況の中で、困りを持つ人達を「丸ごと」支え合う地域づくりを行うことにあると思います。「隠れたひきこもり状態にある人」の発掘のための努力などを高く評価します。重層的な支援体制を整えられるように努めて下さい。 不登校問題と引きこもりの関連性などに着目して、多様な状況にある人達を「丸ごと」支え合うという困難なことに挑戦していることを高く評価します。一方で、KPIが、ひきこもり関連2項目あることから、「ひきこもり」に引きずられた内部検証の印象が残りました。 生活支援コーディネーターが、地域の実情にあった支え合いの仕組みづくりを行っていることがよく判りましたが、そうした動きの中で、地区社協が役割を果たしているのは判りましたが、「地域の商店や民間事業者の協力」がどのように体制整備につながっているのか少し判りませんでした。 支え合いの仕組みづくりは、住民が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするのが、「人手不足」対策にもなりますが、人々の多様な悩みや困りに重層的に柔軟に対応できる仕組みづくりに努めて下さい。 「交流の場」をつくるという手法が多くみられますが、悩みや困りの多様さに対して、有効な手段なのか、政策アプローチも検討して下さい。 	R3	6	3	3	3	3	18				
				量B	質B			B						
				R4	3	3	3	4	4	17				
				量C	質A			B						
				R5	6	3	3	3	3	18				
				量B	質B			B						
				R6										
				R7										
					6	食育・地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「すべての世代が望ましい食習慣を実践する」のは難しい課題ですが、5歳児、中学生、高校生、高齢者と幅広い世代への食育事業が実施されていること、基本健診・国保特定健診の受診者への支援等が行われていることが判りました。これらの取組が着実になされていることを高く評価します。 農福連携の米づくりによって出来た米を学校給食に使ったり、障がいのある方と交流しながら米づくり体験をしている小学生への食育は優れていると高く評価します。地産地消と安心してらせる地域共生社会づくりの一步として高く評価します。 障がいのある方の適所作業所が耕作放棄地で米作りを行い、社会参画をすすめること、耕作放棄地という社会課題解決に取り組む、小学生への食育も行われている全体が安心して住み続けられるまちをつくる取組として優れているので高く評価します。相互連関性の高い取組です。 ④⑤でも検証されていますが、働き盛りの世代に対する施策ができていないこと、健診の未受診者への取組など残された課題を明らかにするとともに、優先的に行うべきことを明確にして効果的な施策を研究し、工夫して下さい。 需要側である消費者の意識調査を行った点を高く評価します。次は消費者側の意識と行動を変えるための攻めの施策を検討して下さい。 生産側と需要側の両方の施策がうまくかみ合うように施策の工夫を行って下さい。 	R3	10	3	3	3	3	22
								量S	質B			A		
R4	10	3	3					3	3	22				
量S	質B							A						
R5	9	4	3					4	4	24				
量S	質A							A						
R6														
R7														
	7	心身の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> KPIになっている特定健診受診率が2.4ポイント上昇していることを評価します。今後受診率の向上に努めて下さい。未受診者の健康状態の把握のための手立てに加え健康づくりの情報が、未受診者にも届く手立てを工夫して下さい。 健康推進員の活動が、住民の健康づくりにおいて重要な役割を果たしていることが判ります。一方で、地域からの推薦が難しくなるなど、地域の役に負担になっているのかもしれない。次の時代の地域の担い手不足の問題と同じ課題にぶつかっているとされます。④でも検証されていますが、地域にとって重要な役割を果たしていることを地域の側にも理解してもらえるように活動の効果の「見える化」が必要かもしれません。 心の健康、精神疾病に関わる取組、「孤立・孤独」を防ぐ取組が少しみえにくい内部検証となっています。取組の困難な課題であると推察しますが、その困難さも含めて検証してください。 予防的な取組を強めるのは、国・県の方針とも一致していると思われますが、予防的な取組の先進地の長野県の事例も学び、予防の取組が地域住民の健康増進し、地域づくりにもつながっています。住民の健康増進と地域づくりの課題解決と位置づけて取組んで下さい。 健康推進員と福祉協力員の連携により、地域に根付く、細やかな取組が進められるのではないのでしょうか。 					R3	8	2	2	2	2	16
								量A	質C			B		
				R4	9	3	3	2	2	19				
				量S	質B			A						
				R5	10	2	2	3	2	19				
				量S	質B			A						
				R6										
				R7										
					8	高齢者のいきがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> コロナの「5類感染症」移行に伴い、「高齢者交流サロン」がほとんどの地域で再開したことは良かったです。交流サロン開催団体数は、昨年と比べて1団体しか増えていません。増やす手立てを検討して下さい。②の記述からは、地域からの相談待ちのようにみえます。 一昨年、昨年と指摘してきたことですが、「高齢者のいきがいづくり」の取組が「交流サロン」に偏っているように見受けられます。高齢者が受け身で「サービスの対象者」でしかない存在にみえます。高齢者の社会参加は「交流サロン」にとどまらず、もっと主体的に関わる社会参加もあるはずです。 定年延長、定年再雇用の拡大や高齢者の就労の増加など、高齢者が地域活動につながりにくくなり、次の世代の担い手を育て、掘り起こすことが難しくなっているのが判りました。その対策として、ボランティアポイント制度の導入で、高齢者が主体的に活動するのを促すことを意図していると思われます。他の手は思いつかかなかつたかもしれませんが、政策手段としての適切性を検討して下さい。インセンティブによる行動変容だけでなく、知識や意識で行動変容できる施策を検討して下さい。 交流サロンの開催を通じて、基本目標④施策4、5などともからめて、高齢者が自らの能力を発揮して主体的に動けるような領域をつくる施策の工夫を行って下さい。 	R3	5	3	3	2	2	15
								量B	質B			B		
R4	5	3	3					3	3	17				
量B	質B							B						
R5	5	3	3					3	3	17				
量B	質B							B						
R6														
R7														

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証			検証結果	
(4)くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	9	健康づくりと介護予防の一体化	<ul style="list-style-type: none"> ②における介護予防ボランティア養成講座の受講者数を適確にとらえて集計してください。実態把握をしましょう。 ボランティアへの「まなざし」が、「受け身のボランティア」にみえます。 昨年も指摘しましたが、本取組は、基本目標④施策7、8とも関連がありますので、事業の連携を行い、事業効果を高める工夫して下さい。 次世代の担い手発掘に苦勞しているものと判断します。基本目標④施策8でも指摘しましたが、高齢者の就労環境の変化をふまえ、より長期的視野に立ったボランティア養成戦略を立案して下さい。 ボランティアの養成だけではなく教室参加者を増やす取組も大切にして下さい。 高齢者になってからではなく、若い頃から自分たちで活動して課題解決し、その経験を活かして高齢者になってからも主体的な取組ができる素地ができると良いです。 定年延長等により高齢者の就労状況が変化し、退職し地域へ戻ってきたときには受ける側になっています。また自分のこと以外に労を出すことの習慣が減っており難しい時代になっています。 ④⑤の内部検証では、基本目標、基本的方向を踏まえての検証を行います。昨年の外部検証で述べたことへの対応などを行うと本来の趣旨に合致した評価が可能になるでしょう。「おたっしやサポーター」の研修内容に工夫を行って下さい。時間枠がないなら延長するなど対策はとれるはずで 	R3	10	3	2	2	2	19
				量的S	質B			A		
				R4	10	3	3	2	2	20
				量的S	質B			A		
				R5	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				R6						
	R7									
	10	障がい者の支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> グループホームの整備が進み、地域における生活の場の確保が進んでいること、地域との交流もなされて、地域住民の障がいへの理解も進んでいることが判りました。安心して住み続けられるまちづくりが進んでいるものとして高く評価します。 施設の整備が進む一方で、施設・制度を支える福祉人材の確保・育成が次の大きな課題になっていることも判りました。町・県による取組に加えて、国レベルでも取組が必要かもしれません。県とも連携し国への働きかけも行ってください。 地域においても地域づくりの人材不足がおきていますので、地域との連携にも困難があるかもしれませんが、グループホームの充実に加えて、地域の側の住民自治の展開とリンクしながら安全・安心のまちづくりにつながるように引き続き努めて下さい。 	R3	10	2	2	2	2	18
				量的S	質C			B		
				R4	10	2	2	3	3	20
				量的S	質B			A		
				R5	10	3	3	3	3	22
				量的S	質B			A		
R6										
R7										
11	住民のくらしを支える知識・情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 在住外国人の方のために、各国の言語による資料を収集していることを高く評価します。こうした資料を必要としている人たちに適確に情報が伝わり、実際に利用されるように工夫を行って下さい。在住外国人の年齢や状況から必要とされるニーズを適切に把握して資料収集を行って下さい。 基本目標④施策4多文化共生の推進の取組の語学講座の参加者にアプローチするなど当事者グループに直接アプローチして、ニーズの把握等を行って下さい。 図書館利用が、1ポイント下がっていますので、要因の分析を行い、住民の利用が増える施策を工夫して下さい。 ④により住民に図書資料を活用してもらえるように様々な取組がなされていることが判ります。取組の広がりが高く評価します。引き続き、住民が図書館資料に触れる機会を増やし、住民が必要とする情報が得られるように工夫を行って下さい。 基本目標①施策8の取組ともうまく連携して、子どもから保護者の図書館利用習慣をつくるなど施策の連携と工夫を行って下さい。 外国人労働者の図書館利用を促進するため、休休みに工業団地で移動図書館を行うのも良いのではないのでしょうか。返却は図書館で行うことで図書館に誘導することもできます。 子どもへの絵本の読み聞かせは、子どもが本に触れ、親も本につながるため、読み聞かせの取組を進めて下さい。 	R3	8	3	3	3	3	20	
			量的A	質B			A			
			R4	8	3	3	2	2	18	
			量的A	質B			B			
			R5	8	3	3	3	2	19	
			量的A	質B			A			
			R6							
R7										
12	ごみの減量化の実現	<ul style="list-style-type: none"> KPIの一日一人あたり可燃ごみ量は、目標は達成できませんでしたが、着実に重量が低下していることを高く評価します。 廃食油の拠点回収量が前年より450ℓ減少しています。要因を分析し、対応を検討して下さい。 ④、⑤は基本目標、基本的方向を踏まえて検証を行います。住民が主体的に取り組む部分や自治活動、住民自らが発見し、学び、取り組むまちづくりへの道筋を検討して下さい。④において分析結果を地域に返せていないこと、住民の主体的な取組の成果と課題の共有ができていないことを検証として上げていく点は評価します。住民へのフィードバック、主体的に考え行動する住民の主体性を引き出す取組を行って下さい。 ごみ出し問題は、全世帯に共通するテーマなので、全住民に関わる課題となります。この課題への取り組みから住民の自治への取組の可能性を引き出し、住民参加の基礎体力を育てて下さい。意識の向上だけでなく知識とともに考え行動する風潮を育てて下さい。そのために、住民に必要な情報を公開し、広く共有して下さい。 女性会で生ごみ処理の取組を進めているが、冬場は処理機の問題から増やせない状況なので処理方法について検討して下さい。 分別に関する教育を行い、より多くの人が知識、意識を持てる機会をつくって下さい。インセンティブでの行動変容だけでなく、知識で行動変容を導くためにも、年代やライフスタイルに応じたデータが必要です。 	R3	9	3	2	2	2	18	
			量的S	質B			B			
			R4	9	3	3	2	2	19	
			量的S	質B			A			
			R5	9	3	3	3	2	20	
			量的S	質B			A			
			R6							
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果
					量的検証	質的検証				
(4)くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	13	環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの指標になっている2つの参加人数ですが、参加者の高齢化がすすんでいると思いますが、参加者の年齢の若がえりのために施策を工夫する必要があります。 ・清掃活動、河川愛護事業を行い、継続するために啓発や地域団体への依頼に多大な労力をかけていることが推察されます。一方で、地域の側も高齢化がすすみ、対応力が低下しています。④で評価しているように環境学習の推進が、地域活動への参画につながっていないことも判ります。活動そのものの構成・内容を変えていく必要があるかもしれません。学習から行動に変わるには段階があるので、ステップを踏んで、参画する若者を育てる工夫を行って下さい。 ・地域への関わり方が、「行政から地域に依頼する」形が大きくなります。役場と地域の協働関係、地域の側の主体性を育む施策の工夫が必要です。 ・ごみゼロ大作戦等の清掃活動を知らない人も多くいます。様々な場所で実施し、知ってもらうことも必要です。 ・地域の大人が草を刈る姿を若い人に見せられておらず、家庭内の世代交代が進んでいない状況です。また草刈り機が使えない若者も増えていることから、若い人が草刈り機を使うような取組を進める必要があります。 	R3	9	2	3	2	2	18
				量S	質B			B		
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B			B		
				R5	9	3	3	2	2	19
				量S	質B			A		
				R6						
	R7									
	14	交通安全対策と防犯体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・警察をはじめとする各種団体との協力を通じて啓発を行うことに力点がある評価となっています。シルバーキャラバン隊の組織も3団体に減るなど、取組手法も見直しが必要なのではないでしょうか。取組手法の革新を検討して下さい。 ・達成したい目標と啓発の手法とが適切にマッチしているのか検討が必要です。 ・安心安全なまちづくりのために、具体的な課題を設定して、有効な手段を探して対応する必要があるのではないのでしょうか。各団体と役場の連携によって何を解決するのかなど具体的に検討を行って下さい。 ・学童へ行く子どもが増えており、見守りが必要な子どもが減っている状況なので、取組の見直しも必要です。また高齢者が安心して暮らせる見守りなどの環境づくりも必要です。 	R3	8	3	3	2	2	18
				量A	質B			B		
				R4	8	3	3	2	2	18
				量A	質B			B		
				R5	7	3	3	2	2	17
				量A	質B			B		
				R6						
R7										
15	地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士による町出前講座がR5には41回とR4より15回も増えるなど、防災士が地域の中で役割を果たしてくれていることが良く判りました。地域防災力の向上に資する取組として高く評価します。 ・自主防災組織の設立支援に加えて、設立後の自主防災組織の地域防災力向上がはかれるようにアフターフォローもよろしくお願ひします。 ・地域防災力を高める取り組みの中から、「住民の活発な自治活動」を持続発展させ、次代を担う人材づくりにつなげる施策の工夫が必要です。(そうした取組が、④⑤の内部検証に反映されることが望ましい。) ・消防団員数の定数確保ができていますことは高く評価します。また、団員の負担軽減もなされていることも評価します。 ・出前講座で石川県の被災地を目で見てきた実際の感触を伝える場は貴重であり、ぜひ拡げて下さい。 	R3	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B			A			
			R4	10	3	3	2	2	20	
			量S	質B			A			
			R5	9	3	3	2	2	19	
			量S	質B			A			
			R6							
R7										

5. 施策別検証内容（施策検証シート）

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が産出や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	様々な保育ニーズへの対応	担当部署	子ども支援課				
内容	・保育が必要なすべての子どもに対し、保育サービスが提供できるように取り組みます。								

数量的検証										質的検証			
KPI (重要業績評価指標)										内部検証		外部検証	
指標名	孤立しない子育てサポートの充実 (保育園、幼稚園、認定子ども園、 子育て支援施設等利用率)			保育所等待機児童数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	82 %			1 件									
目標値【R7】	85 %			0 件									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	82	76	92.7%	5	6	83.3%							
令和5年度	83 %	76 %	91.6%	3 件	4 件	75.0%				② <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な保育の提供を行えるよう、R6年度も早期に正規保育士等の採用試験を行い保育者の確保に努めました。 ・今後の町の幼児教育、保育を将来像を見定めるため「幼児教育・保育の在り方検討懇話会」での議論を深め、懇話会から最終報告をいただきました。 ・多様な保育ニーズへの対応においても、「日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会」の課題として取り上げ、改善の方策について検討し、今後の方策をまとめ上げていただきました。 ・懇話会では町の保育の力を高め、保育ニーズに答えるため、旧来の地区や学区にとらわれず、町全体を俯瞰した視点から議論が展開されています。 ・また、会計年度任用職員の処遇改善を図るとともに、保育ICTシステムの導入も拡大（+2園（あおそら園、桜谷こども園））しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な保育の提供を行えるよう、今後とも正規保育士の確保と併せて、会計年度任用職員（フルタイム）の確保に努めます。 ・令和6年度から会計年度任用職員に勤勉手当が支給されることから、待遇の改善が図れます。 ・「幼児教育・保育のあり方検討懇話会」からいただいた報告を参考とし、町が目指すべき保育の将来像の実現のため、具体的に着手をします。 ・地域の子育て支援機能を更に向上させるため、R6から「つどいのひろばほけっと」の毎日開所、子育て応援スタンプラリーの実施、在宅子育て層への一時預かり事業を開始し、ほけっとをハブとした地域の子育て世代や団体の接続を図ります。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスの提供ができるように早期の正規保育士等採用試験の実施、会計年度任用職員（フルタイム）の確保に取組んだことを評価します。また、R6から保育士等への奨学金返還支援事業を開始したことも高く評価します。 ・「在り方検討懇話会」の最終報告がまとまり、町としての今後の取組の方向性が明らかになったことを高く評価します。最終報告を一つの基軸としながら適切な政策展開に努めて下さい。 ・全体的に保育施設の充実に努め、保育士等の人材の確保に苦労しながらも保育所等の充実をはかっていることが判りますので、評価します。一方で、「地域のつながりの中で」「出産や子育てに希望をもてるまち」にするための多様な施策や地域の力を引き出す取組は弱いように感じます。 ・「ほけっと」をハブとした地域の子育ての取組が広がることを期待します。 ・④⑤では基本目標①施策4など関連する施策との連携の可能性も検討して下さい。 	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	83.3%	
目標値【R6】	84 %			3 件									
目標値【R7】	85 %			1 件									

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	コミュニティ・スクールの導入	担当部署	生涯学習課	学校教育課		
内容	・地域と学校が共有したビジョンのもとで、地域づくり・教育活動を実践していくため、コミュニティ・スクールの導入を推進します。							

32

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証		
指標名	地域学校協働活動ボランティア登録数			コミュニティ・スクールの実施校数					取り組み状況		今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R1・2】	271人			0校										
目標値【R7】	350人			6校										
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和4年度	310	330	100.0%	3	2	66.7%								
令和5年度	323人	330人	100.0%	6校	6校	100.0%				②	③	S		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	100.0%			
目標値【R6】	336人			6校										
目標値【R7】	350人			6校										

② 施策

- ・R5年度は日野小学校、南比都佐小学校、必佐小学校、日野中学校で新たにCS導入し、これですべての町立学校でCSへの移行が完了しました。4校は初年度であるため、CSのパンフレットをもとに制度や役割の共通理解を図りました。
- ・11月の校長会において、CSの状況についての交流を行い、2月の社会教育フォーラムにおいて、各種社会教育団体、学校教育関係者がつどい、これからの社会教育のあり方や他地域のCSの取組について研修を行いました。
- ・平成29年よりふるさと絆事業（日野町地域学校協働活動）として、ふるさと絆支援員（地域コーディネーター）主導のもと、地域の個人や団体が学習支援や学校ボランティアとして協力頂いています。

④ 基本目標 基本的方向を踏まえた状況

- 実施したことの成果や効果
 - ・無難の中で育てたい子ども像として何が好き・愛着がある子どもについて話し合うことができました。
 - ・公民館と学校との連携を進めることができた学校があり、町に愛着をもつ子どもの育成につながってきている。
 - ・ふるさと絆事業を地域の個人や団体による学習支援や学校ボランティア協力のもとで進め、子ども達には、日野町への誇りが生まれています。
 - ・CSのパンフレットを作成し、関係者会議等で配布しCSへの理解を深め、CSが地域に浸透しています。
 - ・社会教育フォーラムでは、先輩事務から学び、グループワークを行い参加者が意見を交換し、見聞を深めるとともに交流を図ることができました。
- 実施できていないこと
 - ・子ども・子育て支援の充実のための取組について、熱議を深めていく必要があります。
 - ・地域住民へのCSの周知がまだ十分ではありません。
 - 実施が困難なこと
 - ・特にありません。

③

- ・目指す子ども像および学校・地域の課題について、保護者や教職員等関係者との熟議をしています。
- ・地域づくり・教育活動を実践していくため、町内での情報交流を行ったり、先進地の事例を紹介したり、県主催の研修会を案内したりしていきます。
- ・CSに関わる関係者の研修会を開催し、CS事業のブラッシュアップを図ります。
- ・CSと連携・協働を進めるためにもふるさと絆事業を進め、学習支援や学校ボランティアとして関わりのある団体・個人を増やします。
- ・公民館や地域関係組織との連携を深め、子どもたちがふるさとに誇りを持てるような地域づくりを進め、未来の地域の担い手となるよう進めます。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - ・学校運営理事会で熟議を進め、町民や教職員への意識醸成を行います。
 - ・地域と学校がより連携してCSを推進し、子どもたちがふるさととしての日野を体験できるようなふるさと絆事業を進めます。
- 今後の課題
 - ・地域と学校が共有したビジョンのもとで、地域づくり・教育活動を実践していくため、保護者や地域、教職員へのより広い意識醸成が必要です。
 - ・CS導入後、町民や教職員への更なる周知、研修が必要です。
 - ・子どもたちが参加できる方法を探っていくことも検討していく必要があります。

検証結果

コメント

- ・R5に町立学校すべてがCSへの移行が完了したこと、目標以上に地域学校協働活動ボランティアの登録があったことなどを高く評価します。今後は、ボランティア登録数に加えて、この登録ボランティアの実際の活動量などをKPIでなくても把握して、地域学校協働活動の広がりを確かめられるよう努力して下さい。協力いただいている活動の統計をとること、学校教育及び地域づくりの効果も把握して分析して下さい。
- ・すべての町立学校がCSに移行したタイミングで、社会教育フォーラムを開催し、他地域のCSの取組を学ぶなど、関係者への研修を徹底している点など学校教育課・生涯学習課の連携もはかれている点を高く評価します。
- ・④でふるさと絆事業、公民館と学校の連携が進んでいること、町に愛着をもつ子どもたちが増えていることを評価します。
- ・⑤で「今後の課題」としている「子どもたちが参加できる方法を探る」ことは、留意しておいて下さい。今後は、卒業生の先輩たちがボランティアとして学校にやってきたりすることで、子どもたちが、将来ボランティアを工夫して下さい。子どもの参加の必要性に気づいているので、評価します。CS事業は、学校づくりと地域づくりの重要な結節点になるので重点施策に位置づけて下さい。
- ・公民館やPTAを媒介しながら、CSに関わる人の裾野を広げて下さい。

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	子育て支援のネットワークづくり	担当部署	子ども支援課
内容	・住民、関係団体等の相互の連携による地域の子育て支援のネットワークを構築し、地域における子育て支援機能の向上に取り組みます。				

33

数量的検証										質的検証			
KPI (重要業績評価指標)										内部検証		外部検証	
指標名	ファミリーサポートセンター会員数			子育てボランティア登録者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	272 人			24 人									
目標値【R7】	290 人			25 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	270	266	98.5%	24	24	100.0%							
令和5年度	270 人	285 人	100.0%	24 人	18 人	75.0%				<p>② 施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年「日野町子育てガイドマップ」「日野町子育て情報」「子育てサロンへ行こう」等の情報誌を発行し、毎月「子育て応援通信」を発行しています。 ・「子育てガイドマップ」は妊娠届出時と転入届出時に配布し、すべての子育て世帯の保護者が子育てに関する施設や相談、集いの場等の情報を得られるように取り組んでいます。 ・「日野町子育て情報」「子育てサロンへ行こう」は、子ども年報や地域、ニーズによって集いの場につながるよう工夫し、ほけっこや保健センター、公民館等で手に取れるようにしています。 ・子育てボランティア養成講座を毎年刊行し、新たなボランティアの確保に努めています。後子館にはつどいのひろばほけっこと事業や各公民館の子育てサロン、保健センターの事業にて連携していただいています。ボランティアのモチベーションを保つため、子育て応援通信・広報等により周知も行いました。 ・定期的に子育て世代と母子保健の担当者が交流チーム会議を開催し、課題を共有し、連携を深めました。 ・「子育て応援フードドライブ」では、町社会福祉協議会、少年センター、子ども家庭実務機関、ファミリーサポートセンター等と連携して開催しました。食事支援が必要な世帯については、フードドライブ型の支援も行いました。 ・フードドライブの取り組みを通じて、協力機関等との連携が進み、賛同のフードボックスの設置、子ども実生のネットワークにつながりました。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て施策の情報の集約と発信を続けます。情報を得にくい情報誌等の世帯へのフードドライブにも取り組みます。 ・子育てを応援に取り組む関係者の集いの場を持ち、地域の子育て支援のネットワークの構築を勧めます。 ・ファミリーサポートセンターについては、依頼員数の増加により登録件数が増え、費用に支援が必要な家庭からの希望が増えています。協会の発注確保のため、引き続きSNS等を用いて登録者数の増加につながるよう周知します。 ・子育てボランティアについては、毎年養成講座を行うことで登録者数が増えてきました。しかし、令和5年度は転出や登録の取り消しにより減少しました。実施できる人が限られてきており、一部の人に負担がかかっています。ボランティアのみさんのやる気の維持や負担軽減のため、研修の機会や活動のPR、新たな登録者の獲得、活動の伴走支援等に取り組みます。 ・「子育て応援フードドライブ+α」を多くの支援機関と一緒に開催し、子育て支援の要る充実を図ります。特に、民生委員に協力いただき、子育て世代と地域がつながるきっかけになるよう取り組みます。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ネットワークを構築するために様々な情報発信を行ったり、ボランティア講座を開いて人材の掘り起こしや確保に努めていることを高く評価します。 ・一方で、「支援ネットワークの構築」が、既存の中核的ネットワークの強化に依存度を高めていないでしょうか？多様な豊かな支援ネットワークの広がりをつくるように「ほけっこ」をハブとしたネットワークの強化・拡大に加えて新たな芽を育ててください。 ・ボランティア養成講座の充実に加えて、子育てで世代と先輩世代など当事者からの新しい取組が生まれ、自発的に成長していくような取組を進めて下さい。成功体験につながる取組をどのように支えていくかが大切です。 ・子育てボランティアの参加者は少ない状況ですが、コロナの影響で無くなった取組が徐々に再開し、ボランティアに参加している人の意欲は高い状況です。参加してもらえる回数が増え、関わっていただける内容の幅も広がっています。 	
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	87.5%		
目標値【R6】	280 人			25 人									
目標値【R7】	290 人			25 人									

基本目標 基本的方向を踏まえた状況

④

- 実施したことの結果や効果
 - ・妊娠から子育てまで切れ目のない支援を行うため、母子保健事業と連携して、「つどいのひろばほけっこ」で妊娠期の教室を行いました。妊娠前から、乳幼児とその養育者と触れ合うことで、新生児や育児の具体的なイメージを持っていただけました。
 - ・新たなボランティア獲得のため、子育てボランティア講座を行い、地域で子育てを行うことの必要性、子どもとの関わり方など行うことができました。
- 実施できていないこと・実施が困難なこと
 - ・様々な活動の場で協力いただける方を呼びかけていますが、会員登録に至らないことが多いです。社会全体で地域への関わりが希薄になっていると感じます。
 - ・子育て世帯の生活様式の多様化や就労形態の変化により、これまでの取り組み（イベント開催や、乳幼児健診での主任児童委員とのかわりなど）では地域とのつながりを持っていただくことが難しくなっています。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - ・子育てに関する取り組みを、広報やSNS等を活用し、繰り返し周知・啓発していきます。
 - ・ボランティアの養成を続けるとともに、現在活動している方がやる気を持っていただけるよう支援を続けます（研修会・意見交換・広報など）。
- 今後の課題
 - ・他分野ボランティア団体（高齢分野・健康分野・教育分野など）と連携し、さらには、参加者同士が助け合える仕組みづくり、子育て世帯同士、地域の住人同士が助けあえる仕組みづくりが必要です。

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まことに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	地域ぐるみでの子どもの居場所づくり	担当部署	子ども支援課	生涯学習課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動が行えるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を計画的に実施し、児童健全育成事業に取り組みます。 ・地域全体で子どもの成長を支えるため、地域人材の繋がりを促進し地域の教育力の向上を図ります。 ・公民館行事等で多世代交流の推進に取り組みます。 ・第2期日野町子ども・子育て支援事業計画に基づき、今後も需要が見込まれる各種子ども・子育て支援事業について、更なる事業拡充に取り組みます。 								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	放課後児童クラブ入所人数			子育てサポーター数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	369 人			9 人											
目標値【R7】	500 人			12 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	400	430	100.0%	10	10	100.0%									
令和5年度	500 人	481 人	96.2%	11 人	13 人	100.0%				<p>施策 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの利用者が増加していることから、日野町子ども・子育て支援事業計画の施設数や利用見込者の見直しを行い、施設の増設を行いました。 ・放課後児童クラブの安定的な運営を行うため、支援員の確保に取り組み、学生アルバイトを募集しました。アルバイトに参加した学生の中から、教師になった人や日野町内に勤め始めた人がおり、地域での働き甲斐を体験していただけるものと考えています。 ・保護者や地域の人々が、子育てに夢と希望がもてるよう、令和4年度に引き続き「幼児教育・保育のあり方懇話会」を開催し、提言をまとめました。 ・地域社会や子育てで家庭を取り巻く環境が大きく変化する中において、「日野町子ども・子育て支援事業計画」の見直しに取り組みしました。 ・経済的、家庭環境等により自宅や塾等で学習することが困難な町内中学生を対象に、少年センターにて学習支援事業（IPPPO）を実施しました。 ・スポーツや文化を通じて子ども同士の交流を促し、子どもの自主性を育てるため、各種団体によるスポーツ活動、文化活動への支援を行っています。 	<p>基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの成果や効果 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の短期雇用に取り組み、支援員の確保を行いました。また、学習保育所の卒業生を短期雇用することで町への愛着と今後の正規支援員確保につながることでできました。 ・子育てサポーターの協力により「親子あそび」を開催し、親子が自然な形で親子の親子が世代と交流を深めることができました。 ・地域の拠点である公民館を活動の場として提供することにより、幼少期をほめる多世代の参画の基盤として醸成され、多世代交流の場となりました。 ●実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子育て支援意識を醸成し、世代間交流を図ることにより、社会全体として子育てに対する理解・支援を促す必要があります。 ・地域における子育て支援・家庭教育の人材育成・育成を図る必要があります。 ・公民館をはじめ、地域における子育て支援・家庭教育をよりきめ細やかに推進するため、人材育成・育成を図る必要があります。 ●実施が困難なこと <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身や保護者が、地域の子育てについて考え、つながりを取り組みが十分ではありません。 ・放課後児童クラブ以外に、放課後に児童が安心して働く場がありません。 ・児童が、保護者や教育者以外の大人とふれあひ、地域とつながる仕組みができていません。 	<p>施策 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの安定的な運営を行うため、引き続き支援員の確保に努め、アルバイトの募集を継続します。 ・子育ての輪が広がり、子育てに夢と希望がもてるよう、「幼児教育・保育のあり方懇話会」の提言をもとに、地域住民と各地域、各種関係団体・機関および事業者が連携した取組を進めていきます。 ・学習サポーターの拡充と受け入れ人数の拡大に取り組みます。（但し、子どもの学習状況を考慮する必要あり） ・子どもにとっても親にとっても安心して活動できる環境づくりに努めます。 	<p>基本目標、基本的方向を踏まえて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●支援員の確保を行うため、大学生や高校生の短期雇用を利用し、安定的な運営が実施できるよう取り組みます。 ●日野町子育て支援チーム会議により、関係各課の子育て施策や事業の連携を検討するとともに、事業実施にあたっては相互に協力体制を構築します。 ●まちへの誇りを持てるよう、公民館・子ども会の事業の支援を充実することにより、参加した子どもがまちに愛着を持ち、住み続けられる基盤づくりを目指します。 ●今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加が見込まれる中、施設の増設等が必要で、施設の老朽化が進む中、安全安心な施設管理に努める必要があります。 ・地域の高齢者や子育ての経験者などの様々な知識や経験を子育てに活かすことができるよう、地区社会福祉協議会等と連携を図り、地域における子育て支援活動の仕組みづくりが必要です。 ・現在実施している事業としては子育てサポーターの数は充足していますが、町の子育て施策として現状のまま進めるのか検討する必要があります。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③で支援員確保のため、大学生・高校生の短期雇用を行い、安定的な運営ができるように努力されていることを評価します。ただし、この雇用を運営からだけで考えないでください。 ・②で学生アルバイトから、教師になったり町内在勤の人が出たりしていることは評価します。②でおきている学生アルバイトの動きを注視して、分析してください。④での学習保育所の卒業生を短期雇用することでアルバイト経験から町への愛着、正規支援員確保につながるなど、安定的運営と将来のまちの担い手を育てることを両にらみで意識して施策を工夫して下さい。 ・「幼児教育・保育のあり方懇話会」の提言をもとに着実な事業推進を行ってください。 ・②③において「地域の教育力の向上を図る」取組がよく見えませんでした。今後は地域の教育力の向上になるように基本目標①施策3の地域学校協働活動の取組との連携をはかって下さい。その点は⑥における「子育て支援チーム会議」から事業の横展開などに通じることなので、個々の事業効果の向上、施策の目指す内容の実現という観点から工夫を行ってください。 ・ボランティアの活動にありがたみを感じ、次は自分たちが取組むようにつなげていくことが大切です。 ・児童のつながりは、他部署にわたるが、地域学校協働活動による地域活動と連携した取組を考える必要があります。 	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	98.1%				
目標値【R6】	500 人			11 人											
目標値【R7】	500 人			12 人											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	青少年の社会参画の促進	担当部署	生涯学習課				
内容	・青少年がボランティア活動や地域活動等に積極的に参加・体験できるよう活動の場や機会の提供に努めます。 ・青年団をはじめとする青少年が活動しやすい環境づくりや人材育成に向けた支援に努めます。								

35

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	ミニスポーツ教室参加者数			カルチャー教室参加者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	353 人			172 人									
目標値【R7】	350 人			170 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	350	329	94.0%	170	161	94.7%							
令和5年度	350 人	305 人	87.1%	170 人	154 人	90.6%				・日野町連合青年会の活動を支援するため、補助を実施しています。 ・日野高等学校ボランティアサークルと連携し、各種町内事業等で活躍いただけるよう庁内の窓口となり、情報提供や調整等の支援を行いました。	・日野町連合青年会主催の事業に対して、財政面、事業運営などにおける支援を実施します。 ・より充実した社会参画やボランティア等の活動の場を提供できるよう、各所への情報提供や広報に努めます。	A	・青少年の社会参画の促進のための施策が、青年会への補助、ボランティア等活動の場を提供する広報・情報提供としてなされていることが判りました。もう少し、基本目標⑥施策6の取組に關わる施策があるのではないのでしょうか。昨年は、KPIに引きつられた内部検証であり、ミニスポーツ教室、カルチャー教室を行うことが「社会参画の促進」につながるのかみえないと批判しましたので、今年は、その点は改善されました。 ・地域のリーダーの育成、ボランティア活動・地域活動に参加する若者(青少年)を増やす方策について工夫を行って下さい。例えば、ミニスポーツ・カルチャー教室参加者からそれぞれの教室から指導の補助役(アルバイト採用・ボランティア)を必ずつけるとか、指導の側、主催側に入る経験をしてもらうなど、受け身で学ぶだけでなく能動的に行動する機会を創出して下さい。受け身で学びを消費するだけでは、リーダーには育ちません。KPIが、本取組の効果として改善されるには限らないので、KPIの設定の要変更も検討して下さい。 ・クラブチームなど競技団体の経営下にある団体が増え、スポーツ活動を通じて社会参画の公共的な役割は変化しているかもしれませんが、公共部門以外も含む子ども全体のスポーツ活動を通じて社会参画の実態を調査する必要があります。また保護者の関わりや個人負担の実態を把握することが大切です。 ・スポーツで優れた成績を上げることも大切ですが、地域の仲間づくりを学校教育の場で行うことが大切です。
		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①		
目標値【R6】	350 人			170 人									
目標値【R7】	350 人			170 人									

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	社会教育の人材育成と活躍の推進	担当部署	生涯学習課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育団体が活性化できるよう支援するとともに新たな人材の発掘や育成に努めます。 ・学習機会と活躍の場づくりの充実に努めます。 				

36

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	公民館利用者数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	86,695 人												
目標値【R7】	88,000 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	87,348	62,617	71.7%										
令和5年度	87,565 人	66,869 人	76.4%										
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	76.4%		
目標値【R6】	87,783 人												
目標値【R7】	88,000 人												

施策 ②

- ・令和3年度から各公民館を利用する各種団体、個人が実行委員会を組織し、地域の課題解決のため、多世代交流ができる提案型活動事業を実施しています。令和5年度は日野、東桜谷、西桜谷、西大路、鎌掛の5地区が実施しました。
- ・住民団体やボランティア、多様な担い手による主体的なまちづくりを推進するため、日野町社会教育フォーラムを開催しました。
- ・ミニスポーツ教室、カルチャー教室を実施し、子ども達に様々な経験の場を提供するとともに、指導者としてその経験を教えられる場を提供しています。
- ・公民館の各種セミナーや講座を通して、様々な学習の機会を充実に図っています。
- ・女性会、青年団等の社会教育団体へ補助金を交付し、活動を支援しています。
- ・提案型活動事業補助金を交付し、公民館を起点に地域の課題解決を進め、多世代交流ができる新たな事業ができるよう図っています。

③

- ・各団体との連携を深めながら、活動を支援していきます。
- ・人材育成の視点で学習の機会を提供します。また、学んだことを地域で活かすことができるよう、活躍の場づくりに努めます。
- ・ミニスポーツ教室、カルチャー教室を実施し、子ども達に様々な経験の場を提供するとともに、指導者としてその経験を教えられる場を提供し、教えられた子ども達が指導者として再びかかわれるよう継続していきます。
- ・各地区公民館が主催する、セミナーや事業、提案型など、地域で新たな人材が発掘、育成できるように努めます。

基本目標 ④

- 実施したことの成果や効果
- ・提案型活動事業を5地区で開催しました。日野：日野地区多世代交流事業（日野中やsが-X 野球大会他）、東桜谷：おうちいふえす（桜谷小や公民館併設型他）、西桜谷：コミュニティの輪（一輪車）（桜子プラザやミニゴルフ）、西大路：おうちあそびるあくしゅん（地域のゴミ拾い、飛び出しのや製作他）、鎌掛：まちづくりネット難排（カロム大会他）、コロナ後の活動として、積極的に多世代交流、住民交流が図れたいと思います。また、提案型を実施する新たな団体と活動が生まれました。
- ・ミニスポーツ教室、カルチャー教室を実施し、子ども達に様々な経験の場を提供するとともに、指導者としてその経験を教えられる場を提供しました。
- ・公民館の各種セミナーや講座を通して、様々な学習の機会を充実に図りました。
- ・住民団体やボランティア、多様な担い手による主体的なまちづくりを推進するため、日野町社会教育フォーラムを開催し、団体の意見交換、交流の場となりました。
- 実施できていないこと
- ・各社会教育団体の人材発掘、育成が不十分です。
- 実施が困難なこと
- ・特にありません。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
- ・各団体が連携を取り合い、基本目標、基本方針に向けて活動を行います。
- ・各地区公民館では、新たな発想での事業を展開し、人材の発掘と育成に努めます。
- 今後の課題
- ・各団体とも会員の減少が最大の課題となっており、会員確保のための工夫が必要です。
- ・学んだことを地域で活かす新たな仕組みづくりの創出と地域で活躍することに誇りを感じられる工夫が必要です。
- ・生涯にわたり社会教育に関係できる継続的なシステムを構築する必要があります。

B

- ・公民館利用者数は前年より4千人以上増えていますが、コロナ以前の水準にはまだ戻っていません。コロナの影響は続いていると言えるでしょう。KPIの数値が76.4%と苦戦しています。ポストコロナ時代の社会教育のあり方を検討する必要があります。
- ・提案型活動事業が5地区で実施されたことを評価します。こうした活動の中から若い世代が実行委員に参加するなど次世代の担い手が育つことを大いに期待します。
- ・ミニスポーツ・カルチャー教室における取組が検証されていますが、指導者としての機会をつくることなどは基本目標①施策6において検証が示すなどして、「基本目標①施策6」で若い世代(青少年)の社会参画に重点を置き検証を行った方が良いでしょう。「基本目標①施策7」では、全世代における「人材育成と活躍の場」の視点から検証を行い、多世代交流等から次世代の担い手を育てるかたちで整理した方が良いでしょう。
- ・各団体の会員減少が最大の課題という状態を直視して、新しい会員の入りにくい要因の分析など団体自身も変わる必要があるかもしれません。役場の支援すべきことは、補助金に限られるのでなく、団体の活性化のための運営能力の向上等が重要ではないでしょうか。
- ・中学生の部活動を地域でどのように受け入れていくのか考える必要があります。

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深めの中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	子どもの読書活動と学習活動の支援	担当部署	図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの旺盛な知的好奇心に応えられる魅力的で豊富な図書を準備し、より一層家庭や地域、園や学校、学童保育、子育てサークル等における読書活動の支援に取り組みます。 ・移動図書館サービスを定期的に幼稚園・保育所・こども園で実施し、家庭での子どもの読書環境の充実に取り組みます。 ・学校図書館と連携し、読書活動と学習活動の支援に取り組みます。 				

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証		
指標名	授業におけるクラス別小学校図書館使用状況（学校司書認知件数）			授業におけるクラス別中学校図書館使用状況（学校司書認知件数）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R2】	27 回			3.7 回										
目標値【R7】	52 回			12.0 回										
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和4年度	37	28	75.7%	7.0	1.3	18.6%								
令和5年度	42 回	31 回	73.8%	8.7 回	0.7 回	8.0%				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内すべての小中学校に学校司書を派遣し、学校図書館利用を促進しています。 ・小学校と連携し、新一年生向け図書館利用案内および利用促進を実施しています。 ・幼稚園や保育所、こども園の園児向けに、絵本の読み聞かせをしています。また、定期的に移動図書館で訪問し、園児に直接本を選んでもらい、貸出をしています。 ・乳幼児向けの絵本コーナーを設置しています。 ・子どもと保護者向けのおはなし会を定期的に実施しています。 ・小学生から高校生までが参加できる図書館クラブを開催しています。 ・図書館の視聴覚室等を各々の居場所として開放しています。 ・保健センターに絵本を設置し、健康等に訪れる親子の絵本に接する機会を増やし、4か月健診時に誕生絵本を贈呈しています。 ・つどいのひろば「ほけっと」に本を設置し、定期的におはなし会を実施しています。 ・町内の公民館に本を設置し、本に接する機会を増やしています。 ・町内のアトリースクールで定期的におはなし会を実施しています。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内全ての小中学校に学校司書を派遣していますが、複数校兼務しており、子どもがいつ学校図書館に行っても対応できるよう、専任の学校司書がいる校数を増やすよう働きかけます。 ・小中学校の授業等で学校図書館をより活用する。本を全く読まない子どもを減らせるよう働きかけます。 ・図書館を拠点として地域社会の中で子ども同士のつながりを作り、子ども達が主体となり活動できるよう図書館クラブを継続して開催します。 ・中高生など利用の少ない年代の声を聞き、その興味関心を引き出す取り組みを行い生涯にわたり図書館を利用する動機となるよう働きかけます。 ・つどいのひろば「ほけっと」だけでなく子育てサロンの会場等に絵本や子育ての参考になる本を配置し、本や必要な情報に接する機会を増やします。 ・読み聞かせなどのボランティア活動に参加する人を増やし、スキルアップする機会を提供します。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書活動・学習支援の活動が様々な展開されていることが判り、高く評価します。また、「その時々ニーズにあった切れ目のない支援」につながる、住民生活の多様なシーンに読書活動・学習支援の機会を作ろうと幅広い取組を行っていることが判り評価します。 ・一方で、KPIは、図書館の努力にもかかわらず、前年よりもマイナスとなり、KPIは下がっています。学校司書を派遣しているのにKPIの数値が上がらない構造を分析する必要があります。 ・図書館の取組の成果を適切に測れるアウトカム指標を探す必要があります。 ・KPIに引きづられて全体の評価が下がってしまうのでKPIの数値向上に資する施策も検討して下さい。 ・子どもへの寝る前の読み聞かせは重要なことで、図書館でも大切さを伝えて下さい。 ・子どもの読書推進を進めることが大人自身の学びを深める機会となるように視点を持つて下さい。 ・図書館クラブの取組が学校や地域に波及することを考え、将来のまちの担い手を育てるとともに中高生の自発的な活動を育てる取組にしてください。また、町内に住む大学生も加われる取組へ発展し、図書館司書を目指すきっかけになることに期待します。メンバーが大学の図書館等へ研修へ行く機会を設けることで、大学に進学するきっかけづくりや日野の図書館の向上にもつなげられることに期待します。 		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	40.9%			
目標値【R6】	47 回			10.3 回										
目標値【R7】	52 回			12.0 回										

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まさに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	9	具体的な取り組み	住民の主体的な文化芸術活動への支援	担当部署	生涯学習課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・町民会館わたむきホール虹や公民館等を活用し、町民主体の各種文化・芸術活動の充実を推進するとともに、普段ふれることのできない芸術活動を提供していきます。 ・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館の文化・芸術活動の連携を強化し、日野町文化協会等の団体とともに、住民が主体的に取り組める文化等の普及を図ります。 ・少年少女ミニカルチャー教室を通して、子どもの文化芸術活動の充実を図るとともに豊かな人間性を育みます。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	文化祭の参加者数			文化祭の出演者数・出演者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	4,000 人			171 団体									
目標値【R7】	4,600 人			180 団体									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	4,100	4,500	100.0%	176	152	86.4%							
令和5年度	4,533 人	4,500 人	99.3%	177 団体	124 団体	70.1%				施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・町民会館わたむきホール虹と図書館を会場に日野町文化祭を、各地区公民館を会場に地区文化祭を町民主体で開催され、町民が制作した作品の発表の場と各種文化に触れる機会を提供しました。 ■町民会館わたむきホール虹 <ul style="list-style-type: none"> ・例年、新しい講座を開催しています。令和5年度は「竹灯籠づくり講座」と「太極拳講座」を実施しました。 ・アウトリーチ型の芸術講座を4年生を対象に開催しました。桜谷小＝華文字、ペン画＝南比小・西大路小、絵手紙＝必佐小、色鉛筆＝日野町。 ・日野町青少年芸術鑑賞会として、日野町内の小学生4年～6年生、学校関係者、保護者を対象に開催しました。 ・町民会館わたむきホール虹、公民館、日野まちかど感応館において文化・芸術活動を通じて連携し、日野町文化協会等の団体とともに、住民が主体的に取り組める文化等の普及を図りました。 ・少年少女ミニカルチャー教室を通して、子どもの文化芸術活動の充実を図るとともに豊かな人間性を育みました。 	基本目標 ④ 基本的方向を踏まえての状況	③ <ul style="list-style-type: none"> ■わたむきホール虹 アウトリーチ事業 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生が優れた文化芸術を体験することができるよう事業を企画します。 ・2024年に馬見岡縮向神社にて「HINO BIG TIMEGLOOVE」を実行委員会方式で開催します。 ・このような事業を通じて、若い世代が他地域の若者と交流したり、多世代交流を促進することにより、地域で生活することに希望と愛着を持ち、次世代を育成しようとするモチベーションに繋がるような環境づくりを進めます。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、各教室から1年でサークル化して活動を継続していることを高く評価します。一方で、KPIになっている「文化祭の出演者数・出演者数」の団体が、28団体減少していることへの評価・分析がありませんでした。18.4%の団体数の減少に正面から向き合う必要があります。 ・団体の育成、既存団体の活性化、など住民の文化芸術活動の団体の活性化、世代交番などを円滑にするための取組が必要ではないでしょうか、従来の支援策とは違う新しい支援を検討して下さい。検討にあたっては、実態を把握する調査から行い、対策が必要な課題を明確にして下さい。 ・ミニカルチャー教室を通じて、子どもたちが地域に愛着を持ち、地域の伝統文化の継承につながるよう支援事業のあり方を工夫して下さい。 ・子どもの減少は、現実としてどうしようもありませんが、参加してくれる子どもの比率が増えるような工夫が必要ですが、指導者の高齢化も教室の存続にもかかわってくるようなまちづくりを進めます。 ・カルチャー教室が伝統文化の継承となるよう進めていきたいと思えます。 ・日野町文化振興事業団や関係機関と連携した取り組みを進めていきます。 ⑤ <ul style="list-style-type: none"> ●今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・町民会館わたむきホール虹、公民館、日野まちかど感応館において日野町文化協会等の団体や町民主体の文化、芸術活動を通じた連携を進めることが課題となっています。 ・カルチャー教室の対象となる子ども達が減少しています。また、指導者も高齢化しています。
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】												
目標値【R6】	4,566 人			179 団体									
目標値【R7】	4,600 人			180 団体									

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深めの中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まことに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	10	具体的な取り組み	ふるさと学習の充実	担当部署	生涯学習課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域住民・団体と協働し、ふるさと学習、講演・出前講座を拡充させ、郷土意識・文化財保護意識の醸成に努めます。 ・各家庭で作られてきた日野菜漬けや郷土・伝統料理を大切な文化ととらえ、その伝承と情報発信をまちぐるみで推進します。 				

39

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証			
指標名	ふるさと学習（学校向け出前講座・展示活動等）実施回数			ふるさと学習（地域向け講座・学習会等）実施回数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	6回			4回											
目標値【R7】	15回			7回											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	10	13	100.0%	6	13	100.0%									
令和5年度	13回	13回	100.0%	6回	19回	100.0%				②	③	A			
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	100.0%				
目標値【R6】	14回			7回											
目標値【R7】	15回			7回											

②

・町内5小学校の6年児童を対象に『ふるさと日野の歴史』を配布、2・3・4年児童に出前授業を、日野中学校1年生を対象とした出前授業を実施しました。
 ・地域住民による子どもを対象としたふるさと学習の取組に支援しました（錦千代クラブ、錦そのめん）
 ・地区公民館、大学会議所、寺新等において、地域住民を対象とした歴史講座を開催しました。
 ・ふるさと館において、食体験事業を実施しました。
 ・伝統料理を継承する会と協力し、郷土料理の調査と食体験事業の新規メニュー開発を行いました（錦井・南比地区）
 ・近江日野交流ネットワークと協力し、地域の魅力を再発見するスキルアップ研修を開催しました。
 ・日野高校茶華道部と共催で、近江日野町ふるさと館においてお茶会を実施しました。
 ・文化財保存活用地域計画の一環として、6地区公民館で日野のだから大発掘ワークショップを開催しました。
 ・町民と協力して企画展「根本忠太郎展」を開催しました。
 ・町民と協力して古文書調査を実施し、地元住民向けに成果発表会を開催しました。
 ・観光協会と協力し、観光イラストマップを制作しました。
 ・観光協会・保存団体と協力し、日野新築山・火曜日祭りの体験ツアーを実施しました。

④

●実施したことの効果や効果
 ・ふるさと学習に協力し、子ども達の地域への主体的な学びを支援しました。子供たちが、学びの成果を、保護者・議員・役職員に向けてプレゼンテーションする発表会が各小中学校で行われており、郷土意識の醸成とまちづくりの担い手としての自覚を促すことができました。
 ・日野のだから大発掘ワークショップの開催を通じ、町民の町に対する愛着や誇りを高めることができました。
 ・町民が、地域の歴史文化を主体的に調査・研究し、発表する取組を支援し、町民の郷土意識の醸成と生涯学習の推進に寄与することができました。
 ・観光協会と協働した取組により、情報発信と関係人口の拡大に寄与することができました。
 ●実施できていないこと
 ・インターネットやSNSを活用した情報発信ができていません。
 ●実施が困難なこと
 ・子育て・若者世代を巻き込んだ事業の実施。

③

・文化財まちづくり計画である日野町文化財保存活用地域計画を策定し、文化庁の認定を受けます。
 ・日野のだからである文化財の調査・研究、情報発信を住民共同で進めます。
 ・コミュニティスクールの本格的な導入を受け、学校・公民館・地域住民と連携し、ふるさと学習を拡充します。
 ・町民、関係団体、文化財所有者が情報共有や意見交換を行うネットワーク会議を設立します。
 ・文化財の調査や事業の企画・運営の担い手を育成するため、日野のだからサポーター養成講座を開催します。
 ・文化財を活かした世代間交流事業を、公民館・図書館・関係団体と連携して実施します。
 ・若者、子育て世代が参加できる事業や仕組みを構築します。
 ・日野観光協会や近江日野交流ネットワークと協力し、日野のだからを活かした交流観光事業を実施します。

⑤

●基本目標、基本的方向を踏まえて
 ・令和6年度に完成予定の日野町文化財保存活用地域計画のもと、地域総がかりで、まちのだからである文化財を保存・継承・活用し、持続発展可能なまちづくりをすすめます。
 ●今後の課題
 ・学校、保護者、地域住民、関係団体、公民館、図書館との連携を強化し、ふるさと学習が、学びと多世代間交流の場となるような仕組みづくりが必要です。
 ・伝統的なまちなみや古民家をまちのだからと捉え、これらを保存・活用するための施策を早急に講じる必要があります。
 ・文化財の担い手の確保と定住・移住の促進という視点をもった交流観光施策の検討が必要です。

・KPIの達成の中でも、地域向けふるさと学習が目標準の3倍以上実施されていることは高く評価します。今後は、学習から活動につながるなどの施策の工夫、活動の活性化につながるよう工夫をして下さい。
 ・郷土料理の調査、公民館の日野のだから大発掘ワークショップの実施は日野のだから、失われかねない伝統文化の保存継承につながる重要な取組です。事業実施がなされていることを高く評価します。
 ・今後、CSの取組から学校におけるふるさと学習の内容の充実、CSの取組から地域自体のまちづくりの取組が質的、量的に転換するように重点的な施策に位置づけて下さい。
 ・次世代を育てるため、③で指摘している「若者、子育て世代が参加できる事業や仕組み」を検討し、事業化して、次世代の担い手を育てて下さい。その際に、基本目標、基本的方向にある「ニーズにあった切れ目のない支援」にあっては、子育てに希望の持てるまちにして下さい。
 ・子どもの学習に親が関わる取組を検討して下さい。
 ・子どもの学びが、子どもの市場価値を高めるためのものになっている社会的な傾向があります。子ども自身、親自身が向のためにやっているのか学び、社会意識から変えていく必要があります。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	11	具体的な取り組み	女性活躍の環境づくり	担当部署	商工観光課	企画振興課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍支援施設「ほけっと」において、就労に役立つセミナー等を実施し、職場復帰や新たな就労を考えている女性の就労支援に取り組みます。 ・仕事と家庭の両立を目指し、ワーク・ライフ・バランスを普及・啓発することで、女性が安心して仕事を継続できる労働環境の整備に取り組みます。 								

数量的検証										質的検証					
KPI (重要業績評価指標)										内部検証				外部検証	
指標名	女性活躍支援施設「ほけっと」における事業による出産後の女性の復職者の増加数(累計)			女性活躍支援施設「ほけっと」における事業による新規就労者数(累計)						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	8人			1人											
目標値【R7】	27人			27人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	17	19	100.0%	14	10	71.4%									
令和5年度	20人	41人	100.0%	18人	13人	72.2%				② <ul style="list-style-type: none"> ・4か月児健康診査時に保護者に対し、「ほけっと」の事業説明を行い、参加しやすい関係作りを実施しました。 ・女性活躍支援施設「ほけっと」で、就労を考えている子育て女性を対象に扶養に対する正しい知識やライフスタイルにあった働き方のセミナーを1回開催し、子育て世代の女性一人ひとりが抱えている不安や悩みを参加者同士で共有・共感できる機会を提供しました。(参加者4名) ・就労に向けた不安や悩みの解消を図るとともに、自身のキャリアを考え、学び、挑戦できるよう専門カウンセラーによる就労相談会を2回開催しました。(参加者4名) ・女性デジタル人材・女性起業家育成事業の一環として、Instagram活用セミナーを開催しました。(参加者6名) デジタルの知識を身につけ、就労時における仕事の選択肢を広げるとともに、柔軟な働き方を選択できるよう、学習機会を提供しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・産後の女性が社会とのつながりを継続して持てるよう「ほけっと」の利用拡大に向けた取組みを行います。 ・主に在宅で子育て中の女性をターゲットに、今後の就労復帰または新たな就労を考えておられる方に向けて事業を贈りましたが、女性の社会・地域における活躍を広く応援していくためには、すでに仕事と子育てを両立している女性や子育てを終えた女性等、様々な女性と交流できる機会を創出し支援していくことが必要です。 ③ 引き続き女性デジタル人材や女性起業家の育成プランの実施や就労復帰に向けた不安や悩みの解消を図るとともに、自身のキャリアを考え、学び、挑戦することができる学習機会の提供に努めます。 ③ デジタルスキルの習得に関するセミナーや講習等については、国や県、他市町の動向に目を向けながら、引き続き関係団体と密に連携をとり情報提供に努めます。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・「ほけっと」を起点とした就労支援の取組が着実に成果を上げていることを評価します。 ・就学支援や人材育成の事業を展開していることを高く評価します。一方、②③では「ワークライフバランスを普及・啓発」する部分が少しみえにくいです。 ・価値観の変化、生き方の多様化がすすんでいます。女性活躍の環境づくりは、時代の変化にあわせて施策の工夫が必要です。 ・小学校入学後の働き方を考えたい方もおられると思われるので、ほけっとに来られる方以外にもセミナーの案内を広げて下さい。 ・セミナー参加者同士の横のつながりをつくることで、産業施策の範疇だけではなく様々な意味を持つこととなるので、施策の工夫をして下さい。 			
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】												①	86.1%	
目標値【R6】	23人			22人											
目標値【R7】	27人			27人											

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○持産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	農業経営・担い手育成への支援	担当部署	農林課
内容	・農家等経営の合理化、生産体制支援の仕組みづくりの促進を実施し、法人営農、集落営農、および新規就農従事者等、意欲と能力のある経営感覚に優れた担い手の確保・育成に取り組みます。 ・集落の事情に応じた集落営農組織等を支援します。 ・貸し手と借り手をつなぐため、農業組合、農業委員会や農地中間管理機構との情報共有を実施します。				

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	人・農地プランの作成集落数			地域計画の策定地区数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	21 集落			0 地区									
目標値【R7】	25 集落			7 地区									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	22	22	100.0%										
令和5年度	令和5年4月からの農業経営基盤強化促進法の改正施行により、人・農地プランから「地域計画」に制度上変更されたため測定しない。			3 地区	3 地区	100.0%				② ・地域計画の策定に向けたアプローチや支援については、全体的なものと同別集落の状況に対応できるよう小さな単位での取り組みを行いました。同一集落へ継続し複数回入り込み、地元の状況に応じた検討に関わり助言等を行いました。 ・農地の賃借については、今後、農地中間管理機構に一本化されることから、その活用について説明会や農林課窓口で周知を行いました。 ・認定農業者の認定は、9件（更新5件、新規4件）の認定を行いました。水稲作中心に新たな経営体の確保に努めました。	③ ・関係機関で構成する日野町地域計画検討会を継続して開催し、地域計画の進め方について検討します。 ・将来の農地利用の姿を明確にする地域計画の策定に向けて、集落代表者、担い手や関係機関と連携し、説明会や寄り合いを開催する等幅広く周知していきます。 ・地域計画（目標地図）の策定の取り組みを加速化させるとともに、すでに策定された地域での地域計画の実行に向け、啓発やフォローアップに努めます。	B	・地域計画を策定することによって②-1の取り組み内容がどの程度実現するのでしょうか？内部検証②③の書き方は、地域計画づくりが目的化しているように見受けられます。集落営農組織等の支援にどのようにつながっているのか、何をしたのか判りません。 ・認定農業者の認定以外に、「担い手の確保・育成」の取組がみえません。農地の賃借は、農地中間管理機構に一本化されるそうですが、農業委員会、農業組合との情報共有は実施できていますか？不要ですか？一本化によって今後何が必要なのか検証してください。 ・担い手不足への対応として、集落内だけではなく家庭の中でも話し合い、上の世代から下の世代につなぐことについて考える必要があります。 ・田舎で暮らすことは都会で暮らすよりも力量が必要です。地域を愛する心があっても自信が無いと暮らすことができません。子どもたちに田舎で暮らす自信をつけさせることが必要です。 ・学校教育の場で地域を自分たちで守り育てるという学力や心持をつけていく必要性を地域が自覚して、学校教育の場に向けていく必要があります。
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	100.0%		
目標値【R6】	測定しない			7 地区									
目標値【R7】	測定しない			7 地区									

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組み創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	農業生産・特産品の振興	担当部署	農林課
内容	・原産日野菜や近江牛、近江米、北山茶等の特産品の安定的な生産・供給体制、販路開拓への支援に取り組みとともに、6次産業化を図り、原産地等による地域ブランドとしていくことで付加価値を付け、特産品の振興を図ります。				

42

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証			
指標名	インショップ販売額			日野菜出荷量			獣肉販売量			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R2・1】	26,890 千円			42 t			805 kg								
目標値【R7】	30,400 千円			56 t			2,000 kg								
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	28,000	30,002	100.0%	48	32	66.7%	815	1,014	100.0%						
令和5年度	30,100 千円	28,676 千円	95.3%	50 t	27 t	54.0%	1,050 kg	1,827 kg	100.0%	②	・日野菜をはじめとする出荷用野菜の生産者に対し、生産に係る機械導入を支援し日野菜の栽培等に活用いただきました。 ・JAグリーン/近江日野菜産物加工施設において、日野菜の拍子切り機（スライサー）導入を支援し生産効率の向上に寄与しました。 ・G登録された近江日野菜産物のさらなる価値向上と普及啓発を目的に、首都圏での営業活動や、ワークショップを実施したほか、フードジャーナリストを招聘し町内で講演を行うなどJAや県と連携し取り組みを行いました。 ・北山茶の後継者発掘については関係機関と連携し支援しました。	③	・日野菜の生産拡大に繋がるように機械の導入に係る支援を継続します。 ・JAグリーン近江と滋賀県と連携して、日野菜の栽培指導を継続して行うとともにコーティング種子の試験栽培による省力化や、早播きによる栽培期間の平準化の普及に努めます。 ・G登録された近江日野菜産物の希少性を生かした販路開拓、マーケティングや加工特性の研究を通じて販売単価の向上に努めます。 ・新規に近江牛肥育事業への参入希望者があり、関係機関が連携し支援します。	A	・原産日野菜は、日野町にとって重要な産品とされていますが、内部検証が全体的に日野菜のことに偏っているようにみえます。日野菜が気候等の影響を受けて出荷量がKPIを大幅に割り込んだことは残念ですが、仕方ないと思います。 ・6次産業化の取組が全くみえてきません。1次産品としての生産の安定化で手一杯なのかもしれません。 ・⑤の内部検証について、産業担当部署が、文化的価値についての視点を設けたことは良い視点です。日野菜はマーケットに出ることだけではなく、日野町にとってそれ以上の価値があると思います。技術を保持して続けていくことで、その価値が次の時代に花開くかもしれません。 ・6次産業化については、連携する企業の視点も大切です。理想は町内企業と連携し、新しい商品開発を行うことで町内企業を育てることもつながります。農林課の発注が町を守る思想を持った技術者を育て、知力のある企業を育て、地方経済が強くなります。
										④					
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	83.1%				
目標値【R6】	30,200 千円			53 t			1,900 kg								
目標値【R7】	30,400 千円			56 t			2,000 kg								

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	林業の振興	担当部署	農林課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用資源が増加していることから、木材搬出を促し世代を超えて持続可能な産業となるよう振興を図ります。 ・未利用人工林の整備を進めます。 ・森林組合等に対して森林施策、木材搬出が実施できるよう林道・作業道整備等の支援を行います。 							

43

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証		
指標名	町産木材の搬出量									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R2】	1,380 m													
目標値【R7】	2,900 m													
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和4年度	1,828	2,586	100.0%											
令和5年度	2,400 m	2,450 m	100.0%							施策 ② ・令和3年度から継続して大字熊野（A=20ha）において、森林境界明確化事業を実施しています。 ・里山・竹林整備を行う際に伐採（伐竹）および剪定された枝や竹を破砕する竹林破砕機の利用費について補助金により財政支援を行いました。（蓮花寺農組、林研グループ） ・木材搬出を促進するため、町内で行われた搬出間伐（V=701m）に対し、県の選林間伐補助金への上乗せ補助を実施しました。 ・森林組合が森林所有者から受託して行う森林施策（A=13.27ha）に対し、町で間伐対策補助を行いました。 ・新たに森林施策の効率化を図るための機械、ソフトの導入、人材育成等について補助金により財政支援を行いました。	基本目標 ④ ●実施したことごの成果や効果 ・森林境界の明確化（熊野、20ha） ・森林経営管理制度の実施へ向けた所有者等への意向調査（熊野） ・人材育成（オペレーター、主伐技術者の資格取得）に対する財政支援 ・森林経営管理制度による施策の推進に関して、県のアドバイザーと協議や検討。 ●実施できていないこと ・森林境界明確化事業の更なる実施区域の拡大 ・今後の林業施策の方針検討。 ・林業振興の需要面からの施策の検討。 ●実施が困難なこと ・特にありません。	基本目標 ⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて、更なる森林境界明確化事業の取組みを推進します。 ・また、境界の明確化や意向調査の結果を踏まえた上で、森林経営管理制度による林業経営の効率化を林業事業者等と協議し進めます。 ・林業や森林資源活用の拡大に関して研究し、施策に反映させていきます。 ・今後の林業施策について、関係機関等との協議等により方針等の検討を行います。 ・林業振興の需要面からの施策の検討を行います。 ●今後の課題 ・森林環境譲与税の更なる活用方法を検討する必要があります。	A	・未利用人工林の整備、未利用資源の有効活用のためにも、森林境界明確化事業が重要なものは理解しますが、林業振興の全体ビジョンがみえないので、「持続可能な産業となるよう振興」しているようには見えません。 ・内部検証からは、森林境界明確化事業といくつかの財政援助をしているのは判りましたが、②-③の取組内容が、その財政援助で実現できているのか明確にしてください。取組内容との対応関係が不明確です。 ・昨年の外部検証でも指摘していますが、森林環境譲与税を有効に活用して、林業振興につなげて下さい。譲与税財源の有効活用について検討して下さい。 ・内部検証をみてみると、供給側施策に偏っており、④⑤では、基本的方向を考えた住民の木質資源の利用等(需要側)施策を検討し、その財源に森林環境譲与税の活用が出来ないかなど検討して下さい。 ・林業担当はどのように底堅い需要を作っていくかを考える必要があります。需要を増やすことで森林組合の仕事にもつながります。町の経済や取引の仕組みを変えていく野心を持った仕事をして下さい。 ・木質バイオマスストーブを好む人が多くなってきています。環境面も考えると価値のある方向性だと思えます。
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	100.0%			
目標値【R6】	2,600 m													
目標値【R7】	2,900 m													

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用につなげます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	地域内経済循環の推進	担当部署	農林課	商工観光課			
内容	・町内の消費拡大と地域内経済循環につながるよう、商工会や関係団体と連携し、企業間取引の促進に取り組みます。								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	おさんぼカード利用ポイント数			住宅リフォーム等促進事業実績額						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1・2】	473 万ポイント			329 百万円									
目標値【R7】	500 万ポイント			330 百万円									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	485	4,026	100.0%	330	379	100.0%							
令和5年度	490 万ポイント	608 万ポイント	100.0%	330 百万円	368 百万円	100.0%				② 過去に実施した地域内経済循環の実施資料を基に町内の経済支援として「ふるさと日野町がんばろうクーポン券」を発行し、町内商店の活性化に取り組みました（6,600万円分）。 ・住宅リフォーム工事に対して地域商品券で助成を行い、商業、工業両面にわたる地域内経済循環の推進に取り組み、計115件906.5万円の助成を行いました。 ・過去に実施したおさんぼカードの電子マネー化により、マネーチャージ時にプレミアムポイントを付与し、消費拡大と利用者の増加に繋がりました。	③ 過去に実施した地域内経済循環実施資料を基に住民の生活応援および町内の消費喚起、地域経済の回復を促す事業を実施します。 ・住宅リフォーム等促進事業の推進に継続して取り組み、町内建築事業者や町内商店を地域内循環型の経済支援として実施します。 ・町内個人商店の集客が増えるよう商工会と連携し、おさんぼカードのPR活動や町内周遊アプリを活用したクーポン券事業に取り組みます。	A	・地域内経済循環を推進するために、「がんばろうクーポン」「住宅リフォーム」「おさんぼカード」の取組がなされていることが判りました。それ以外の取組は他には、何かなされていないのでしょうか？内部検証が、KPIの項目に引きつられているようにみられます。 ・基本目標② 施策4「地域内経済循環の推進」は、基本目標②の中でも重要な取組です。既存の統計データの整理、買い物調査など可能な範囲から地元経済の実態を把握する調査を実施したり、「おさんぼカード」「がんばろうクーポン」の利用データからの消費行動分析をしたりといったことも可能かもしれません。 ・④で「雇用の創出に結びついていない」との現状分析をしたら、⑤で「雇用創出」「創業」にかかわる取組もあった方が良いでしょう。 ・町内商店・生産者の高齢化・後継者不足からの町内消費の低迷をどう評価し、対策・対応を考えているのかみえません。総合計画でも「地産地消」の言葉が使われていますが、地元商業の振興を多面的に考えて施策を工夫して下さい。 ・基本目標② 施策4は、基本目標② 施策5とも関連性が高いと思われるので、施策の連携をすすめて下さい。 ・地域の商店は、高齢者の居場所となっており、社会教育的意義があります。行政と商工会で情報交換を行い、持続できるような支援を検討して下さい。 ・クーポン券などのインセンティブだけではなく、地域内経済循環の実態を調査し、調査結果に基づく住民への知識の普及啓発の中で、行動変容を起こして下さい。
		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									④ 実施したこと成果や効果 ・事前に調査していた各社の取扱製品や自社の強み、事業内容を取りまとめた資料を企業懇談会に配布し、町内企業、事業者同士が連携できるような取り組みました。 ・商工会と連携し、町内企業、事業所の広報活動を実施しました。 ●実施できていないこと ・地域内経済循環までは出来ているものの、新たな雇用の創出に結びついていません。 ●実施が困難なこと ・店舗併用住宅が多く、店舗のみ切り離れた事業承継の理解が得にくい。		
目標値【R6】	495 万ポイント			330 百万円									
目標値【R7】	500 万ポイント			330 百万円									

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	創業・コミュニティビジネスへの支援	担当部署	商工観光課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携し、広報誌、ホームページや各種媒体を活用し「創業塾」や創業支援制度の周知に努めるとともに、創業後も経営等の相談を受ける伴走型支援に取り組みます。 ・コミュニティビジネス等の創業者との交流会を開催し、創業者ニーズの把握に取り組み、施策を展開します。 							

45

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証		
指標名	創業件数（累計）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R1】	12 件													
目標値【R7】	25 件													
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和4年度	17	20	100.0%											
令和5年度	19 件	22 件	100.0%							② ・商工会が主催される創業塾は8回の講義が実施され、町の広報誌で周知に努め、新たに4名の参加がありました。 ・過去の創業者に意見を求め、女性の多様な働き方の導入を支援するため、デジタル人材育成プランの中でSNSを仕事に活用するための研修を実施しました。また、参加者の中から創業を希望する者を創業塾の参加を勧めました。 ・日野町空き家空き店舗活用支援事業補助金を活用して、新たに2名の方が創業されました。創業者の中には町のイベントへの積極的な参加と、町内周遊アプリのクーポンへの参加をしていただきました。	③ ・創業塾は商工会と連携し、あらゆる情報媒体を活用し受講者が増えるよう取り組みます。 ・デジタル人材・起業家を育成するためのセミナーや就労につなげる相談支援、ネットワークづくりの支援を行います。 ・日野町創業支援補助金の活用や創業塾による経営ノウハウの支援、創業チャレンジジョブによる経営の練習など安心して創業をチャレンジする体制整備に取り組みます。	A ・創業塾、創業支援の施策により、新規創業者2名が出ていたことを確認しました。昨年に引き続き、少しずつ効果をあげていることを評価します。伴走支援や創業者ニーズの把握も取り組みが始まっているようですが、創業が、基本目標2施策4の「地域内経済循環の推進」につながるよう施策の連携と工夫をすすめてください。 ・④⑤において、空き家、空き店舗の利用を進めることが言及されており、町の賑わいの創出も検討されている点は評価しますが、「基本的方向」を踏まえた現状分析と今後の取組を考える必要があります。人と人をつなげたり、町内連携をすすめるための取組がみえてきません。幅広い視点で施策も検討してください。 ・創業された経営者への匿名調査を行い、ニーズを把握したり、どういった背景で起業、経営されているかを把握することで、今後の可能性や空き・空き店舗活用のための施策を検討して下さい。		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】								①	100.0%				
目標値【R6】	22 件													
目標値【R7】	25 件													

基本目標 基本的方向を踏まえた状況

④

●実施したことの影響や効果
 ・空き家空き店舗を活用した創業者に対し、改修経費や賃借料補助など安定した経営が行えるよう支援を行いました。
 ●実施できていないこと
 ・創業者からの相談に対しては対応しているが、創業者に対して行政からアウトリーチはかけられていない。
 ●実施が困難なこと
 ・空き店舗ではあるものの、店舗併用住宅が多く、店舗のみを切り離した事業承継の理解が得にくい。

⑤

●基本目標、基本的方向を踏まえて
 ・空き家空き店舗の利用を通して、町の賑わいを創出し、地域経済の発展に資する取り組みを継続して取組みます。
 ・創業者が望む施策が展開できるよう、ニーズ把握に努めるとともに、他の創業者との情報交流の場の提供に取り組みます。
 ●今後の課題
 ・大型店舗やチェーン店が増えるなか、町内個人商店が営業を続けるため、関係機関と連携して魅力ある店舗づくりに努めることが望まれます。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	新たな産業分野の誘致と創出	担当部署	商工観光課	企画振興課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県、県産業支援プラザ、金融機関等と連携するとともに、新たな産業分野の企業進出にかかる優遇制度の拡充を検討し、誘致を進めます。 ・空き店舗等を活用し、時代の変化に対応した新しい産業創出に努め、サテライトオフィス誘致等に取り組みます。 								

47

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	サテライトオフィス等の設置			サテライトオフィス等施設を利用する企業の増加数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	0 件			0 社・団体									
目標値【R7】	1 件			1 社・団体									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	1	1	100.0%	3	3	100.0%							
令和5年度				1 社・団体	0 社・団体	0.0%				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル田舎都市国家情報推進交付金（地方創生テレワークタイプ）を活用し、整備されたサテライトオフィスの運営事業者と定期的に懇話し、サテライトオフィスをひとつの拠点として活動する事業者の拡大や地域での交流事業が展開されるよう情報共有しました。 ・サテライトオフィス等施設を利用する企業の増加には至っていませんが、施設を含めたスペース全体でワークショップの出席やツアー参加の拠点のひとつとして、事業者との連携につながっています。 ・近江日野商人の歴史的、文化的、社会経済的価値に着目し、長寿企業が実践する持続可能な経営を研究・啓発する視察ツアーを実施しました。 ・昨年に引き続き、近江日野商人サミットを開催し、ゆかりある企業への町の特産品の販路開拓につながりました。 ・宿泊事業者が新たに進出することや既存事業者がコロナ明けのインバウンド対応のための改修などに対しての補助金を創設しましたが、町内に宿泊事業者が少ないことから利用があまりませんでした。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度には、サテライトオフィス運営事業者や進出事業者と連携し、開設されたサテライトオフィスでのワークショップ等のイベント開催による一般利用を検討されていることから、引き続き、情報共有しつつ、必要な支援をおこないます。 ・近江日野商人サミットや長寿経営、近江日野商人の視察ツアーを継続し、ゆかりのある企業や持続経営を志す経営者、起業を目指す者に日野商人の経営哲学や地域との関係性などの情報発信や人材育成に努め、「商人道」の町として知られるよう努めます。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィス等施設の利用企業が増加していないことは残念ですが、社会・経済情勢の変化もあるでしょうから一喜一憂することなく、適格な情勢分析に基づいた政策判断も求められるでしょう。 ・サテライト事業者は今までにない新しいアイデアの取組が期待できるので、関係人口として定着するための仕掛けを検討してください。 ・サテライトオフィスを中心とする内部検証になっておりますが、基本目標②施策7自体では、サテライトオフィス以外の「新たな産業分野の誘致と創出」についても幅広い取組がなされていると思われると思いますが、「近江日野商人サミット」の開催も高く評価します。こうした取組を起点とした広がりのある取組をすすめて下さい。 ・④で言及されている大学生とのワークショップの取組など、町外の大学生が一過性ではなく継続的に日野町に訪れ、関係人口となるような大切な芽を育てて下さい。また学生に対する交通費などの補助制度を県に要求するなど検討してください。 ・⑤におけるNPO団体設立の動きは、空き家・空き店舗対策、基本目標②施策5「創業・コミュニティビジネスへの支援」とも関わる重要な動きであると思います。情報収集・情報共有をすすめて、適切な支援策を行い、成果のある施策につなげて下さい。 	
										<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの成果や効果 ・サテライトオフィス進出事業者のひとつが京都芸術大学や滋賀県立大学の学生とともに周辺整備のワークショップを実施されたことにより、学生と町民とがつながる機会となっています。 ・近江日野商人に着目した地域振興、情報発信を行い、ゆかりある企業や町内外の経営者等に対し、近江日野商人や日野町の認知度向上と交流人口の増加、町の活性化に寄与しました。 ●実施できていないこと ・特にありません。 ●実施が困難なこと ・特にありません。 	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・空き家や空き店舗の活用に向けたNPO団体の設立の動きがあります。その動きが「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながり、新たな取り組みが生まれるものとなるよう、情報共有しつつ、必要な支援をおこないます。 ・近江日野商人に着目した地域振興、情報発信、調査研究、人材育成を行い近江日野商人や商人道の町としての認知度を向上させ、交流人口の増加や町の活性化に努めます。 ●今後の課題 ・サテライトオフィスを拠点とした新たなひとやことの流れの創出、更なる地域経済の活性化につなげるためには、地元企業や商工会等との交流や連携が深まる体制づくりをおこなう必要があります。 ・日野町が「商人道」の町であることの認知度を向上させる必要があります。 		
目標値【R6】	測定しない			1 社・団体									
目標値【R7】	測定しない			1 社・団体									

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	町内雇用の促進と雇用機会の拡充	担当部署	商工観光課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会等関係機関と連携し、町内企業との懇談会や企業協議会、企業訪問等により、町内雇用を促進します。 ・職業安定所等関連機関と連携し、求職者のニーズに基づく雇用機会の拡充を図り、女性や高齢者等の幅広い年齢層に対して就職情報や就労相談の場を提供します。 ・シルバー人材センターも含めた地域雇用の創出と求職者のニーズに沿った就業を支援します。 				

48

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	町内企業に勤務する従業員のうち町内居住者の割合									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	21.5 %												
目標値【R7】	27.0 %												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	26.5	26.4	99.6%										
令和5年度	26.5 %	28.4 %	100.0%							<p style="text-align: center;">②</p> <p>・新たに操業を開始した工場で町内新規雇用者の人数に対し、雇用促進奨励金を交付しました。</p> <p>・日野中学校1年生に対し、日野町に住み続けたいよう、ふるさと学習を実施しました。また、日野高校生に対し、就業支援を目的としたキャリア形成教育とインターンシップなど地域との連携を図り、町に活力を与え、安心して生活できる居場所づくりを担う人材育成を実施しました。</p>	<p style="text-align: center;">③</p> <p>・「ほけっと」にハローワークの求人情報が誰かが閲覧できるよう体制を整えます。</p> <p>・日野中学校1年生に対し、日野町に住み続けたいよう、ふるさと学習を実施します。</p> <p>・日野高校生に対し、就業支援を目的としたキャリア形成教育と地域との連携を図り、町に活力を与え、安心して生活できる居場所づくりを担う人材育成を実施します。</p>	A	<p>・②③でシルバー人材センターも含めた就業支援の部分がみえてきませんでした。④⑤のシルバー人材の記述は、②③の方がふさわしいでしょう。</p> <p>・KPIにある町内居住者の割合が上昇していることは高く評価しますが、実数もあわせて参考数値として示した方が良いでしょう。比率と実数の両面から適切な評価が行えます。</p> <p>・④⑤でシルバー人材に言及されていますが「基本的方向」をふまえた「高齢者のいきがい」や「豊富な経験、技術、知識を持った人々がつながる機会づくり」を具体化する方向性で施策を検討して下さい。</p> <p>・日野高校生へのキャリア形成教育への連携などを高く評価します。</p> <p>・日本全体の就業構造の変化に対応した雇用促進、雇用機会の拡充を考える必要があります。</p> <p>・定年延長による高齢者雇用者の雇用状況の実態を把握されているのであれば②③に記述して下さい。町内居住雇用者を把握するための意向調査の中で、町内居住高齢者の比率が高くなっているのであれば、シルバー人材センターに代わる地域の高齢者雇用を確保できていることになりました。</p> <p>・高校生や大学生が日野町の産業に携われる機会があれば、ここに住みたいと思う人の増加につながります。また地帯では大学生が古民家を借りてカフェを運営して学んでいる事例があります。町として場所を提供したり、サテライトオフィスの空き期間を活用するなど、新しいものを若者を中心に取り組める仕組みを検討してください。</p>
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】								①	100.0%			
目標値【R6】	27.0 %												
目標値【R7】	27.0 %												

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付け、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しするような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	商工業の活性化	担当部署	商工観光課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携し、大型店にはない商店の強みや魅力を磨き、発信することで、商店や商店街に人が集まり町が活気づくような施策を実施します。 ・商工会と連携し、第三者承継も含めた事業承継に取り組み、事業継続の支援をします。 ・観光施設や地域イベント等への誘客を促進し、※交流人口の創出と賑わいのあるまちづくりを進めます。 ・住宅リフォーム等促進事業の継続により、商工業の活性化を図ります。 ・ふるさと応援寄附制度や観光との連携を通して、地元商業の活性化に取り組みます。 				

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	住宅リフォーム等促進事業による空き家リフォーム助成件数			ふるさと応援寄附の返礼品額						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R2】	0 件			1,489 千円											
目標値【R7】	5 件			9,000 千円											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	2	4	100.0%	4,500	7,512	100.0%									
令和5年度	3 件	1 件	33.3%	6,000 千円	14,609 千円	100.0%				②	③	B			
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	66.7%	④	⑤		
目標値【R6】	4 件			7,500 千円											
目標値【R7】	5 件			9,000 千円											

施策 ②

- ・物価高騰の中、建築資材の高騰による地域建築需要の支えを行うため、個人住宅のリフォームおよび町内へ転入を予定する空き家住宅のリフォームに対し、地域商品券の助成を行い、個人消費の促進と多岐にわたる業種に経済効果を与え、地域経済の活性化を行うことができました。
- ・ふるさと応援寄附について、地元商店と調整を行い返礼品の拡充に努めました。また、一部返礼品を関東の販売店で取扱いたくなど、販路拡大にも努めました。
- ・商工会と連携し、町内商店等で事業承継の推進に努めました。

③

- ・地域建築需要の支えを行うため、個人住宅のリフォームおよび町内へ転入を予定する空き家住宅のリフォームに対し、地域商品券の助成を行い、個人消費の促進と地域経済の活性化を行います。
- ・ふるさと応援寄附の取組の拡充と寄付を通じて町内特産品の振興を行うとともに、販路の拡大に取り組みます。
- ・商工業の振興および地域コミュニティの維持発展のため、事業承継の促進を加速します。

基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④

- 実施したことの成果や効果
- 町内周遊アプリを活用した各店クーポン券の発券により、町内商店の利用拡充に取組みました。
- 商工会と連携し、事業承継の推進に努め、後継者の確保に努めました。
- クーポン券やリフォーム促進による地域内経済循環の概要基礎シートを作成し、事業内容の研究を行いました。
- 実施できていないこと
- 当町に来庁された方がふるさと応援寄附制度を活用して、即日決済型のサービスの提供の実施。
- 実施が困難なこと
- 特にありません。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
- 当町に来庁された方がふるさと応援寄附制度を活用して、即日決済でサービスの提供が受けられる仕組みづくりの構築を行います。
- 商工業の振興および地域コミュニティの維持発展のため、事業承継の促進と空き家、空き店舗の利用を通じて町のにぎわい創出、地域経済の発展に取組みます。
- 今後の課題
- 店舗併用住宅が多く、店舗のみを切り離れた事業承継の理解促進。

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	まちぐるみでのおもてなし	担当部署	商工観光課				
内容	・まちなか等の町民の自主的なイベントを応援するとともに、町民自らがまちのたからに誇りを持ち、その魅力を楽しみながら、おもてなしの心で観光受入に関わる人を増やします。 ・商業面と連携した誘客確保や観光協会等と連携した観光ガイド等観光受入体制の充実を図ります。								

50

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	観光入込客数（年間）過去3年平均									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	623,900 人												
目標値【R7】	650,000 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	550,000	458,202	83.3%										
令和5年度	580,000 人	516,080 人	89.0%							施策 ② ・宿泊を伴う教育旅行の受入の再開により、受入家庭の新規獲得や休会していた者の再開により受入家庭数の拡充に取組みました。また、より一層のおもてなしの心で観光受入ができるよう研修を行いました。 ・味覚市やひな祭り紀行など町の賑わいを創出する住民主体のイベントを支援するとともに、出店希望者との調整を行い、出店者の拡充に寄りました。 ・観光協会や商工会青年部等と連携し、観光客が過ごしやすい施設の整備を行いました。併せて、商工会青年部会員に町の観光施設の魅力や受け入れに係る者の再認識に寄りました。	③ ・教育旅行の受入家庭や観光ボランティアガイド、観光サポーターの拡充に係る取組みを行います。 ・観光受入人材の拡充を図り、受入家庭のおもてなしの心の向上を図る取組を進めます。 ・周遊アプリ「くるりん日野ナビ」の内容を充実させ、商工事業者とも連携をはかり、本町への誘客と周遊促進に努めます。 ・滋賀県内の大学生を対象に、日野町への愛郷心の醸成および学生の居場所づくりに取組みます。	A	・移住者に対して、対面ヒアリングやアンケート調査等を行い、様々な実態を把握して下さい。⑤において、今後の課題に調査を上げている点を評価します。各種調査を必ず行って下さい。令和7年度予算要求してください。 ・③にある、大学生対象の取組は、関係人口を増やすという文脈で④⑤で内部検証して下さい。 ・出店者の拡充に際して、「おもてなしの心で受入」するための工夫を示して下さい。 ・空き家、空き地の利活用などの他の施策との連携を深めて下さい。 ・受入家庭の質が上がることは町民の質が上がることになり、まちぐるみでのおもてなしに取組んでいることにつながります。
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	89.0%		
目標値【R6】	610,000 人												
目標値【R7】	650,000 人												

基本目標 基本的方向を踏まえた状況 ④

●実施したことの影響や効果
 ・日野町の暮らしや歴史、文化を体験できる観光メニューを創出するとともに、観光ボランティアガイドやインストラクターの確保を行い、観光受入体制の拡充に努めました。
 ・商工会青年部等に観光施設の修繕を依頼し、町の観光施設の魅力や受け入れに係るおもてなしの心の醸成に努めました。
 ●実施できていないこと
 ・観光による魅力発信や新たな取組みを実施しているものの、移住者へのアンケート等を行っていないため、関連が不明です。
 ●実施が困難なこと
 ・町へ移住された方の理由の確認。

●基本目標、基本的方向を踏まえて
 ・観光振興および地域コミュニティの維持発展のため、空き家、空き店舗の利用を通じた町のにぎわい創出、地域経済の発展に取組みます。
 ・住民に町の観光施設の魅力や町に住んでよかったと思える関係作りと地域の愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。
 ●今後の課題
 ・移住者へのアンケート等を行い、観光振興と移住の関連を確認する。

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。 				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	地域資源を活かした体験型観光の推進	担当部署	商工観光課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・近江日野商人、自然、歴史文化、町並み等の地域資源を活用した取り組みへの観光誘客を促進します。また、地元商店等と連携した観光の取り組みの促進により、関係人口の増加を図ります。 ・体験型観光については、日野の魅力を生かした体験を推進し、更なる誘致を進めます。また、都市農村交流の意義等を住民に理解してもらえよう、情報発信に積極的に取り組みます。 								

51

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	農泊受入人数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	3,563 人												
目標値【R7】	4,000 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	1,000	166	16.6%										
令和5年度	2,000 人	1,322 人	66.1%							施策 ② ・近江日野商人、歴史文化、町並み等の地域資源を活用した取組みとして、ひなまつり紀行の開催や日野祭、火祭り祭りの体験型観光の実施、長寿経営を科学した近江商人視察ツアーの開催を支援しました。 ・農村体験事業については、宿泊を伴う教育旅行受入を再開し、感染症対策や危機管理、アレルギー対策の研修を実施し、受入ができる体制構築に取組みました。また、国内教育旅行の受入は延13校、海外誘客の受入は3団体、その他の受入を併せて1,322人の受入を行いました。	③ ・町の資源（歴史、自然、文化等）を活用した観光誘客を観光協会等の関係機関と連携して推進していきます。また、観光ビジョンや文化財保存活用地域計画を定め、観光客誘客や観光施設の計画的な維持修繕に向け取り組みます。 ・教育旅行の受入の再開による、受入家庭の拡充に取組みます。なお、受入家庭の拡充は受入者自身から興味を持たれる方に魅力を伝え、勧誘を行っていただくため、人材育成研修を実施します。	B ・農村体験事業が再開できたことは喜ばしいことだと思います。一方で農泊の受入家庭も高齢化のため、受け入れが難しくなっているのではないのでしょうか。受入家庭の拡充と世代交替も実現して下さい。 ・農泊受入家庭を増やすには、基本目標③施策2に出てくる「おもてなしの心」が大切になります。「おもてなしの心」を持つ住民を増やすことも連動して基本目標③施策3の施策の工夫を行って下さい。 ・基本的方向で「移住者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。」とあります。「体験型観光」を通じて、交流人口、関係人口の増につなげるにはどうしたら良いのかなど検討し、施策を展開して下さい。	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	66.1%		
目標値【R6】	3,000 人												
目標値【R7】	4,000 人												

日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。 				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	地域の移動手段の充実	担当部署	交通環境政策課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な公共交通の需要を掘り起こすため、調査・意見交換など実態の把握を進めます。 ・路線バス・町営バス・デマンドタクシーなどの交通インフラの整備をめざし、だれもが社会生活を快適に送れるよう持続可能な公共交通の仕組みを構築します。 				

52

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	町内の公共交通機関の住民1人あたりの年間利用回数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
	基準値【R1】	12.8 回/人											
目標値【R7】	14.0 回/人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	13.0	12.6	96.9%										
令和5年度	13.3 回/人	14.5 回/人	100.0%							② 施策 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通への転換に向け、企業等の参加による通勤WGでこれまでの通勤バス実証実験の総括や日野第二工業団地での実証実験を検討したほか、自転車通勤体験事業を行いました。 ・カーフリーデー等を実施し、公共交通利用促進や環境保全、自家用車の乗り換え等の啓発のほか、イベント時に無料乗車補助等を実施しました。 ・AIオンデマンド交通実証実験を湖南サンライズ線地域でも開始しました。 ・人流データによる交通手段別や来訪者属性等を分析し可視化しました。 ・公共交通等の課題に対応するため、持続可能な公共交通の在り方や実践体制の構築等を検討しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・人流データ分析や各実証実験結果、日野町地域公共交通計画を踏まえ、持続可能な公共交通ネットワークなど交通インフラ整備に向け、引き続き検討を進めます。 ・今後の通勤バスの在り方について、これまでの実証実験の全体総括後、現状・課題等を踏まえ通勤バスWGで検討します。 ・AIオンデマンド交通実証実験の課題やニーズ等を検証し、利便性向上やエリア拡大を図るとともに、「おたすけカゴヤ」との連携・補完等の検討を進めます。 ・公共交通利用による町内周遊や滞留の仕組みづくりを検討します。 ・社会情勢や交通空白時間帯の対応を踏まえ、持続可能な公共交通の在り方を引き続き検討します。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・地域の移動手段の充実を図るために様々な事業を行い、基本目標②施策4の取組内容を実現しようとしていることが良く判り、この奮闘を高く評価します。公共の責任で担うことを実現しようとしていることは評価しますが、一方で「おたすけカゴヤ」など住民主体の取組は後方に退いているように見受けられます。 ・住民の「地域の移動手段の充実」を図るのは公共の仕事であり、住民が公共サービスの消費者にのみ押し込まれてしまうと解決がますます困難になってしまいかもれません。住民が地域の移動手段の問題に自分ごととして捉えて考え行動するきっかけをつくる必要があります。 ・④⑤においては、基本目標③の基本的方向を踏まえて検証してもらいます。ライドシェアの解禁など社会情勢の変化を考慮して、関係人口増、移住定住につながる情報発信などと結びつけた施策を検討、工夫して下さい。 ・自家用車から公共交通への転換が困難な方も多く判ります。その自家用車がライドシェアで「公共交通化」しないかも検討してください。 ・チョイソコは利便性が高く利用された方はアンケートの満足度が高いことに実感できると思います。しかし、電車で乗って学校に行く7時台と学校から帰宅する6時台のニーズは子育て世代には多いです。 ・チョイソコの運行時間に対する利用ニーズについて、現在の運行時間で利用者が多いことで良しとするのではなく、見えない需要があるかもしれない。それらのデータをどのように収集するかの工夫が必要です。 	
				KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①
目標値【R6】	13.7 回/人												
目標値【R7】	14.0 回/人												

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付け、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	U・Jターン受入の充実	担当部署	企画振興課	建設計画課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色ある取り組み等を通して、子どもたちにまちへの誇りと愛着を持たせ、転出して再继续的に地域と関わることができるつながりづくりを創出します。 U・Jターン受け入れの充実が図れるよう、町民への理解を働きかけます。 日野町空家等対策計画に基づき、適切な対応に努めるとともに、空き家の利活用の補助制度に取り組みます。 								

53

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	定住に関する相談件数			空き家・空き地情報登録制度での移住定住者数（累計）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	22 件			142 人											
目標値【R7】	27 件			230 人											
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	27	15	55.6%	185	200	100.0%									
令和5年度	27 件	20 件	74.1%	210 人	214 人	100.0%				②	③	A	<ul style="list-style-type: none"> 空家問題を幅広い年代に知ってもらうように、高校生・小学生に授業を行っていることなど、住民の理解を促す取組を活発に行っていることを高く評価します。 移住者が、具体的にイメージできるような取組がなされていることも高く評価します。 U・Jターンを地域が受け入れやすいよう環境づくりを積極的にすすめていることも評価します。 空家が増加しているため、町が空家を簡単に改修して貸し出したり、改修した空家での民泊の受け入れを行うのも良いかもしれません。改修した空家を活用して集落で受け入れを行い、高齢者が清掃や受け入れ対応を行うことで、高齢者の仕事を生み、介護予防にもつながります。 ⑤で指摘している「移住につながる施策」を意識することは重要です。また、外国在住者の増加も地域の理解も重要です。人口を増やすだけでなく、多文化共生社会づくりの課題とも関連つけて施策を工夫して下さい。 ⑥の外国人の受け入れに関する視点は高く評価します。労働者不足の問題から外国人材が増加しており、社会的変化が起きているので、次の総合戦略策定においてはU・Jターンの受け入れの充実だけではなく、町に人が来るということを包括的に捉えていく必要があります。 		
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	87.0%			
目標値【R6】	27 件			215 人											
目標値【R7】	27 件			230 人											

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう活用と情報発信を図ります。 				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信	担当部署	企画振興課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・町の様々な取り組みやイベント、おすすめスポット等、町民自らがこの町の良さを知り、発信できるための情報を共有する仕組みづくりに取り組みます。 ・収集した情報を、住民や企業と行政が連携し、SNSを活用したタイムリーな発信ができるよう仕組みづくりに取り組みます。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	「日野め〜る」の登録者数			町ホームページアクセス数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	3,157 人			3,065,615 アクセス									
目標値【R7】	4,000 人			1,025,000 アクセス									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	3,970	3,740	94.2%	4,250,000	4,571,919	100.0%							
令和5年度	3,980 人	3,833 人	96.3%	990,000 アクセス	996,786 アクセス	100.0%				施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルにより、町民自らのFacebook等のSNSとの連携による情報発信がしやすい仕組みを導入しています。 ・ホームページのトップページ内のデザイン修正を行い、よりわかりやすいホームページとなるよう改良を行いました。 ・日野町公式noteや町内周遊促進アプリ「ぐるりん日野ナビ」、滋賀県で導入された移住スカウトサービス「SMOUT」等を活用し、まちの魅力やさまざまな取り組み、イベント等の情報発信を行いました。 ・町で活用しているアプリやSNSについて、活用していただきやすくなるよう、それぞれの役割分担を整理し、ホームページで紹介しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル時に追加された新しい機能を活用することで、よりわかりやすいホームページとなるよう取り組みます。 ・町のホームページを軸として、活用しているアプリやSNSの長所を生かし、まちのさまざまな取り組みやイベント等についてのタイムリーな情報発信につながるよう、取り組みを進めていきます。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用、役場HP、日野町公式note、アプリ「ぐるりん日野ナビ」など多様な手段を通じた情報発信の仕組みづくりが進んでいることを高く評価します。 ・④⑤において、移住・定住をすすめる取組とリンクして考えている点は評価しますが、情報発信が、町外向けであったり、イベント告知的な情報に偏っていないかが気になります。 基本的方向を考えると、町外の人に日野町のことを知ってもらうことだけではなく、日野町住民にも町の良さを知ってもらう面も必要ですが、住民の愛着を育む部分のみえにくいので、今後は施策の工夫を行ってください。 	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】												①
目標値【R6】	3,990 人			1,010,000 アクセス						基本目標 ④ <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの結果や効果 ●町の移住サイト「ひのぐらし」に移住の流れを説明するページを作成し、日野町での暮らしがイメージできるように取り組みました。 ●トップページにスクロールボタンを配置することで、確認したい部分を素早く確認できるよう改良を行いました。 ●滋賀県で導入された移住スカウトサービス「SMOUT」等を活用して移住施策の情報発信を行い、かつ移住に関心のある方と双方向のコミュニケーションを深めました。 ●実施できていないこと ●特にありません。 ●実施が困難なこと ●特にありません。 	⑤ <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて ●日野町への関心を高めるため、新機能イベントカレンダーに積極的に掲載し、日野町のイベントをイベントカレンダーに集約し、一目でわかりやすいものとなるよう取り組みます。 ●「SMOUT」を活用し、移住や関係人口に関する情報を発信するとともに、移住に興味のある方と双方向のコミュニケーションを深め、関係人口・移住定住につながるような取り組みを進めます。 ●今後の課題 ●観光や田舎体験等、遊休地等の利活用のコンテンツの更なる充実を図る必要があります。 		
目標値【R7】	4,000 人			1,025,000 アクセス									

日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人につながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたって継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	次代を担う人材の発掘	担当部署	生涯学習課	企画振興課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちへの愛着や誇りを感じ、地域の困りごとを解決するため、住民一人ひとりが社会活動や生活のなかで培ってきた豊かな経験や知識を活かし、共に知恵を出し合い、共に汗をかき人づくりを推進します。 ・ボランティア活動の楽しさ、やりがいを感じてもらう機会を増やすため、小・中・高等学校や大学と連携し、ボランティア事業、地域づくり事業の開拓と、人材の発掘と育成に努めます。 								

55

数量的検証										質的検証			
KPI (重要業績評価指標)										内部検証		外部検証	
指標名	まちづくり計画の策定自治会数 (累計)			公民館利用者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	16 自治会			86,695 人									
目標値【R7】	25 自治会			88,000 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	21	22	100.0%	87,348	62,617	71.7%							
令和5年度	23 自治会	26 自治会	100.0%	87,565 人	66,869 人	76.4%				<p>施策 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館では、実行委員体制を作り地域の人材による運営をしていますが、年々実行委員の確保が困難になっています。 ・既存の実行委員会によらず立ち上げられた新たな組織が、提案型活動事業補助金を活用し、公民館を基盤に地域の課題解決を進め、多世代交流ができる新事業を進められる仕組みを構築しています。 ・地域住民による主体的なまちづくりを推進するため、地域の課題や解決策をまとめたまちづくり計画の策定を進めました。また、令和4年度は、一般コミュニティ（町民）の申請に伴い、6団体の申請を受理し、2団体が採択を受けました。 ・これからの地域を担う若い世代が、楽しみをベースに自分たちができること、したいことで、ちょっと日野にいいことをあちこちで起こしていくことをテーマに開催している「町の若者会議（仮）」では、6つのテーマ（部活）で活動し、子ども遊び場発掘のために集落の公園等の調査、町内の魅力的な人や文化（財）の取材、発掘などに取り組んでいるほか、日野高生との交流会を実施しました。 ・日野高校での地域学習において、日野町の発展や課題を学ぶ、その良さを引き継ぎつつ、新たな実践につなげるための取組に協力しました。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館実行委員は、行事のためのスタッフとなるだけでなく、地域の困りごとを解決するため、一人ひとりが社会活動等で培ってきた経験等を長く活動に活かせるようにしていきます。また、各種行事の中でも、単に人集めの行事をこなすだけでなく、地域の課題解決を図っていくよう進めます。 ・町民自らが地域の課題を把握・整理し、より住みよい地域づくりを進めるために、引き続きまちづくり計画の策定支援を進めます。 ・まちづくり計画を策定した自治会等が計画に沿って進めた取組を評価する仕組みをつくり、更なる地域課題を解決しようとする機運の醸成を図ります。 ・「ひの若者会議（仮）」の取組が広がり、若い世代に開く。多様な世代が交わり、今後のまちづくりに関する意見を上げます。 ・日野高校との連携を通じて、町への愛着や誇りを醸成するとともに、次代を担う人材の育成につながるよう取組を進めます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり計画の策定を行った自治会が4つと目標を上回って策定されたことを高く評価します。策定の支援に加え、策定後のフォローアップや実際の取組のベストプラクティスの共有などを行い、相互学習をすすめることも大切です。計画そのものが、次代を担う人材の発掘につながっているかなど検証も行って下さい。 ・「ひの若者会議」の取組が進んでいることを高く評価します。若者が地域づくりに参加するきっかけをつくり、若者のアイデアと行動でまちを変えられる成功事例をつくって下さい。 ・公民館の実行委員の確保、地域の役の担い手の確保に苦勞しているのが判ります。④⑤でも検証されていますが、既存の体制から持続可能な体制に転換するための議論を地域の中で行える環境づくりに努めて下さい。自治会活動の合理化についても検討をすすめる必要があります。 ・次のまちの担い手を育てたり、発掘する手当てが、十分でないかもしれません。住民を巻き込む工夫が必要です。 ・「地域の資金循環を考える研究会」、「Uターン1%受け入れ」など新しい考えをまちの中に吹き込む努力を高く評価します。 ・青年団活動について既存の事業を進めることで精一杯だが、新しく関わってもらうために、既存の仕組み自体を変えていかないといけません。
		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	88.2%	
目標値【R6】	24 自治会			87,783 人									
目標値【R7】	25 自治会			88,000 人									
	<p>基本目標 基本的方向を踏まえた状況 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの成果や効果 <ul style="list-style-type: none"> ・まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決につなげられるよう、地域課題を共有した取り組みをしています。 ・行政懇談会や出前講座等で、人口シミュレーションの座席資料を作成し、持続可能な地域づくりのため「年1%のUターン受け入れの取り組み」を提案し、各地域で話し合っていたり、よく啓発しました。 ・地域の課題解決やまちづくりに必要な資金調達について考えをきっかけとして、「地域の資金循環を考える研究会」を実施しました。 ●実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う人材づくりのため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしてもらう機会に乏しい状況です。 ・自治会間で相互に課題の共有や自働大会を行うような学びの場を設け、まちづくり計画の策定に活かすことができている状況です。 ・策定されたまちづくり計画を検証評価するなど、実質化に向けたフォローアップの取組ができていません。 ●実施が困難なこと <ul style="list-style-type: none"> ・策定されたまちづくり計画を検証評価するなど、実質化に向けたフォローアップの取組ができていません。 ・従来どおりの地域活動の中では、役の担い手が不足している状況です。既存の体制を持続可能な体制へ再構築することは容易ではありません。 									<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて次代を担う人材づくりのため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしてもらう機会を創出します。 ・まちへの愛着や誇りを感じ、主体的で活発な自治活動や地域の課題解決に向けた取り組みにつなげるため、人と人につながる仕組みづくりから次代を担う人材づくりを進めます。 ●今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・従来どおりの地域活動の中では、役の担い手が不足している状況です。既存の体制を持続可能な体制へ再構築する必要があります。 ・町民自らが地域の困りごとを発見し、性別や年齢等に関係なく、多様な方が参加でき、意見を上げ、自分たちの地域を自分たちで暮らしやすくなるサイクルを生み出す取り組みが必要です。 			

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり	担当部署	生涯学習課	企画振興課		
内容	・住民団体やボランティア、企業・事業所等多様な担い手による主体的なまちづくりを推進するため、団体同士の交流ができる仕組みを作り、地域の課題解決に向けた、協働のプロジェクトの創出等に取り組みます。							

56

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証		
指標名	団体同士の交流の機会の創出									取り組み状況			今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	0回														
目標値【R7】	7回														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	2	2	100.0%												
令和5年度	7回	5回	71.4%							②	③	④	⑤	A	<ul style="list-style-type: none"> ・団体同士の交流の機会がつけられたことは評価します。提案型活動事業の実施地区が一つ増え、5地区となったことも評価します。③でも検証されていますが、地域課題を共有し、協働のプロジェクトが創出されるように工夫を行って下さい。 ・提案型活動事業の実施により、地域内の多世代交流、団体交流を促すものと推察されますが、公民館単位ということもあり、地域活動色が強く感じられます。多世代交流から若い世代がまちづくりに参加する意欲を高める工夫を行って下さい。基本目標④施策1とも関わっています。 ・「地域の資金循環を考える研究会」「日野町社会教育フォーラム」の実施など従来とは異なるアプローチを始めていることを高く評価します。 ・協働のプロジェクトの創出と推進が、まちの課題を解決し、若い世代の参加を引き起こし、次の世代の担い手を育てるために、工夫を行って下さい。 ・地域に根ざした取組に加えて、地区を超えた団体交流、協働のプロジェクトがつけられるには何か必要なか検討し、地区を超えた取組がなされるように工夫を行って下さい。 ・農業委員会で子ども食堂にたまねぎを提供するなどの取組をしており、規格外の野菜の活用など、一般の生産者が一緒に知恵を出し合って食材の利用と保管について考えいけると良いです。意見交換会に農業委員や健康推進員も参加する取組も効果的です。また、料理班等と料理組合とも連携することで子どもたちに幅広い食を提供できるのではないのでしょうか。
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	71.4%				
目標値【R6】	7回														
目標値【R7】	7回														

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を实践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	関係人口の創出	担当部署	企画振興課	商工観光課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町から日野町に関心を持ち、まちの資源を活かした取り組みにより、地域の人との交流により関心が深まり、将来の移住につながるような関係人口の創出に取り組みます。 ・リモートワーク等の進展に伴い、働き方が多様化するなかで、二拠点居住やワーケーションのようなライフスタイルに対応した取り組みを進めます。 					

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	ふるさと応援寄附の寄附者数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
	基準値【R2】	197人													
目標値【R7】	1,200人														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	600	731	100.0%												
令和5年度	800人	1,537人	100.0%							施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の取り組みにおいて、日野祭典山体験やイベントと県外の学生をつなぐ取り組み、マルシェへの参画など、地域資源を活用した体験型コンテンツの企画・実施により、関係人口の創出につながる取組を進めました。 ・首都圏でのイベントに参加し、ふるさと応援寄附や観光PRを行い、町の魅力を発信するとともに、関係人口の増加に繋がりました。 ・近江日野商人、歴史文化、町並み等の地域資源を活用した取組みとして、ひなまつり紀行の開催や日野祭、火降り祭りの体験型観光の実施、長寿経営を科学した近江商人視察ツアーの開催を支援しました。 ・県で導入したデジタル地域コミュニティ通貨「まちのコイン」を活用し、県と5市町が連携して、町内外の方の交流を増やす取組を進めました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと応援寄附の取組の拡充と寄付を通じて町内特産品の振興を行うとともに、販路の拡大に取り組みます。 ・近江日野商人の歴史的、文化的、社会的価値に着目した取組を強化し、経営者や経営を学ぶとする者に日野商人の商法や心得を発信し、商人道の息づく町として企業誘致や移住に繋げる。 ・関係人口の創出と拡大に向けて、地域おこし協力隊制度等を活用し、まちの魅力を活かした取組を進め、日野町に魅力を感じる人を増やしていきます。 ・まちのコインのスポット（お店や団体、町民等）が自発的・主体的に魅力的な体験を作成できるよう、フォロワー体制の充実や情報発信に努めます。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・KPIの「ふるさと応援寄附」が、昨年より倍増している点は高く評価しますが、この倍増が、関係人口の増につながっているのか、または、関係人口の増が、倍増につながっているのか慎重で冷静な分析を行う必要があります。寄付が関係人口につながるように工夫を行って下さい。 ・まちのコインを活用した取組が広がっていることを評価します。 ・関係人口の創出に向けて、具体的には、地域おこし協力隊、「まちのコイン」を活用する方向性が良く判りました。この2つのアプローチを関係人口創出の一つの戦略的手段として取り組むことは一定の効果も見込めるので評価します。一方で、関係人口の創出は、幅広い交流の中で生み出されると考えられますので、広い視野で交流人口の創出について検討を行って下さい。商工観光課の様々な支援事業の領域にある交流人口を関係人口に格上げできるように工夫を行って下さい。ひとつの切りが必要とします。 ・二拠点居住やワーケーションのようなライフスタイルに対応した取組がまだできていません。テレワークの普及とコロナ後の社会の変化の見極めをはじめ、ニーズの調査などを早期に着手してください。 ・基本目標4施策3の取組は、住民自身の自治活動の展開によって住み良い日野町をつくり、それが住民自身によっても発信され、交流が生まれ、関係人口を増やしていくのだと思われます。住民自身の発信につながる領域についても検討して下さい。 ・町の活性化につながるためSNSの活用など行政の発信力を発揮してください。 ・まちのコインが生活にマッチしていないように感じます。子育て世代にマッチングするよう工夫が必要です。また利用者が提供する側にまわる工夫も必要です。 			
	KPIの達成率【KPIが複数の場合は、平均点】												①	100.0%	
目標値【R6】	1,000人														
目標値【R7】	1,200人														

日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標№	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組み№	4	具体的な取り組み	多文化共生の推進	担当部署	企画振興課
内容	・在住外国人の方が地域の一員として安心して暮らせるための相談体制づくりと地域づくりのための啓発活動や交流の場づくりに取り組みます。				

58

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名										取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R1】														
目標値【R7】														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和4年度	25	13	52.0%											
令和5年度	27人	25人	92.6%							②	③	A	・KPIにもなっている語学講座の受講者数が昨年より増えている点は評価します。また、日本語講座を開催し、住民ボランティアも参加して、住民と在住外国人との交流が生まれてきたことも高く評価します。 ・在住外国人の方への相談体制は未だ確立できておらず、HP掲載の「やさしい日本語」の外国語翻訳もこれから取組とのことです。早期に課題解決をはかってください。相談体制を日野町だけでなくくらしやすさの観点から、町でつくった方が良いのか、広域でつくった方が良いのかなど検討して下さい。 ・日本語講座の運営に、日本人と在住外国人のボランティアの参加を促し、一緒に学び、日常生活上の困りごとを情報共有したりできる環境づくりに努めて下さい。そうした取組の中から相談体制として必要なものをみきわめるなど工夫を行って下さい。 ・在住外国人の方々が、定住することを想定して、長期的な多文化共生社会づくりについて検討し、住民への啓発を行って下さい。 ・企業を通じて在住外国人の困り事を把握するなど、企業の窓口との連携や役場の通訳と企業の通訳のネットワーク構築を検討してください。また企業内での多文化共生の取組のノウハウを取組に生かしてください。 ・国際親善協会の講演会等で、在住外国人を受け入れている地域の優良事例を紹介するなど、受け入れのハードルを下げる取組を進めてください。	
											④			⑤
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①		92.6%		
目標値【R6】														
目標値【R7】														

② 実施したことの成果や効果

- ・英語教室を5回、韓国語講座を5回開催し、多文化共生の促進と外国人との交流のきっかけづくりを行いました。
- ・在住外国人が地域の一員として安心して暮らすため、農と連携し、日本語教室を8回開催しました。また、地域住民がボランティアとして参加（1名）したことで、地域住民と在住外国人との新たなつながりが生まれました。
- ・国際親善協会と連携し発行した機関紙「友好の輪」で外国人と住民がともに暮らすために取り組んでいる地域や学校の取組を掲載し、地域で活かしていただけるよう啓発しました。
- ・国際親善協会と連携し、在住外国人と一緒に海外の料理を調理・販売することで、在住外国人と地域住民が交流できる場を提供しました。
- ・国際親善協会と連携し、「氏郷まつり益譲りの陣」において、在住外国人に浴衣をきていただく祭に参加いただくとともに、一緒に益譲りを踊ることで、在住外国人と地域住民が交流できる場を提供しました。
- ・在住外国人と地域住民が安心して共に暮らせる多文化共生を考えるきっかけづくりとして、生涯学習課と連携し、多文化共生講演会を開催しました。

③ 基本目標、基本的方向を踏まえて

- ・引き続き、在住外国人が地域で安心して住み続けられるよう日本語教室を開催し、在住外国人と地域住民との交流の促進と新たな人と人のつながりの創出を図ります。
- ・引き続き、在住外国人と地域住民がともに安心して暮らしていくため、講演会を開催し、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係のもと地域の中でともに生きていく「多文化共生社会」について考えるきっかけを提供します。
- ・引き続き、交流から新たな人と人のつながりを育むため、外国人等と住民との交流の場づくりに取り組みます。
- ・外国人と住民がともに暮らすために取り組んでいる地域の取組を周知・啓発することで、安心して住み続けられるまちをめざします。

④ 今後の課題

- ・在住外国人が地域住民とともに地域で安心して住み続けるため、日本語教室を積極的に開催する必要があります。
- ・外国人と住民が交流できる場等の情報を外国人に提供できる情報伝達手段を検討する必要があります。
- ・外国人が安心して住み続けられるよう、外国人の困りごとやニーズ把握や困りごとを相談できる体制づくりに検討する必要があります。

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だけれども、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	支え合いの仕組みづくりの促進	担当部署	福祉保健課	長寿福祉課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域での暮らしを守るため、地域の住民みんなで助けたり助けられたりの「おたがいきま」の意識を高め、地域の福祉の関係者が地域福祉を気軽に担える体制づくりを推進するとともに、社会福祉協議会や地区社協等と連携し、助け合いの地域づくりを推進します。 ・生活支援コーディネーターを中心に地域での話し合いに取り組み、地域の商店や民間事業者の協力のもとで、地域の実情に見合った体制の整備に取り組みます。 ・地域住民、多様な関係者とともに、高齢者、障がい者、子ども、子育て家庭、生活困窮者、悩みをかかえる若者等を「丸ごと」支え合う地域づくりに取り組みます。 								

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	ひきこもってしまった人が居場所を通じて就労（福祉就労含む）につながった人数			ひきこもってしまった人の居場所を利用する人数			ボランティアの方が障がいのある方と共同で事業を行う回数			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R2】	0人			5人			0回								
目標値【R7】	3人			7人			1回								
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	1	0	0.0%	4	14	100.0%	1	0	0.0%						
令和5年度	2人	2人	100.0%	5人	18人	100.0%	1回	0回	0.0%	<p>施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの将来を見通した支援をつなぐことを目的に官民問わず多様な団体により構成された地域生活支援ネットワーク会議を開催し、情報共有、連携、協力による課題解決を進めています。令和5年度は、町の不登校の実態や重層的な支援体制についてをテーマとしました。 ② NPO法人に「ひきこもりサポート事業」を委託し、相談を含むひきこもりに関する支援体制の充実を図っています。その中で中学校や少年センター、子ども支援課が関わり、食事をきっかけとした居場所やつながり作りのため、若者食堂の取組を進めました。また、ひきこもり対策と不登校対策に関連する際にとりから学校のSWやSNSによる学校支援ネットワーク会議にひきこもりサポート事業委託者と共に参加し教育機関との連携を進めました。 ③ 「隠れたひきこもり状態にある方」の発掘を行い、訪問支援等につなげるため、また、ひきこもり状態にある方の実態を把握し、仕組みづくりを実施するため、匿名性や情報セキュリティ等に配慮しWEBを活用したひきこもり実態調査を実施しました。 ④ 「東谷おしゃべり会」の移動支援事業（おたすけカゴ）や夜間会（おしゃべり食堂）について、町内外の団体から問い合わせ、研修依頼があります。おしゃべり食堂と共に、生活支援コーディネーターや社協職員が、立上げの経緯や事業内容の説明を行い、地団体との情報交換の場としています。 ⑤ 西大路地区では、地区社協が中心となって地域支え合い研修会をされ、社協、生活支援コーディネーターと共に参加し、話し合いを進めています。 ⑥ 令和5年8月に、西谷地区の有志が「西谷おしゃべりのり会」を発足され、地域高齢者の移動支援に取り組んでおられます。発足時の立上げ支援と、その後の定例会について、生活支援コーディネーターや社協職員と共に参加しています。 ⑦ 地域のサロン活動の取組を互いが情報共有する「地域交流サロン」を実施し、活動の更なる発展に努めています。 <p>基本目標 基本的方向を踏まえた状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実施したことの成果や効果 <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体や多様な団体により構成された地域生活支援ネットワーク会議において、町の課題となっている不登校や発達障害のある児童の支援体制について、情報共有や意見交換を行い、地域共生社会の形成に向けた仕組みづくり等について、課題共有や各機関でできることの協議を行うことができました。 ・学校支援ネットワーク会議への参加により、支援が必要な方と早期につながる仕組みについて取組を進めています。 ・ひきこもり実態調査の実施により、今後の仕組みづくりに向け、ひきこもり状態にある方等の求める支援等について、情報収集ができました。 ・西谷地区の移動支援事業の立上げについて件で支援し、8月に発足していただくことができました。 ② 実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方と障がいのある方との共同事業について、調整がつかず実施出来ませんでした。 ・さらに多くの地区へ、地域支え合い活動の展開を図ることが必要です。 ③ 実施が困難な点 <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の連携が不足していることから話し合いしながら実施を模る必要があります。 ・生活支援コーディネーターの人材確保と、地域支え合い活動の担い手の発掘が難しい。 					
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	66.7%				
目標値【R6】	2人			6人			1回								
目標値【R7】	3人			7人			1回								

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきすなはもとより、地域の人と人のつながり（きすな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	心身の健康づくり	担当部署	福祉保健課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員の養成とその活動を支援し、「自分の健康」、「家族の健康」、「地域の健康」へと健康の輪を広げ、住民全体の健康意識を高めていけるよう取り組みます。 ・健（検）診の実施と生活習慣病を予防し、健康でいきいきと暮らせるよう、住民の健康意識を高め、生涯にわたり継続した健康づくりに取り組みます。 ・心の健康や精神疾病に関する正しい知識や対策等の普及に努めるとともに、悩んでいる人に寄り添い、かかわりを持つことで「孤立・孤独」を防ぐことができるよう取り組みます。 				

61

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	特定健診受診率									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	39.4 %														
目標値【R7】	39.9 %														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	39.6	38.7	97.7%												
令和5年度	39.7 %	41.1 %	100.0%							施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員養成講座を実施し、新たな健康推進員の確保に努めました。 ・健康推進員の活動に楽しみとやりがいを持っていただけるよう、会議の開催、部会の活動、地域での活動を、応援しました。 ・健康推進員養成講座受講生を対象に、研修会を開催しました。全住民対象の健康づくり講座では、啓発資料の配布やステージ発表をしていただき、住民への啓発と活動のPRをしていただきました。 ・地域での出前講座の際には地域の健康推進員と連携して実施することで、健康づくりを身近に感じてもらえるように工夫しました。 ・基本健診・国保特定健診の未受診者に対し、個別通知と電話による受診勧奨を行いました。 ・国保特定健診・基本健診受診者に対し、結果に応じた保健指導を行い、生活習慣を振り返り、改善へ向けて共に考えました。積極的介入者には、生活習慣改善のために6か月間の応援をしました。 ・健診・がん検診受診者のうち必要な方が医療機関受診につながるよう支援しました。 ・町内の医療機関と連携し、栄養相談を実施しました。 	基本目標 ④ <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの影響や効果 ・健康推進員養成講座を実施し、修了者が健康推進員活動に参加していただけるよう応援します。活躍の場として公民館や学校、幼稚園等と連携していきます。健康推進員の活躍が、住民の健康に対する意識向上につながっていることをフィードバックできるように支援します。 ・国保特定健診では、医療機関と連携し治療中の患者情報提供により健診受診とみなすことができ受診者数が増えました。 ●実施できていないこと ・健診未受診者で健康状態の未把握の層に対する取組ができていません。 ●実施が困難なこと ・生活習慣病での定期通院は、食生活や運動習慣等の生活習慣の改善も重要です。しかし、医療機関も多忙を極めており、予防的な医療についての連携が進みにくい状態です。 				
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】											①	100.0%		
目標値【R6】	39.8 %									基本目標 ⑤ <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・自身の健康を大切にすることを意識するため、町の健康課題にそった改善策の情報提供、健診の受診率向上をめざした啓発、医療機関や町の健康相談などの相談機会等の周知を行います。 ・健康推進員においては、地域や頼しい人にもロコまで、自然と健康の話ができるよう努めます。 ・家庭の中で、子どもから大人食についての話ができるよう、幼・保育園、小学校等への食育に取り組みます。 ●今後の課題 ・健康推進員については、地域からの推薦が難しい状態が続いています。地域の健康を支えるボランティアとして、やりがいを持っていただけるよう、自主的な参加者が増加するよう、健康推進員の活動をPRすることが必要です。また、既存の会員のモチベーションのアップのため、活動支援の充実が必要で ・国保特定健診について、医療機関と連携し取組をすすめているものの大幅は受診者数の増加にはつながっていません。健診未受診者かつ生活習慣病で医療機関受診のない方への取組をすすめる必要があります。 ・国保加入者以外の働く世代（職域）においては、各保健者が健診と事後指導を行うことになっており、健康課題が把握できていません。職域と町の健康課題の共有、健康づくりの連携が必要で 					
目標値【R7】	39.9 %														

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	高齢者のいきがいづくり	担当部署	長寿福祉課				
内容	・高齢者が、年齢を重ねても、いつまでも活躍できるよう社会参加が継続できる環境づくりを進めます。								

62

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	高齢者交流サロン開催団体数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	14 団体												
目標値【R7】	24 団体												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	24	13	54.2%										
令和5年度	24 団体	14 団体	58.3%							<p>② 「高齢者交流サロン」では、新型コロナが5月に「5類感染症」に移行されたことにより、ほとんどの地域で活動が再開しました。また、新たな地域から開催の相談を受け、スムーズな開始に向けて支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりや介護予防といった活動を通して、社会参加の推進・維持が図れるよう、「おたっしや教室」を開催し、その後も地域の会議所などで自主的な集まりが継続するように支援をしています。 ・東桜谷地区の「東桜谷おしゃべり会」で実施される支え合い活動「移動支援（おたすけカゴヤ）」および「食事会（おしゃべり食堂）」には、他団体からの研修依頼や、フォーラム等への講演依頼があり、おしゃべり会役員、町社協と共に出席し意見交換しました。 	<p>③ ・高齢者交流サロン・おたっしや教室をはじめ、地域活動の活性化を図るため、町社協や生活支援コーディネーターと共に地域へ働きかけ、支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターが中心となり地域の活動を取材し、町社協広報の「ちいきの輪」コーナーで情報発信・啓発を行います。 ・各地区サロン活動者の交流会を開催し、情報共有、機運の醸成につながるよう取り組みます。また、サロン等の内容の相談や、活動の立ち上げ支援を行います。 ・高齢者が地域活動に参加することとあわせて、高齢者になってもできることを主体的に地域の中で活かしていただけるよう、ボランティアポイント制度の導入と定着を目指します。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの「5類感染症」移行に伴い、「高齢者のいきがいづくり」の取組が「交流サロン」に偏っているように見受けられます。高齢者が受け身で「サービスの対象者」でしかない存在にみえます。高齢者の社会参加は「交流サロン」にとどまらず、もっと主体的に関わる社会参加もあるはずです。 ・定年延長、定年再雇用の拡大や高齢者の就労の増加など、高齢者が地域活動につながりにくくなり、次の世代の担い手を育て、掘り起こすことが難しくなっているのが判りました。その対策として、ボランティアポイント制度の導入で、高齢者が主体的に活動するのを促すことを意図していると思われまます。他の手は思いつかなかったかもしれませんが、政策手段としての適切性を検討して下さい。 ・交流サロンの開催を速して、基本目標④施策4、5などももからめて、高齢者が自らの能力を発揮して主体的に動けるような領域をつくる施策の工夫を行って下さい。 	
		KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】							①	58.3%	<p>④ ●実施したことの成果や効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支え合いの機運醸成・情報共有の場として、サロン活動者の交流会を開催しました。 ・高齢者交流サロンは、生活支援コーディネーターが取材し、社協広報や出前講座でPRしています。 ・地域活動におけるニーズや資源を把握するため、生活支援コーディネーターを中心に地域の会合に出席できるよう、関係性づくり、きっかけづくりを行っています。 ・東桜谷地区おしゃべり会では、地域支え合い活動を実施され、町社協、生活支援コーディネーターと共に伴走支援に取り組んでいます。西大路地区では、地区協が中心となり研修会を開催され、町・町社協は共に地域支え合い活動について話し合いに参画しています。 ●実施できていないこと ・新たな地域活動の担い手を発掘し、担い手の世代交代を図ること。 ●実施が困難なこと ・高齢組になっても就労される方が多い時代となり、地域活動につながっていただけず。 <p>⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者交流サロンの推進により、身近な地域で居場所づくりを進めます。 ・地域における話し合いの輪を広げ、支え合いの機運醸成を図ります。 ・生活支援コーディネーターが中心となり、支え合い活動の事例等について発掘し、情報発信を行います。 ・ボランティアポイント制度の導入などで、自ら地域活動に参加させる高齢者の層を広げることができるよう図ります。 ●今後の課題 ・社会福祉協議会等の関係機関や生活支援コーディネーターと連携し、寄り添いながら一歩ずつ取組を進めることが必要です。 ・住民主体の取組について、さらに多くの地区への展開を図ることが必要です。 ・住民主体の取組であることから、地道に意識啓発・機運醸成を図り、寄り添いながら一歩ずつ広げていくことが必要です。 		
目標値【R6】	24 団体												
目標値【R7】	24 団体												

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人につながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	9	具体的な取り組み	健康づくりと介護予防の一体化	担当部署	長寿福祉課
内容	・地域での介護予防の取り組みを進めるとともに、保健事業と一体となった専門職や住民リーダーとの連携による、健康づくりや介護予防の取り組みを進めます。				

63

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	介護予防ボランティア養成数（延べ）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
														標準値【R2】	319人
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	329	339	100.0%												
令和5年度	339人	356人	100.0%							②	③	B			
										④	⑤				
目標値【R6】	390人														
目標値【R7】	420人														

施策 ②

- ・介護予防ボランティアの養成講座について、町社協と共に広報に努め、複数の講座合計で十数名の受講があり、ほとんどが修了されました。自身の健康寿命への関心を通じ、地域の高齢者の健康維持に関するボランティア活動の意義を啓発し、実践につながりました。
- ・町の介護予防に係る出前講座に参加協力をいただき、体操の指導を行うなど、ボランティアの活躍の場を増やす取組を行いました。
- ・保健事業と介護予防の取組のため、運動教室や地域のサロンに専門職が出向き、フレイル（虚弱）予防にかかる健康教育を実施しました。

③

- ・介護予防ボランティア養成講座の開催だけでなく、既存ボランティアへの研修も充実させ、介護予防における様々な知識を習得いただくことで、各地域の運動教室等に自信を持って参加いただけるよう取組を進めます。

基本目標 ④

- 実施したことの成果や効果
 - ・地域で介護予防の取組が促進できるよう、運動指導サポーター（おたっしゅサポーター）や脳いきいきゲームリーダーの養成を行いました。
 - ・「おたっしゅサポーター」から養成した指導員には、運動指導士に準じて教室指導を担っていただき、他の介護予防教室（男性の運動教室など）でも活躍いただきました。
- 実施できていないこと
 - ・「おたっしゅサポーター」の活躍の場を増やす取組が必要です。
- 実施が困難なこと
 - ・「おたっしゅサポーター」の高齢化、次世代の担い手発掘への対策が困難となっています。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - ・引き続き介護予防ボランティアの養成を図るとともに、指導員の養成・活用を推進し、地域における介護予防の取組を進めます。
- 今後の課題
 - ・社会福祉協議会等の関係機関、おたっしゅサポーター等の地域のボランティアと協力し、地域の活動に寄り添いながら、一歩ずつ取組を進める必要があります。

②における介護予防ボランティア養成講座の受講者数を適確にとらえて集計してください。実態把握をしましょう。

- ・ボランティアへの「まなざし」が、「受け身のボランティア」にみえます。
- ・昨年も指摘しましたが、本取組は、基本目標④施策7、8とも関連がありますので、事業の連携を行い、事業効果を高める工夫をして下さい。
- ・次世代の担い手発掘に苦勞しているものと判断します。基本目標④施策8でも指摘しましたが、高齢者の就労環境の変化をふまえ、より長期的視野に立ったボランティア養成戦略を立案して下さい。
- ・ボランティアの養成だけではなく教室参加者を増やす取組も大切に下さい。
- ・高齢者になってからではなく、若い頃から自分たちで活動して課題解決し、その経験を活かして高齢者になってからも主体的な取組ができる素地ができることと良いです。
- ・定年延長等により高齢者の就労状況が変化し、退職し地域へ戻ってきたときには受ける側になっています。また自分のこと以外に労を出すことの習慣が薄くなっており難しい時代になっています。
- ・④⑤の内部検証では、基本目標、基本的方向を踏まえての検証を行います。昨年の外部検証で述べたことへの対応などを行うと本来の趣旨に合致した評価が可能になるでしょう。「おたっしゅサポーター」の研修内容に工夫を行って下さい。時間枠がないなら延長するなど対策はとれるはずす。

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	10	具体的な取り組み	障がい者の支援体制の充実	担当部署	福祉保健課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が地域や就労等、社会参加において自分らしくいきいきと暮らし続けられるよう、障がい福祉サービスを拡充します。 ・障がいのある人の個性やライフステージに応じて、医療や保健、福祉、教育等のサービスを効果的に受けられるよう、東近江圏域障害児（者）サービス調整会議により、総合的な調整を行います。 ・障がいのある人の地域生活を支える仕組みとして、「相談」「緊急時の受け入れ・対応」「体験の機会・場」「専門人材の確保・養成」「地域の体制づくり」の機能を備えた拠点の整備を進めます。 				

数量的検証										質的検証							
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証			
指標名	町内グループホームの定員数									取り組み状況				今後の取り組み		検証結果	コメント
基準値【R2】	29 人																
目標値【R7】	44 人																
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率								
令和4年度	39	44	100.0%														
令和5年度	39 人	44 人	100.0%														
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	100.0%						
施策										②	③						
基本目標 基本的方向を踏まえた状況										④	⑤						

日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	11	具体的な取り組み	住民のくらしを支える知識・情報の提供	担当部署	図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の知る権利、学ぶ権利を保障するため、住民の求める資料の積極的な収集・提供に取り組みます。 ・図書館の利用が困難な住民へのサービスの充実に取り組みます。 ・日本語以外の言語の資料を拡充し、誰もが利用できるよう取り組みます。 ・住民の抱える諸課題に向き合い解決の手助けができるよう、暮らしを支える情報サービスを充実させます。 ・住民が適切に情報を活用できるよう取り組みます。 				

65

数量的検証										質的検証					
KPI（重要業績評価指標）										内部検証				外部検証	
指標名	図書館を利用（貸出）した住民の割合									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント		
基準値【R1】	18.4 %														
目標値【R7】	19.6 %														
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率						
令和4年度	19.0	16.5	86.8%												
令和5年度	19.2 %	15.5 %	80.7%							施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・住民の暮らしに役立つ多様な資料を収集し、提供しています。 ・日野町のことを知るため様々な資料を収集し、保存提供しています。 ・外国語の資料の充実に努めています。 ・通常の図書館の利用が難しい利用者のため、各種資料を収集し、提供しています。 ・他の図書館や専門機関と連携して住民が必要とする情報の提供に努めています。 ・各種サービス周知のため、広報に努めています。 ・行政各課や他施設と連携し、図書館利用の促進を図っています。 ・図書館の利用が困難な住民へのサービスの充実に取り組んでいます。 ・図書館の視覚閲覧室等を若者の居場所として開放しています。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・日野町に関する資料をはじめ、住民の暮らしに役立つ多様な資料を収集し、提供します。 ・外国語の資料の充実に努めるとともに必要とする住民に情報が届くよう関係機関と連携します。 ・点字図書などだけでなく、県立図書館とも連携し、デジタル図書などよりアクセシブルな資料を提供します。 ・他の図書館や他課などと連携して住民が必要とする情報の提供に努めます。 ・情報の調べ方案内の整備や情報リテラシーについて講座等を実施します。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人の方のために、各国の言語による資料を収集していることを高く評価します。こうした資料が必要としている人たちに適確に情報が伝わり、実際に利用されるように工夫を行って下さい。在住外国人の年齢や状況から必要とされるニーズを適切に把握して資料収集を行って下さい。 ・基本目標4施策4多文化共生の推進の取組の語学講座の参加者にアプローチするなど当事者グループに直接アプローチして、ニーズの把握等を行って下さい。 ・図書館利用が、1ポイント下がっていますので、要因の分析を行い、住民の利用が増える施策を工夫して下さい。 ・④により住民に図書館資料を活用してもらえよう様々な取組がなされていることが判ります。取組の広がりを高く評価します。引き続き、住民が図書館資料に触れる機会を増やし、住民が必要とする情報が得られるように工夫を行って下さい。 ・基本目標4施策8の取組ともうまく連携して、子どもから保護者の図書館利用習慣をつくるなど施策の連携と工夫を行って下さい。 ・外国人労働者の図書館利用を促進するため、昼休みに工業団地で移動図書館を行うのも良いのではないだろうか。返却は図書館で行うことで図書館に誘導することもできます。 ・子どもへの絵本の読み聞かせは、子どもが本に触れ、親も本につながるの、読み聞かせの取組を進めて下さい。 			
										基本目標 ④ 基本的方向を踏まえての状況 <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの概要や効果 ・日野町に関する書籍をはじめ、住民の暮らしに役立つ多様な資料を収集し、提供しました。 ・点字図書（盲点字・日野町の資料）の需要を増やし、地域の障がい資料を利用者に提供しました。 ・英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ペトナム語など外国語の資料の収集に努めました。 ・通常の図書館の利用が難しい利用者のため、点字図書、聴覚CD、大文字本、LLブックなどを収集し、提供しました。 ・児童館や公民館の協力を得て、幅広いテーマについて理解を深めていただくため、資料の展示をしました。また、「まちづくり」/「バリアフリー図書」「外国語で書かれた本」を特別コーナーを設置し、利用促進を図りました。 ・並行して、図書館や専門機関と連携して住民が必要とする情報の提供に努めました。 ・各種サービス周知のため、図書館だより・図書館中・広報のひとりのメール・インスタグラム等で伝達しました。 ・学校図書館（学校の図書関係者）・資料提供・展示・授業連携（子ども読書推進）・福祉課（4か月健診時の読書推進）・長寿福祉課（認知症カフェ）、子ども読書課（PCネット教室）など連携推進協議会・種別協議会・読書推進協議会・社会福祉協議会（読書）等と連携し、図書館利用の促進を図りました。 ・公民館やつどいのひろば「ほろつどい」、保健センター他施設に図書館を設け、住民の暮らしに役立つ書籍が充実しました。 ・介護施設やフリースクール、学習保育所等に図書館を貸出し、図書館に来てできない人への本に接する機会が増えました。 ・利用サービスを実施し、乳幼児でも気軽に図書館を利用しただけできるようになりました。 ・児童館等を若者の居場所として開放し、図書館を利用するきっかけとなりました。 ●実施していないこと ・来館が困難な方へのサービス（郵送貸出等）が実施できていません。 ●実施が難しいこと ・特にありません。 	⑤ <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・地域課題についての関係資料をより充実させます。 ・社会情勢や町の目指す方向など、住民の理解を深めるため、資料の展示を行います。 ・学びあい、人がつながり、活動できる人材を育成すること、町や地域の課題解決につながる様々な講座を開催します。 ●今後の課題 ・オンラインを活用した学び合いの機会の提供が必要で ・人と人がつながる仕組みづくりが必要で ・住民の自主的活動が継続する仕組みづくりが必要で ・住民の学びをコーディネートするための多様な関係者とのネットワークづくりが必要です。 ・来館が困難な方へのサービス（郵送貸出等）は、要望を把握する必要があります。 				
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	80.7%				
目標値【R6】	19.4 %														
目標値【R7】	19.6 %														

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	人と豊かな自然との共生
めざす姿	家庭のきずなほもとより、地域の人と人のつながり(きずな)を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	12	具体的な取り組み	ごみの減量化の実現	担当部署	R3：住民課、R4：交通環境政策課
内容	・循環型社会（3R）の実現のため、日野町エコライフ推進協議会等の関係団体と連携し、広報や出前講座等によりごみ減量化の啓発に努め、住民意識の向上に取り組みます。 ・資源回収に対する補助を実施するとともに、生ごみの水切りや堆肥化、プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進します。 ・家庭から出る廃食油の回収を行い、回収量拡大の啓発に努めます。				

99

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	一日一人あたり可燃ごみ量 ※可燃ごみ・・・家庭ごみの委託分、資源ゴミを除く			生ごみ処理容器購入件数（年間）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
	基準値【R1】	495 g	10 台	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
目標値【R7】	474 g			10 台									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	485	499	97.2%	10	37	100.0%							
令和5年度	481 g	485 g	99.2%	10 台	12 台	100.0%				② <ul style="list-style-type: none"> ・日野町エコライフ推進協議会等の関係団体と連携し、広報ひの、ホームページ、新聞折り込み等による周知や、出前講座等により家庭から取り回ごみ減量化の啓発を行い、住民意識の向上に取り組みました。 ・町内の各団体で実施された資源回収の取り組みや、生ごみの自家処理容器購入世帯に対し、補助を行いました。 ・プラスチックごみや包装紙等の削減、マイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進しました。 ・家庭から出る廃食油について、わたむきの里での拠点回収を実施しました。(3,850リットル) ・女性団体等と連携し、生ごみの堆肥化を実施し、生ごみ減量の取り組みを進めました。(3,293.58キログラム) 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会（3R）実現のため、引き続き町内関係団体や企業等と連携し、広報や出前講座等により、ごみ減量の啓発に努め、住民意識向上に取り組みます。 ・資源回収に対する補助を実施し新聞紙や家庭から出る廃食油等の回収量拡大の啓発に努めるとともに、マイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化、ごみの分別収集を促進します。 ・環境基本計画の策定にあたっては、多様な主体の意見を踏まえつつ、SDGsの目標達成年度（2030年）に、まちづくりの中心を担う若者世代の声を聞く機会を設けます。 	A	・KPIの一日一人あたり可燃ごみ量は、目標は達成できずでしたが、善実に重量が低下していることを高く評価します。 ・廃食油の拠点回収量が前年より450ℓ減少しています。要因を分析し、対応を検討して下さい。 ・④、⑤は基本目標、基本的方向を踏まえて検証を行います。住民が主体的に取り組む部分や自治活動、住民自らが発見し、学び、取り組むまちづくりへの道筋を検討して下さい。④において分析結果を地域に返せていないこと、住民の主体的な取組の成果と課題の共有ができていないことを検証として上げている点は評価します。住民へのフィードバック、主体的に考え行動する住民の主体性を引き出す取組を行って下さい。 ・ごみ出し問題は、全世帯に共通するテーマなので、全住民に関わる課題となります。この課題への取り組みから住民の自治への取組の可能性を引き出し、住民参加の基礎体力を育てて下さい。意識の向上だけでなく知識とともに考え行動する気風を育てて下さい。そのために、住民に必要な情報を公開し、広く共有して下さい。 ・女性会で生ごみ処理の取組を進めているが、冬場は処理機の問題から増やせない状況なので処理方法について検討して下さい。 ・分別に関する教育を行い、より多くの人を知識、意識を持って機会をつくって下さい。インセンティブでの行動変容だけではなく、知識や行動変容を導くためにも、年代やライフスタイルに応じたデータが必要とされます。
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	99.6%		
目標値【R6】	477 g			10 台									
目標値【R7】	474 g			10 台									

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	人と豊かな自然との共生
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	13	具体的な取り組み	環境保全の推進	担当部署	R3：住民課、R4：交通環境政策課、建設計画課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県、関係団体等と連携し、自然環境や野生動物等の保全・保護に努めます。 ・学校や地域、団体と連携した幅広い世代への環境学習を推進し、生物多様性への理解や環境保全の啓発に努めます。 				

数値的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	清掃活動の参加人数			河川愛護事業参加人数					取り組み状況		今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1・2】	250 人			3,870 人									
目標値【R7】	300 人			3,700 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	250	286	100.0%	3,800	2,905	76.4%							
令和5年度	290 人	289 人	99.7%	3,760 人	3,334 人	88.7%				② <ul style="list-style-type: none"> ・外来獣の捕獲により、自然環境や野生動物等の保全・保護に努めました。 ・町内関係団体や企業と連携し、住民清掃活動および広報による啓発を実施しました。 ・町内で活動している環境保全等の団体を通じ、学校や地域、団体と連携した幅広い世代への環境学習を推進し、生物多様性への理解や環境保全の啓発を行いました。 ・河川の安全で適切な利用、管理を促進するため、地域の団体に除草等を依頼し、R5年度は53団体で65万㎡で作業を実施しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・町内関係団体と連携し、住民参加の清掃活動を行うとともに、日頃から環境美化の意識高揚のため、広報による啓発を実施します。 ・学校や地域、団体と連携し、幅広い世代へ身近なことから取り組める環境学習を推進し、生物多様性への理解や環境保全の啓発に努めます。 ・自分たちの住む地域の環境づくりについて、子どもから高齢者まで多世代の取り組みを啓発します。 ・河川環境の保全に向けて、地域の団体に除草等の継続を依頼するとともに、河川への地域の関わりについて相談していきます。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・KPIの指標になっている2つの参加人数ですが、参加者の高齢化がすすんでいると思いますが、参加者の年齢がえりのために施策を工夫する必要があります。 ・清掃活動、河川愛護事業を行い、継続するために啓発や地域団体への依頼に多大な労力をかけていることが推察されます。一方で、地域の側も高齢化がすすみ、対応力が低下しています。④で評価しているように環境学習の推進が、地域活動への参画につながっていないことも判ります。活動そのものの構成・内容を変えていく必要があるかもしれません。学習から行動に変わるには段階があるので、ステップを踏んで、参画する若者を育てる工夫を行って下さい。 ・地域への関わり方が、「行政から地域に依頼する」形が大きくなっています。役場と地域の協働関係、地域の側の主体性を育む施策の工夫が必要です。 ・こみゼロ大作戦等の清掃活動を知らない人も多くいます。様々な場所へ実施し、知ってもらうことも必要です。 ・地域の大人が草を刈る姿を見せられておらず、家庭内の世代交代が進んでいない状況です。また草刈りの機が使えない若者も増えていることから、若い人が草刈り機を使えるような取組を進める必要があります。 	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①		94.2%
目標値【R6】	300 人			3,730 人									
目標値【R7】	300 人			3,700 人									

日野町暮らし安心ひとつづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	災害や危機への備えの強化
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	14	具体的な取り組み	交通安全対策と防犯体制の推進	担当部署	R3：住民課、R4：交通環境政策課	建設計画課		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、東近江地区交通安全推進会議、東近江地区交通安全協会等と連携し、交通安全教育や啓発を行い、交通安全意識の高揚を図るとともに、住民による、自主的な取り組みを支援します。 ・高齢者に対する交通安全意識を高めるため、シルバーキャラバン隊を委嘱し、街頭啓発、推進大会等の参加を呼び掛けていきます。 ・警察等の関係機関と連携し、危険度の高い通学路や生活道路等の交通安全施設の点検を行い整備に努めます。 ・警察、日野町防犯自治会との連携のもと、各地区の地域ぐるみの自主防犯団体や、学校、PTA等との協働により、人と人のつながりのなかで、顔の見える地域防犯活動を継続し、犯罪のないまちづくりを実施します。 							

68

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	刑法犯認知件数			消費相談件数			交通事故件数			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	55 件			41 件			40 件						
目標値【R7】	55 件			45 件			21 件						
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	55	81	67.9%	45	45	100.0%	21	22	95.5%				
令和5年度	55 件	112 件	49.1%	45 件	48 件	100.0%	21 件	28 件	75.0%	施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全啓発として、早朝パトロールやチラシ配布等を行いました。また、啓発看板設置を希望される自治会に配布し、地域内での啓発支援を行いました。 ・警察と連携し、シルバーキャラバン隊を認定し、活動参加を通じて交通安全への意識高揚を図るとともに、交通安全団体と連携し交通安全教室等を実施しました。 ・通学路管理者・警察・学校等と合同で学校通学路点検を行い、危険箇所の協議を行い、安全対策を実施しました。 ・各自治会から生活道路等の交通安全対策の要望を受け、点検・整備を行いました。 ・各地区自主防犯団体・学校・PTAが協力して実施する見守り活動やパトロール活動等への支援を行いました。 ・不審者情報や犯罪多発注意報等があった場合、町民に周知を図り、緊急事案は、各地区自主防犯団体へ情報提供し、注意喚起を行いました。 ・消費生活の相談に対応するため、相談員を配置しています。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故のない安全なまちを目指し、警察や交通安全団体等と連携し、歩行者の安全確保等を啓発します。 ・高齢者が当事者となる交通事故の未然防止のため、交通安全団体等と協議し、啓発します。 ・学校の通学路点検等の交通安全対策要望箇所の確認を行い、関係機関と協議し、交通安全の確保に努めます。 ・各自治会から生活道路等の交通安全対策の要望について、点検・整備に努めます。 ・地域の安全が継続して保たれるよう、交通安全や自主防犯団体等と連携を図り、若い世代にも参画いただけるよう地域住民主体の活動に対する支援を行い、安全安心で犯罪のない住みよいまちづくりを目指します。 ・消費生活相談員の配置を継続していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察をはじめとする各種団体との協力を通じて啓発を行うことに力点がある評価となっています。シルバーキャラバン隊の組織も3団体に減るなど、取組手法も見直しが必要なのではないでしょうか。取組手法の革新を検討して下さい。 ・達成したい目標と啓発の手法とが適切にマッチしているのか検証が必要です。 ・安心安全なまちづくりのために、具体的な課題を設定して、有効な手段を探して対応する必要があるのではないのでしょうか。各団体と役場の連携によって何を解決するのかなど具体的に検討を行って下さい。 ・学童へ行く子どもが増えており、見守りが必要な子どもが減っている状況なので、取組の見直しも必要です。また高齢者が安心して暮らせる見守りなどの環境づくりも必要です。 	
	KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】									①	74.7%		基本目標 基本的方向を踏まえての状況 ④ <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの成果や効果 <ul style="list-style-type: none"> ・各地区自主防犯団体・学校・PTA等が連携して実施している交通安全啓発や「子ども110番の家」等の見守り活動を支援しています。 ・通学路点検や各自治会からの交通安全対策要望箇所については緊急性を考慮し安全対策を順次実施しています。 ●実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全や自主防犯団体の活動に、若者世代の参画を進めるための啓発が不十分です。 ・シルバーキャラバン隊の募集が3地区しかできていません。 ●実施が困難なこと <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全対策について、緊急性の高い所を優先するため、数多くの要望箇所に对应しきれっていません。
目標値【R6】	55 件			45 件			21 件						
目標値【R7】	55 件			45 件			21 件						

日野町暮らし安心ひとづくり総合戦略 施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	災害や危機への備えの強化
めざす姿	家庭のきすなはもとより、地域の人と人のつながり（きすな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	15	具体的な取り組み	地域防災力の向上	担当部署	総務課	建設計画課	福祉保健課	長寿福祉課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難行動要支援者個別計画による避難支援体制の充実に努めます。 ・日野町防災士連絡会や地域の自主防災組織と連携して、防災訓練や出前講座、防災学習会のほか、実践的な訓練等の実施および地域防災マップの作成等主体的な活動を通じ防災意識の高揚を図ります。 ・地域の自主防災組織の設立や活動に対し支援します。 							

69

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	消防団員数			自主防災組織の組織数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	185 人			15 組織									
目標値【R7】	185 人			25 組織									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和4年度	185	185	100.0%	19	19	100.0%							
令和5年度	185 人	185 人	100.0%	21 組織	20 組織	95.2%				<p>施策</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の防災士育成のための補助制度を設け、地域の防災リーダーの養成に取り組んでいます。また、地域の自主防災組織の設立等のため、防災士等による相談支援や補助金制度を設けています。 ・防災士による機関紙「わたむきの灯」の発行や町の広報誌などで防災士の活動を広く啓発し、住民の防災意識の高揚を図るとともに、R5年度に出前講座の講師として41回講義を行いました。 ・法定名簿と個別計画については、毎年、対象者の更新作業を行っています。 ・台風や集中豪雨時に発生する被害に対し、迅速な対応を行います。 ・補助金や出前講座の利用を呼びかけ、防災士や自治会と連携して防災意識の形成を図っています。 ・滋賀県と実効性のある個別計画等について意見交換を行いました。また、養護学校の保護者と福祉避難所の在り方について懇談を実施しました。 <p>基本目標 基本的方向を踏まえた状況</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施したことの成果や効果 <ul style="list-style-type: none"> ・消防団が活動しやすい環境づくりのため、適正な予算執行をしました。広報紙「消防魂」の発行支援、消防団の重要性・必要性の啓発等を行いました。 ・消防団のポンプ操法訓練は、基本動作を覚えるために必要な訓練ですが、消防団員の勤務形態の変化や多様化に伴い、訓練の期間を短縮し団員の負担軽減が図られました。 ・水防計画、警備計画を策定し体制整備を図りました。 ・避難の安全性確保に向けた個別計画作成方法の検討（県との意見交換等）を行い、情報収集や対応を確立できました。 ・災害時の福祉避難所として、障がいがある方の作業所等と協力を進めるとともに、障がいがない連所や大勢の人がいる連所が負担となる方が少しでも安心して暮らせるような福祉避難所について検討を進めることができました。 ●実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の定数確保を目標に加入推進をしていますが、地域の担い手世代が減少する中で、団員確保が困難な状況となっています。 ・防災アプリの有効な活用方法の一つとして、地域での自主防災活動での活用の工夫が必要です。 ・個別計画作成対象者の基準の見直し ・避難の実効性確保に向けた個別計画作成方法の検討 ●課題が顕著なこと <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の設立や活動については、自治体ごとの取り組みの差度差があり、継続的なアプローチが必要です。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災士による機関紙「わたむきの灯」を発行するなど、防災士の役割とその活動を広く住民のみなさんに啓発する中で、防災士の業務取得を広く、防災リーダーの養成に努めます。 ・町と防災士による出前講座や防災訓練等の機会を通じて、自主防災組織の重要性等の周知理解を深めることで、地域住民の組織化や町全体の組織強化に取り組めます。 ・引き続き、活動等を通して消防団の重要性・必要性の啓発に努め、地元自治会や企業等と協力して、団員の確保を図ります。 ・防災と保健・福祉の連携促進モデルの「避難モデル」に対応できるように、個別計画の基準の見直しを研究します。 ・災害時に必要な支援は、障がい、支援者の状況、住んでいる場所等により様々であり、要支援者の状況に応じた防災対策について、要支援者やその家族等と意見交換を進め、より実効性のある個別計画や福祉避難所の在り方について検討を進めます。 ・突然発生する自然災害に対して、備えることで、迅速に対応を図ります。 <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き条例定数の団員確保に向け、消防団活動への理解をいいただけるよう説明するとともに、平時の点検活動や防災訓練、地域イベント等の協力を通じ、消防団活動への協力と理解を深め、公助としての役割を果たします。 ・自主防災活動の促進のため、引き続き防災士連絡会や自主防災組織と連携して有効な啓発方法を構築しつつ取り組みを継続します。 ・水防計画、警備計画に基づき体制を整えることで、災害に対して迅速な対応を行う。 ・消防団のポンプ操法訓練は、基本動作を覚えるために必要な訓練ですが、消防団員の勤務形態の変化や多様化に伴い、訓練の期間について幹部会において一部短縮することとなった。 ●今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・新たに適用している防災アプリの利用を、地域の防災意識の向上に結び付けていくための工夫が必要です。 ・想定以上の災害に対処するためのように対策を行うかが課題です。 ・滋賀モデルに対応できるように、基準の見直し等が必要です。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災士による町出前講座がR5には41回とR4より15回も増えるなど、防災士が地域の中で役割を果たしてくれていることが良く判りました。地域防災力の向上に資する取組として高く評価します。 ・自主防災組織の設立支援に加えて、設立後の自主防災組織の地域防災力向上がはかられるようにアフターフォローもよろしく願います。 ・地域防災力を高める取り組みの中から、「住民の活発な自治活動」を持続発展させ、次代を担う人材づくりにつなげる施策の工夫が必要です。 ・消防団員数の定数確保ができていないことは高く評価しています。また、団員の負担軽減もなされていることも評価します。 ・出前講座で石川県の被災地を見てきた実際の感触を伝える場は貴重であり、ぜひ広げて下さい。 	
KPIの達成度【KPIが複数の場合は、平均点】										①	97.6%		
目標値【R6】	185 人			23 組織									
目標値【R7】	185 人			25 組織									

6. デジタル田園都市国家構想交付金事業の検証

デジタル田園都市国家構想交付金事業の検証について

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について	
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由
1	「DX(デジタルトランスフォーメーション)」と「グリーン」「官民共創」で築くポストコロナ時代の地方都市「近江日野商人」ふるさとプロジェクト	推進交付金	29,550,923	指標① 交流人口増加(まちなか交流拠点等への来場者数増加)による経済波及効果の増加額	380	百万円	R6.3	261	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	・アプリ開発を行い、町の情報発信について新しい取組を行ったことを評価します。 ・ぐるりん日野ナビは町外の方以外にも日野の住民が日野の良さを知ること重要ではないでしょうか。 ・通勤バスの実証実験については、実施には至らなかったが、企業との間で勤労者の交通実態について意見公開を行い、これからの地域公共交通の在り方について企業と関係性を持つことができたことを評価します。 ・自転車通勤体験はCO2削減などの個別の施策の成果もあるが、健康をどうしていくかといった施策に付随する、豊かな意味を持つている施策なので、施策の工夫をするとより一層の効果が期待できるのではないのでしょうか。	事業の継続	・今後も町内周遊促進を図るため、ぐるりん日野ナビを活用し、まちの魅力を町内外のユーザーに向けて情報発信し、利用者の増加につなげます。 ・通勤バスワーキンググループ等において、今後の通勤バスの在り方や企業の通勤における課題、通勤ニーズ等について意見交換し、公共交通による通勤やCO2削減等を促進します。 ・自家用車から公共交通による通勤への転換を補完するため、企業等との継続的な取り組みを実施する中で、環境・健康にも意識した自転車通勤への転換を推進します。
指標② マイカーではない移動等によるCO ₂ 排出量の削減量	136	t-CO ₂	R6.3	5.84									
指標③ 町が提供する生活アプリのダウンロード数	2,500	件	R6.3	1,897									
指標④													
指標⑤													
2	健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト	推進交付金	9,342,572	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。								
指標②													
指標③													
指標④													
指標⑤													
3	滋賀ならではの価値ある資源と観光を掛け合わせてつくる「シガリズム」推進プロジェクト	推進交付金	6,585,610	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。								
指標②													
指標③													
指標④													
指標⑤													

※事業効果:①地方創生に非常に効果的であった/②地方創生に相当程度効果があった/③地方創生に効果があった/④地方創生に効果がなかった ※事業の評価:①総合戦略のKPI達成に有効であった/②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

7. 検証のまとめ

1) 量的 (KPI) 検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標 (KPI) について、町が定めている年度別の目標値に対する実績値の達成率についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。 (詳細は P.8~9参照)

KPIの検証結果	重要業績評価指標 (KPI)の達成度	施策数	比率
量S	100% ~ 90%以上	21施策	52%
量A	90%未満 ~ 70%以上	13施策	32%
量B	70%未満 ~ 50%以上	4施策	10%
量C	50%未満 ~ 30%以上	1施策	2%
量D	30%未満 ~ 0%以上	1施策	2%

検証した施策の中で最も多いのが量S (達成度100%~90%以上) で21施策 (52%) 次いで、量A (達成度90%未満~70%以上) が13施策 (32%) という結果になっています。

総合戦略の計画期間は、令和3年度から令和7年度の5年間であり、計画で定める年度別の重要業績評価指標 (KPI) の目標値は、計画期間の最終年度 (令和7年度) に定められています。量Sの評価の割合が高い要因は、目標値に向かって段階的に高くなっているものが多いことが挙げられます。

このほか、すでに計画期間の最終年度に定める重要業績評価指標 (KPI) の目標値を超過達成している施策もあり、当初の見込みが低く設定されていたことが考えられます。超過達成している重要業績評価指標 (KPI) は、適切な目標値への見直しが必要です。

重要業績評価指標 (KPI) の目標値の設定は、実施している施策の背景にある課題に対して、取り組み状況やその効果が読み取れるように定めます。また、目標値を達成することが基本目標・基本的方向の実現につながり、町全体がよくなるような指標となる必要があります。

一方、CもしくはD評価であった2施策は次の施策です。これらの施策は本来の目標に向け、どのような事業実施が妥当であるかをよく検討し、次年度以降の事業実施につなげる必要があります。

○ CもしくはD評価であった2施策

・(1) - 8「子どもの読書活動と学習活動の支援」 【評価C】 達成率：40.9%

KPI「授業におけるクラス別小学校図書館使用状況 (学校司書認知件数)」

目標：42回 実績：31回 (達成率：73.8%)

KPI「授業におけるクラス別中学校図書館使用状況 (学校司書認知件数)」

目標：8.7回 実績：0.7回 (達成率：8.0%)

・(2) - 7「新たな産業分野の誘致と創出」 【評価D】 達成率：0%

KPI「サテライトオフィス等施設を利用する企業の増加数」

目標：1社・団体 実績：0社・団体 達成率：0%

2) 質的（取組内容）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）だけでは計れない、取組内容の質的な充実についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。（詳細は、P.10～11参照）

質的検証結果	質的検証結果の内容	施策数	比率
質S	内容を十分に理解し、取組により達成している	0施策	0%
質A	内容を理解した取組を実施し、課題解決や達成に向けた取組ができている	6施策	15%
質B	内容を理解し、取組ができている	32施策	80%
質C	概ね内容を踏まえているが、取組が不十分	2施策	5%
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	0施策	0%

検証した施策の中で最も多いのが、質B（内容を理解し、取組ができている）で32施策（80%）、次いで、質A（内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている）が6施策の15%、および質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）も2施策の5%となりました。

質Bの評価を受けた施策は、施策の内容、基本目標・基本的方向の趣旨に沿って取組を順当に進めたことによるものと考えられます。

一方、C評価となった2施策は、重要業績評価指標（KPI）に掲げる取り組みの内部検証にとどまり、施策の取組全体における内部検証ができていなかった施策となっています。

令和6年度以降の施策の推進にあっては、単に目標値として設定している重要業績評価指標（KPI）の取り組みを展開するだけでなく、総合戦略に掲げる取り組み内容、ひいては基本目標・基本的方向を十分に理解し、めざす姿を実現するための施策の展開が求められます。

3) 基本目標別のまとめ

基本目標（1）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる

検証結果では、S（目標を達成している）が1施策（9%）A（優れている）が7施策（64%）、B（実施できている）が3施策（27%）という結果になりました。

S（目標を達成している）とされた施策

(1) - 3 「コミュニティ・スクールの導入」

A（優れている）とされた施策

(1) - 1 「安心して妊娠・出産・子育てができるための支援」

(1) - 2 「様々な保育ニーズへの対応」

(1) - 5 「地域ぐるみでの子どもの居場所づくり」

(1) - 6 「青少年の社会参画の促進」

(1) - 9 「住民の主体的な文化芸術活動への支援」

(1) - 10 「ふるさと学習の充実」

(1) - 11 「女性活躍の環境づくり」

B（実施できている）とされた施策

(1) - 4 「子育て支援のネットワークづくり」

(1) - 7 「社会教育の人材育成と活躍の推進」

(1) - 8 「子どもの読書活動と学習活動の支援」

『基本目標（1）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる』にかかる取組では、不妊治療等で苦労されている方へのより一層の精神的・経済的支援が求められています。

また、住民一人ひとりが抱えている課題について、家庭で解決していたことができない状況になっており、地域の繋がり、人との繋がりが弱まっているなか、日野で子育てできることの満足度を高めるため、どのようにアプローチできるか検討する必要があります。

民生委員など公的な役割を担う方が、悩みを抱える方とつながり、そこから地域の人をコーディネートして多くの人に関わり支える仕組みをつくる必要があります。一人で抱えないように、地域との繋がりをつくっていくことが大切です。

また、地域と繋がりが切れている若者の繋がりづくりにあらゆる部署が取り組んでいくことが求められています。

子どもたちに主体性が育たない現状や、大人になっても主体性が発揮されない状況が見られ、ボランティアの減少や地域活動と距離を置く人が増えています。様々な施策において、住民の主体性を育む取り組みが求められています。

基本目標（2）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる

検証結果では、A（優れている）が6施策（75%）、B（実施できている）が2施策（25%）という結果になりました。

A（優れている）とされた施策

- (2) - 2 「農業生産・特産品の振興」
- (2) - 3 「林業の振興」
- (2) - 4 「地域内経済循環の推進」
- (2) - 5 「創業・コミュニティビジネスへの支援」
- (2) - 6 「企業誘致の推進と工業用地の確保」
- (2) - 8 「町内雇用の促進と雇用機会の拡充」

B（実施できている）とされた施策

- (2) - 1 「農業経営・担い手育成への支援」
- (2) - 7 「新たな産業分野の誘致と創出」

『基本目標（2）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる』にかかる取組では、定年延長等により高齢者の雇用や働き方、活躍の仕方が変わってきていることから、実態把握に努め、施策のあり方を検討する必要があります。

「地域内経済循環の推進」は、重要な取り組みです。既存の統計データの整理や買い物調査など実態把握の調査等をできることから始め、住民の消費行動を分析し、住民の消費行動が、町内産業を守ることを住民のみなさんに知って頂き、行動に繋げる取り組みが必要です。

森林境界明確化事業を強力に推進するとともに、森林環境譲与税を有効に活用した取組が求められています。

日野菜生産者のやりがいと意欲を高めるために、6次産業化の取組をはじめ、新たな展開の可能性を検討する必要があります。

基本目標（3）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる

検証結果では、A（優れている）が4施策（67%）、B（実施できている）が2施策（33%）という結果になりました。

A（優れている）とされた施策

- (3) - 2 「まちぐるみのおもてなし」
- (3) - 4 「地域の移動手段の充実」
- (3) - 5 「U・I・Jターン受入の充実」
- (3) - 6 「地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信」

B（実施できている）とされた施策

- (3) - 1 「商工業の活性化」
- (3) - 3 「地域資源を活かした体験型観光の推進」

『基本目標（3）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる』にかかる取組は、地域内経済循環の概要基礎シートを作成し、把握したデータを基に、住民一人ひとりがまちへの経済効果を考えて消費行動を行うような取組が求められています。

若者が日野町で働く意欲と自信をもてるような体験に取り組むことが求められています。

農泊を、おもてなしの心で観光受入をする、町全体の基盤の一つとして位置づけることが求められています。

外国人在住者が増加していることから、UIJ ターンの受入体制の充実とともに、多文化共生の社会づくりの課題とも関連づけて施策の工夫が求められています。

おたすけカゴヤなどの住民主体の取組が数多く広がることが求められています。

基本目標（4）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる

検証結果では、A（優れている）が11施策（73%）、B（実施できている）が4施策（27%）という結果になっています。

A（優れている）とされた施策

- (4) - 1 「次代を担う人材の発掘」
- (4) - 2 「市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり」
- (4) - 3 「関係人口の創出」
- (4) - 4 「多文化共生の推進」
- (4) - 6 「食育・地産地消の推進」
- (4) - 7 「心身の健康づくり」
- (4) - 10 「障がい者の支援体制の充実」
- (4) - 11 「住民のくらしを支える知識・情報の提供」
- (4) - 12 「ごみの減量化の実現」
- (4) - 13 「環境保全の推進」
- (4) - 15 「地域防災力の向上」

B（実施できている）とされた施策

- (4) - 5 「支え合いの仕組みづくりの促進」
- (4) - 8 「高齢者のいきがいづくり」
- (4) - 9 「健康づくりと介護予防の一体化」
- (4) - 14 「交通安全対策と防犯体制の推進」

『基本目標（4）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる』にかかる取組では、多文化共生を進めるにあたり、地元企業に対するアプローチを進め、困りごとを共有し、企業の体制とも連携しながら協力して進めることが求められています。

農福連携を通じて、住民の豊かな経験や知識を生かした高齢者の生きがいづくりや地域の課題解決を進める中で障がい者への理解を深め、安心して暮らせるまちづくりにつなげることが求められています。

若者がワガゴトとして地域の課題に取り組むには高いハードルがあることから、暮らしやすい地域をつくる過程で、地域の人材として必要な作法や技術を身につけるための学びの場を創出し、まちづくり人材を育て、発掘していく取組が求められています。

4)総合戦略の 検証の実施に ついて

PDCAサイクルの確立

1年間
(4月~3月)

3月

内部検証

施策の取り組み状況や今後の取
り組みについて、基本目標や基
本的方向を踏まえて振り返り、
今後の取り組みを検討します

4月~9月

外部検証

総合計画懇話会にて、重要業
績評価指標（KPI）の量的検証
に加え、施策の取り組み内容
の充実度を評価する質的検証
を行います

執行

総合戦略に掲げる「めざす
姿」の実現に向けて、住民満
足を捉えながら施策を推進
していきます

政策能力の 向上

予算編成

さらに効果的・効率的な施策
を推進していくために、検証
結果を踏まえて来年度の施策
展開および予算を検討します

10月~2月

総合戦略の取り組みは、毎年度の
施策の取り組み状況を外部有識者
等の参画のもとに効果検証するこ
とにより、その検証結果を踏まえ
た施策の見直しや総合戦略の改訂
を行うPDCAサイクルを確立し、
取り組みを着実に推進するために
実施するものです。

5) まとめ

1. はじめに

「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略(第2期)(以下、「総合戦略第2期」と表記)」は、2021年度(令和3年度)から2025年度(令和7年度)の5年間を計画期間としています。2023年(令和5年度)は、「総合戦略第2期」の3年目でした。「総合戦略第2期」は、「第6次日野町総合計画」と同時に2021年(令和3年)にスタートしました。第1期の「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」は、1年延長して6年間の取組を行いました。6年間の絶え間ない検証結果を踏まえ、施策の統合などの見直しを行い、現在の国の総合戦略の柱立てに対応しながら、第2期計画が策定されました。

本報告書は、四つの基本目標、40本の施策の検証を行っています。40本の施策につきまして、「量的検証」と「質的検証」を行い、その合計点を検証結果としています。そして、四つの基本目標につきましては、40本の施策の検証結果を踏まえて、総合的な評価を行いました。本報告書は、検証結果を数値化していますので、多くの人々がその「数値」とその変化に注目していることでしょう。数値化によって取組の成果とその変化を捉えやすくなります。検証の過程では、数値的な変化だけではなく、行政の内部検証詳細に検証し、主管部署からの説明とヒアリングを通じて取り組みの在り方も検討してきました。本報告書の最後に、総合計画懇話会(以下、懇話会)による検証の過程と検証結果から見てきた今後の課題について、若干のコメントを記して、まとめにかえたいと思います。

2. 評価方法について

本報告書の検証結果は、総合戦略に関わる施策がどの程度成果を上げているのかを総合的に評価するために、「量的検証項目として重要業績評価指標(KPI)(以下、KPIとする)の達成度の評価」と「その施策の中身がどの程度充実したものであったのかを4つの観点から評価する質的検証項目の評価」を行い、これら量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。この評価方法は、数値で測れる「外形的な達成度」にとどまらず、「質的・内容的な充実度」も検証しようとする工夫です。一般的に、KPIを設定するとその達成度に目が行きがちですが、設定された数値目標の達成にとどまらず、施策の質的・内容的な充実を図り、効果的な施策の展開をすすめて欲しいので、このような量と質の両面からの評価方法を取り入れました。つまり、公共サービスがどの程度供給されたのかという供給量だけでなく、その供給された公共サービスはどのような内容であったのかを検証して、質的な向上・内容の充実をあわせて評価し、量と質を統合した総合評価をしています。

具体的には、KPIの達成度で測る量的評価(満点10点)、四つの検証観点からの質的評価(1観点5点満点の4つの観点、満点20点)の二つの評価点を出し、その量的検証と質的検証の合計点数によって、5段階の「検証結果」としました。量的検証10点と質的検証20点と配点し、質的検証の配点を2倍にしています。しかし、例年、KPIの達成度が高けれ

ば、検証結果も高い評価を得ています。質的検証で難があっても、KPI が高得点であれば、高い評価を受けている場合もあります。

施策の総合評価には、量的評価と質的評価という異質な検証結果の合計点数を使っており、施策の評価には少し注意が必要ですが、これまでおこなってきた町役場による内部検証を踏まえた、懇話会による外部検証を継続するのであれば、適切な評価を行うとともに、施策の改善も図ることが出来るのでは無いかと考えます。

3. 予算への反映と今後の改善への取り組み

先に述べましたように、量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっていません。それらの結果は「3. 基本目標別検証結果」において、「基本目標別量的 (KPI) 検証結果 (p8)」「基本目標別質的 (取組内容) 検証結果 (p10)」の二つの総括表とこの二つの数値を合算した総合評価結果である「基本目標別検証結果 (p16)」としてまとめてあります。初年度 2021 年 (令和 3 年) 度から 2023 年 (令和 5 年) 度までの数値が入っていますが、今後第 2 期の 5 年間の検証結果の数値が入り、全体の動向を掴めるように工夫しています。

具体的に検証結果を見てみましょう。「基本目標別量的 (KPI) 検証結果」をみますと、40 施策のうち、「量 S」は 21 (前年比 3 減)、「量 A」は 13 (前年比 2 増)、「量 B」は 4 (前年比 2 増)、「量 C」は 1 (前年比 1 減)、「量 D」は 1 (前年比同数) となっており、多くの施策が量的な目標は達成していました。

第 1 期の検証においても、KPI の値が高いと総合評価も高い評価を得られる傾向もありましたので、KPI 設定の適切さは検証において重要なポイントとなります。KPI 設定の適切さには、二つの観点からの適切さを考えなければなりません。第一の観点は、施策の指標としての適切性の観点です。施策の事業効果を表す指標として適切であるのかどうかをしっかりと考える必要があります。事業実施体制の整備や事業実施の利用者数などアウトプットを示す KPI 指標もありましたが、アウトプットの KPI にとどまらず、事業効果の実質を表すアウトカム指標を導入することが必要です。アウトプットの KPI の場合、供給体制の整備を行うだけで目標が達成されてしまいます。測定されるべきことは、その公共サービス供給体制によって、住民の福祉が向上したのかどうなのかが測定されなければならないでしょう。または、その事業の住民満足度を直接測るか、住民満足度の向上を示すような代替りの指標を設定することも考えられます。アウトプットよりアウトカムの指標を設定することが適切ではないでしょうか。第二の観点は、設定された指標の数値目標が、事業効果を測る水準として適切であるかを考える必要があります。目標値が低ければ、達成は容易であり、目標値が実態とかけ離れて高すぎれば、達成は困難になり、せっかくの取り組みの成果が見えにくくなってしまいます。

次に、「基本目標別質的 (取組内容) 検証結果」をみますと、40 施策のうち「質 A」は 6 (前年比 4 増)、「質 B」は 32 (前年比 4 減)、「質 C」は 2 (前年比同数) となっています。施策の 15% は「質 A」の「内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組み

みが出来ている」、80%は「質 B」の「内容を理解し、取り組みができています」との判定でした。今後も引き続き、取り組みの質的な向上を期待します。

そして、量的評価と質的評価を合計した総合評価を見ますと、40 施策のうち「総合評価 S」が1施策（前年比1増）、「総合評価 A」が 28施策（前年比 4 増）、「総合評価 B」が 11 施策（前年比5減）、「総合評価 C」が 0 施策（前年比同数）となっています。

検証を行い、アウトプット指標が多く、目標値が少し低いのではないかとと思われる KPI も散見されます。また、内部検証が KPI の達成を目標に施策を展開しているように見受けられる事例も散見されました。基本目標を見失うことなく、施策に取り組んでください。

今回の総合戦略の評価は、量的評価と質的評価の両面から評価するので、量的にも質的にも事業の進展を評価することが出来ていると考えられます。また、四つの観点からの内部検証を行う内部検証作業を通じて、事業を担当する職員の皆さんには施策の広がりと深さを考えてもらう工夫として導入しています。過去の検証期間も含めて、外部検証のコメント等を日常の施策の改善に活かしてください。そうしたことを通じた、行政の政策能力の向上を期待します。

以上のことから今後の取り組みと検証に活かして欲しいことを 4 点あげます。

① KPI の適切さの検証

KPI については国・県の総合戦略の改定に合わせて考え方の整理を行っていると思料しますが、KPI の適切さを検証し、施策の展開を再考してください。KPI を超過達成している施策も幾つか存在しており、当該年度の前進がなくても 100%達成で 10 点となっている施策もありました。また、内部検証が KPI に引きずられた検証になっている施策は、施策の取り組み内容を吟味して検証してください。施策の取り組み内容は KPI の向上に直接つながる取り組みだけではないことを理解してください。

② 施策のアウトカムや住民の実態を的確に掴む

KPI がアウトプット指標になっている施策は、アウトプットの達成度に関心が集中してしまうでしょうが、施策のアウトカムにも注目してください。施策のアウトカムとして、施策の取り組みが、どのようなところにどのような「変化」をもたらすのかを考えながら施策を工夫し展開してください。その変化の広がりや深さに想像力をめぐらせて、施策のアウトカムを掴む力を養ってください。

住民の実態を的確に掴むために、住民の実態を把握する想像力やアンテナを張り巡らせてください。住民の実態を的確に掴むセンスまたはセンサーが求められます。例えば、子育て施策でファミサポの利用に関わる項目がありましたが、利用者数が減少しているのですが、自分達でファミサポを通さずにやっていると言う実態を見過ごす展開する施策は異なってくるでしょう。より広く担い手概念を変えて現実を見なければならず、実際の動きを的確に掴む必要があります。

一方、住民からは「情報発信が足りない」との声を多数聞くのですが、それに比し

て、職員側では「情報発信は重要」との認識が弱いように思われます。行政情報の発信から住民の行政サービスの受容に至る全体像を知り、情報発信が政策効果につながるように工夫をしてください。あらゆる施策にまちづくりの意識をめぐらして、施策の工夫を行ってください。例えば、不妊治療の支援策一つを取ってみても、当事者の声や気持ちをキャッチするのは容易なことではないでしょう。住民との接点を大切にすることは、住民の実態やニーズを的確に掴むセンスまたはセンサーを身に付ける第一歩となるでしょう。新しい発想でまちづくりの可能性を追求してください。

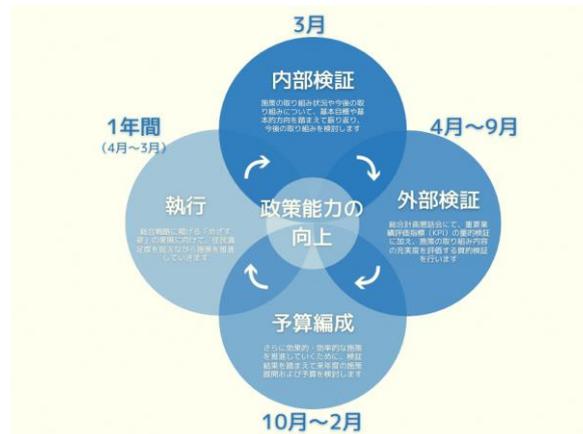
③ 住民の実態やニーズ、実態調査を踏まえた政策研究と行政の政策能力の向上

住民の実態やニーズを的確に掴むセンスまたはセンサーを身に付け、施策のアウトカムを掴めると施策も一層の工夫が出来るでしょう。基本目標④の No.6「食育・地産地消の推進」では、5歳児食育事業で保護者アンケートを行い、保護者の意識を掴もうとしています。調査の結果、「半数以上の保護者が国産・地場産を意識して選んでいる」ことが判りました。こうしたデータは、広く公開されて活用することで、その意識をターゲットにした地域内経済循環を構築する取り組みを検討するなどにも施策は広がっていくでしょう。こうした具体的な調査を行い、住民の意識や実態を掴むこと、そのデータを活かすことが重要になってきていると言えるでしょう。実態把握に基づいた政策研究を行い、行政能力の向上を図ってください。

内部検証を通じて、行政の政策能力の向上を図るために、組織的な取り組みを行ってください。とりわけ、「デジタル田園都市国家構想交付金事業調整会議」「重層的支援体制庁舎内施策連携推進会議」「政策連携会議」を核とした組織的な取り組みを進めてください。こうした組織的な取り組みは、行政組織の縦割りの強みを活かしながらも、行政内の連携を強めること、行政内部のデータを相互に活用することなどを進め、行政の政策能力の向上に繋げてください。

④ 予算編成への反映

本懇話会は、2023年(令和5年)度分の検証を10月から始まる予算編成に反映させるために例年よりも時期を早めて検証を行ってきました。本報告書は10月に発行予定ですが、来年度予算編成に反映してください。内部検証の各部署への説明段階から予算への反映についても説明を行ってきました。検証結果を次年度予算編成に反映し、日野町役場の政策能力の構築と効果的な事業の展開を図ってください。



4. 人口動態と総合戦略

日野町の人口動態を見ておきましょう。日野町の人口は、2024年8月末現在で2万762人でした。2020年8月末現在で2万1,355人でしたから4年間で593人の減少となります。

総合戦略は、人口減少に歯止めをかけることを目的としたものです。今回の検証からは施策は、概ね順調に進んでいると評価できるものでしたが、人口減少は進んでいます。この二つの事実を事実として認識しなければいけません。この事実を真摯に受け止めることが必要です。また、この二つの事実から「総合戦略は人口減少の歯止めになっていないのではないか」との見方をされる人もいるでしょう。またある人は、「施策が概ね順調に進捗しても人口減少がすすむのは、施策や戦略の立て方が間違っているのではないかと考える人もいるでしょう。しかし、そのような単純化した推測が難しいのが現実でもあります。単純化できない三つの理由があります。

第一の理由は、日本の出生数減少の現実です。2023年の全国出生数は、72万7288人で過去最少を更新、2022年77万759人より4万3471人、2021年の81万1622人より8万4334人の減少、2020年の全国出生数84万835人に比べて11万3547人減っています。減少は8年連続でした。2020年に政府の推計よりも3年早く84万人台に突入していますが、急速に全国の出生数が減少しています。さらに、婚姻件数は47万4741組で昨年の50万4930組から3万189組の減少でした。新型コロナウイルスの影響も重なり、日本の少子化が加速している状況にあります。全国の出生数が、8年連続で100万人を割り込み、2022年について80万人を割り込みました。80万人割り込みは、国立社会保障・人口問題研究所の推計では2033年とされていたので、11年の前倒しとなりました。更に、出生数の減少が続いています。こうした全国の状況下で日野町だけが出生数が飛び抜けて増えるのかと考えるのは幻想ではないでしょうか。

第二の理由は、日本全体の少子化・高齢化のなかで、日本中の市町村が総合戦略に取り

組んでいるのですから今や人の奪い合い状態に陥っているという状況にあるという事実です。人口増を実現するのは困難な仕事です。

第三に挙げられる理由は、「総合戦略の成果」が強力な磁場となり、人々を引きつけ、日野町の人口増（自然増と社会増）に直接的な結果としてあらわれるとはなかなか言いがたいところがある点です。総合戦略にできることは、「総合戦略の成果」によって、住みやすい日野町、住み続けたい日野町でありつづけることで、人口流出の抑制やUIJターンなどの移住者を増やすこと、子育て世帯を支えることで、子育てのしやすい環境をつくり、出生増につながる基本的な環境をつくりだすことなどでしょう。そうしたことを実現することにこそ、人口減少に立ち向かう基本的環境を整える総合戦略の果たすべき役割であると言えるでしょう。

5. 今後の総合戦略を進めるに当たっての提言

日本全体が少子化と人口減少に歯止めがかからない中で、農村的な地域の地方自治体において、少子化と人口減少はより一層深刻な問題です。総合戦略は、少子化と人口減少に直面する日野町にとって、住みよいまちづくり、住み続けたいまちづくりのためにも重要な施策となっています。今後、総合戦略の事業効果を高めるための4つの提言を行います。

① 地域経済の質的転換を目指す。

基本目標②は、「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」というものです。この基本目標②において、「基本目標・基本的方向等を踏まえての状況」の内部検証が、基本目標・基本的方向等を十分に踏まえられていないものが散見されました。基本目標・基本的方向等を十分に踏まえた検証と今後の施策の工夫を行ってください。しかし、踏まえられていないのには理由があると推察します。この基本目標の中で、施策 No.4 は、「地域内経済循環の推進」というものであり、基本目標②の中でも最も重要な施策とも言えるでしょう。しかし、施策 No.4「地域内経済循環の推進」の取り組みの最大の弱点は、地域内経済循環の実態把握が弱いことです。地域内経済循環の実態が十分把握できていないので、他の施策も目指す姿を十分に踏まえることなく、施策を展開しているように見受けられます。外部検証でも指摘していますが、既存のデータの分析や買い物調査など出来るところから実態調査で地域経済の実態を掴むことが重要です。基本目標③の No.1「商工業の活性化」において、クーポン券やリフォーム促進による地域内経済循環の概要基礎シートを作成し、基本目標④の No.6「食育・地産地消の推進」では、5歳児食育事業で保護者アンケートを行い、「半数以上の保護者が国産・地場産を意識して選んでいる」ことが判りました。こうした住民意識を踏まえた施策を検討することも可能でしょう。地域内経済循環の実態を把握し、基本目標の目指す姿を踏まえて施策を展開するように努めてください。

② 住民自治の質的転換を目指す。

基本目標④施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」、施策 No.8「高齢者のいきがづくり」は、これからの地域における住民自治のバージョンアップを促すきっかけになると思われます。例えば、施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」は、直面している地域課題に対応しようとする新たな住民の自治活動の領域が広がろうとしています。基本目標④施策 No.8 は、基本目標④施策 No.5 とも関係しており、重層的支援につながるような施策の工夫がなされていくと、従来の地域自治活動を基盤としながらも、新しい地域自治活動が育まれることが期待できます。新しい地域自治活動を育む、地域自治活動の質的転換が必要となってくるでしょう。

③ 担い手育成に努める。

定年延長により地域の担い手が不足しているとの声は全国で聞かれます。日野町も例外ではありません。地域の担い手不足に直面しながら「住民自治の質的転換を目指す」ことは容易なことではありません。地域の担い手不足に直面しながらも「住民自治の質的転換を目指す」ためには、基本目標④施策 No.4「多文化共生の推進」、基本目標④施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」、No7「心身の健康づくり」の取り組みは鍵となるかもしれません。内部検証の中で、質的転換の芽を見いだすことができます。施策 No.5 にでてくる「生活支援コーディネーター」、施策 No7 にでてくる「健康推進員」などは、地域における担い手育成の起点になるのではないのでしょうか。基本目標①施策 No.4「子育て支援のネットワークづくり」の中などで感じたのですが、若者や子育て中の若い世代へのボランティアの掘り起こしにつながる取り組みが弱いように感じられます。担い手の育成の前段階として、若者や子育て中の若い世代におけるボランティアを掘り起こす工夫を行って下さい。その工夫は、住民の実態やニーズを的確に掴むセンスまたはセンサーを活かして見つけてみましょう。例えば、基本目標④No.4「多文化共生の推進」において、語学講座にボランティアの人が来ていることも触れられていました。この施策は、ボランティアを育成する施策では無いですが、このボランティアさんは新しい多文化共生の地域コミュニティづくりの重要な人になるかもしれません。行政施策で接点のある住民の皆さんの力を借りることは次世代の担い手を育てることにつながるでしょう。

④ 他の施策との連携と施策の総合性を意識した事業展開を図る。

本年度の検証における住民委員の議論には、他の施策との連携と施策の総合性についての興味深い議論もありました。例えば、基本目標④No.4「多文化共生の推進」において、日野町内の企業との連携を進めることも可能ではなかろうかとの意見も出されました。在住外国人の方の定住化も想定して、長期的な視野で多文化共生社会づくりにあたらねばならないでしょう。そのように考えると日野町内の企業に働き、日野在住の外国人の方との多文化共生の推進に当たって、企業内の相談窓口や企業の通訳の方との役

場との連携協力を進めると多文化共生社会づくりに資するでしょう。また、図書館が主管となっている基本目標④No11「住民のくらしを支える知識・情報の提供」の取り組みの検証の際に、在住外国人向けの多言語の資料の収集も行われています。工業団地に移動図書館が行くときに、多言語の資料も持っていくなどしてみても良いでしょう。このような住民委員から出てくるアイデアを次々に生み出す組織的な工夫が求められます。総合戦略の施策の中には、相互に関連性が高い施策があります。外部検証でも具体的に相互関連性が高い施策は指摘をしています。他の施策との連携と施策の総合性に着目した事業展開が求められます。そうした取り組みを生み出す場としても、役場内の「政策連携会議」には大いに期待しています。役場内には「政策連携会議」をもち、第6次総合計画の効果を高める取り組みを行っていると聞いています。総合戦略においても、「デジタル田園都市国家構想交付金事業調整会議」「重層的支援体制庁内施策連携推進会議」「政策連携会議」を核とした組織的な取り組みを進めてください。施策間の連携を強め、施策の総合性を意識し、施策を革新するイノベティブな事業展開ができるように工夫を行って下さい。

以上

8. 資料編

1) 用語解説

用語	解説
K P I	「重要業績評価指標」という意味の英語「Key Performance Indicator」の略語であり、目標の実現にあたって、業務の進捗状況や成果の評価に用いる指標のこと。
U I Jターン	地方から都市へ移住したあとに再び地方へ移住するUターン、地方から都市または都市から地方へ移住するIターン、地方から都市へ移住したあとに地方近くの中規模な都市へ移住するJターンの総称のこと。
超高齢社会	65 歳以上の人口の割合が全人口の 21%以上を占めている社会のこと。
PDCAサイクル	Plan-Do-Check-Action の略称。Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。
ワーク・ライフ・バランス	やりがいのある仕事と充実した私生活を両立させるという考え方。仕事と生活の調和。
コミュニティ・スクール	学校と保護者や地域の人たちとともに知恵を出し合い、学校運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みのこと。学校運営に地域の声を積極的に生かすことで、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めていくことができる。
ファミリーサポートセンター	子育ての手伝いをしてほしい人（依頼会員）と子育てのお手伝いができる人（協力会員）が会員登録し、センターのアドバイザーが橋渡し役となって、会員同士が子育てを応援しあう組織のこと。
放課後児童クラブ	小学校および特別支援学校小学部に就学している児童の保護者が労働等により昼間家庭にいない場合に、家庭に代わる生活の場を確保し適切な遊びや指導を行うことにより、その児童の健全な育成を図ることを目的としている場のこと。学童保育所。

用語	解説
放課後子ども教室	子どもたちの安全・安心な居場所をつくるため、学習支援員（地域住民）の協力のもと、子どもたちに勉強やスポーツ等、地域住民との交流の機会が提供されている。
人・農地プラン	集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための未来の設計図のこと。
おさんぽカード	日野町商業協同組合が発行するカードのこと。組合加盟店での商品の購入や飲食等によりポイントがたまる。
コミュニティビジネス	地域住民自らが地域の課題解決に取り組み、やがてビジネスとして成立させていくことであり、地域コミュニティの元気づくりの事業活動のこと。
社会的責任（CSR）	収益を上げ、法令を遵守するだけでなく、人権や環境問題への配慮、地域社会への貢献を行うなど、企業が市民として果たすべき責任のこと。
サテライトオフィス	企業本社や団体の本庁舎・本部から離れたところに設置されたオフィスのこと。
交流人口	定住人口とは異なり、通勤、通学、文化、スポーツ、買い物、観光などの人々の交流により、地域の活性化に結び付く人々のこと。
デマンドタクシー	指定の場所から目的地まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望に、バス並みの料金で利用できる公共交通サービスのこと。
SNS	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略語であり、友だちなどと繋がり、文章や写真、動画などで自分を表現したり、コミュニケーションするサービスのこと。
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と継続的に多様に関わる人のこと。

用語	解説
リモートワーク	従業員がオフィスに出社することなく、会社以外の遠隔の場所で業務を行うこと。
二拠点居住 (二地域居住)	都会に暮らす人が、一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすこと。
ワーケーション	「ワーク (work) 」と「バケーション (vacation) 」を組み合わせた造語であり、観光地やリゾート地でリモートワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のこと。
多文化共生	国籍や民族の異なる市民同士が互いに違う文化を尊重し合いながら対等な関係で共に生活していくこと。
3R	ごみの発生や資源の消費をもとから減らすこと (Reduce)、繰り返し使うこと (Reuse)、資源として再び利用すること (Recycle) の総称。
アウトプット (指標)	施策・事業そのものの結果 (を表す指標)
アウトカム (指標)	施策・事業の実施によって得られる効果・成果 (を表す指標)

日野町のキャラクター



2) 日野町総合計画懇話会の開催

実施日	実施内容	場所
令和6年 5月17日	第1回総合計画懇話会	日野公民館 ホール
令和6年 5月31日	第2回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和6年 6月21日	第3回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和6年 7月 1日	第4回総合計画懇話会	林業センター ホール
令和6年 7月26日	第5回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和6年 8月 9日	第6回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和6年 9月20日	第7回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室

3) 日野町総合計画懇話会委員名簿

※敬称略

委員区分	氏名	所属・推薦団体等
学識経験者	会 長 只友 景士	龍谷大学政策学部教授
団体等推薦	副会長 山本 身江子	日野町地域女性団体連合会
	福井 美智子	農業関係団体
	齊藤 雅史	日野町企業協議会
	間瀬 克	日野町青年代表
	本居 節子	子育て関係代表

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期）

— 人と人がつながりいきいきと輝くまち —



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期） 施策検証結果報告書（令和5年度）

令和6年（2024年）10月

【発行】日野町総合計画懇話会
事務局 日野町企画振興課
〒529-1698 滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地
電話：0748-52-6552
FAX：0748-52-2043
